

独立行政法人 国立病院機構

# 別府医療センター附属大分中央看護学校

National Hospital Organization Beppu Medical Center-Oita Chuo Nursing School

## 閉校記念誌

1992 ▶ 2024





独立行政法人 国立病院機構

## 別府医療センター附属大分中央看護学校

National Hospital Organization Beppu Medical Center-Oita Chuo Nursing School

# 閉校記念誌





独立行政法人 国立病院機構

別府医療センター附属大分中央看護学校







*National Hospital Organization  
Beppu Medical Center-Oita  
Chuo Nursing School  
1992 ▶ 2024*



# CONTENTS

巻頭言	6
教育理念・校章の説明	9
校歌	10
学校の外観	12
学校風景	14
歴代学校長	16
歴代副学校長	17
歴代教育主事	18
現学校運営委員	19
現学校職員	20
歴代学校職員・運営委員一覧表	22
学校の概況	
学校のあゆみ	36
組織図	37
諸会議	38
看護学校見取り図	39
学生宿舎見取り図	40
33年のあゆみ	41
学則	46
授業科目・単位数及び時間数	51
教育理念・教育方針・教育目的・教育目標	56
教育内容の概要(現行)	62
学年別教育目標(現行)	70
講師一覧	72
学生の動向 1) 応募・入学状況	104
学生の動向 2) 卒業生就職・進学状況	106
学生の動向 3) 国家試験合格状況	108
実習施設の状況	109
学習状況	115
自治会会則	125

閉校に寄せて	
歴代学校長	130
歴代副学校長	134
歴代教育主事	138
現学校職員	140
各回生の思い出	
1回生～33回生	146
卒業記念品	163
同窓会	
同窓会会長	167
同窓会会則	168
国立別府病院附属看護学校校歌	170
国立療養所西別府病院附属看護学校校歌	174
別府の風景	176
編集後記	178





## 巻頭言

別府医療センター附属大分中央看護学校

学校長 末永 康夫



別府医療センター附属大分中央看護学校が令和7年3月をもって閉校することを、ここにご報告いたします。70年以上にわたり、本校は医療現場に貢献する多くの看護師を育成してきました。1948年の創立以来、教育内容や施設も時代と共に変化しながら、常に「看護の心」を大切に続けてきました。その心とは、患者様の痛み寄り添い、信頼と安心を提供する姿勢です。本校での学びを通じて育まれたこの姿勢は、全国各地で活躍する卒業生の皆さんの中に根付いています。地域医療の発展に対する深い思いとともに、私たちはその価値を次代に伝えたいと願っています。

教育の礎として、本校は多くの経験を通じて「看護師としての誇り」と「患者様を理解し、共感する力」を大切にしてきました。特に別府医療センターでの臨床実習においては、患者様とのふれあいや、実際の医療現場での実習が学生たちの学びの柱となりました。こうした経験を積み重ねることで、卒業生は優れた看護技術と、他者への思いやりを備えた看護師として成長していきます。その後も、同窓会「葉月会」の支えのもと、全国各地でその知識と技術を活かし、医療に貢献していることは本校の誇りです。

閉校後、本校の看護教育の精神は、別府大学看護学部を引き継がれることとなります。2022年に別府医療センターと別府大学が協定を締結し、次代の看護師育成を共に担っていくことが決まりました。この新たな学部では、地域に根ざした看護教育と高度な実践力をもった看護職の育成を目指し、これまで以上に連携が深められ、教育環境も充実することが期待されています。本校で築かれた「患者様に寄り添う看護の心」と「看護師としての高い倫理観」は、変わらぬ価値として新たな世代に受け継がれていくことでしょう。

この記念誌は、私たちが歩んできた歴史と、支えてくださった多くの方々への感謝の証です。教職員の熱意、地域の皆様からの支援、そして多くの卒業生が現場で見せてきた真摯な姿勢は、本校の礎を築き上げてくださいました。皆様の支えがあつてこそ、本校はここまで歩んでくることができました。すべての皆様に、心より感謝申し上げます。

閉校は一つの区切りではありますが、本校で学んだ看護の精神が、未来の看護職育成に継承され、地域と医療を支える大きな力となることを願っています。この長い歴史の一端が、未来へと続く確かな道しるべとなることを信じ、ここに閉校の挨拶とさせていただきます。

## 紡がれる灯火と看護の未来

別府医療センター附属大分中央看護学校

副学校長 川中 博文



七十八年という長きにわたり、地域の医療を支えてきたこの看護の学びの場が、その幕を閉じることとなりました。その歴史を振り返ると、多くの若い人たちがここで学び、命と向き合う尊い職業へと羽ばたいていったことに、深い敬意を抱かずにはられません。

閉校の背景には、県内の看護師需要減少の予測、さらにはコロナ禍による医療経営の逼迫といった厳しい外的環境の変化が影響しています。しかし、それだけが原因ではなく、学校運営の将来構想がVUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代に十分適応できなかった面もあるのではないかと感じます。とはいえ、看護師不足が深刻化している地方において、この閉校の影響は計り知れません。地域医療の担い手を育成する場を失うことは、医療関係者にとっても地域住民にとっても大きな打撃です。幸いにも、絶妙のタイミングで別府大学看護学部の誘致が決定しました。この予測困難な時代においても、質の高い看護を提供できる未来の看護師の育成が期待でき、地域医療を支える大きな力となってくれるのではないのでしょうか。

この学びの場を支えていただいた職員の皆様、別府医療センターをはじめ地域の医療機関の皆様には、心からの感謝を申し上げます。皆様のご尽力があつてこそ、この場は七十年以上にわたり、地域医療に貢献することができたと思います。そして、五千名を超える卒業生の皆様には特別な感謝を申し上げます。皆様の努力と献身が、地域だけでなく日本全国の医療を支え医療の発展に多大な貢献を果たしてきました。その足跡は、決して消えることはありません。今後もその知恵を生かし、社会の健康と福祉に尽力してくださることを期待しています。そして、大分中央看護学校が紡いできた感性や使命は、今後も新しい学生たちに受け継がれ、日本の医療の未来を形作ると信じています。

閉校は決して終わりではなく、新たな出発点です。この歴史を胸に、私たちは別府大学看護学部とともに次の一步を踏み出していきます。今後も看護教育へのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、これまでのご支援に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。





# 教 育 理 念

本校の教育は、豊かな人間性と、自ら進んで学習する能力を備えた、独立行政法人国立病院機構と社会に貢献できる質の高い看護の実践者を育成することを目指す。



デザイン 井上 寛七

## 校 章

形は九州における太陽と海（波）、温泉、それに別府市の花、オオムラサキからのイメージで、世界に広がる愛、母なる（暖かい）愛を表現しています。（平成9年制定）

太陽 … 愛、熱い心、輝き、暖かさ、母

海 … 深さ、広さ

波 … 世界への広がり、連続

# 愛とまことと

ゆっくりと 静かに  
Andante (♩=80)

詩 首藤三郎  
曲 河野敦朗

The musical score is written in 4/4 time with a key signature of two flats (B-flat and E-flat). It consists of a piano introduction, a vocal entry, and several stanzas of lyrics. Dynamics include piano (*p*), *cresc.*, *mf*, and *dim.*

**Lyrics:**

1. ひと は だれでも いつか きずつ  
 の つちから かおた すみと  
 とし- いける ものたちの た-

いっか つか れる そんな おお  
 り よひか わす と り かけがえの なー  
 め わたし はつ く す あすへの いの

く の ひとたちの た-め わたしたちは まな  
 ち いのちの た-めに  
 ち かがやかす た-め

心 あいと まことと かんごのこころ

1. 2. *p* | 3. *mf*

を を あいと まことと かん

2. はる  
3. いき

*dim.*

こ の こ こ ろ を

*dim.* *p*

*rit.* *pp*

## 愛とまことと

詩 首藤三郎  
曲 河野敦朗

人はだれでもいつか傷つく  
いつか疲れる  
そんな多くの人たちのため  
私たちは学ぶ  
愛とまことと看護のこころを

春の土から顔出すみどり  
呼び交わす鳥  
かけがえのないいのちのために  
私たちは学ぶ  
愛とまことと看護のこころを

生きとして生けるものたちのため  
私をつくす  
あすへのいのちかがやかすため  
私たちは学ぶ  
愛とまことと看護のこころを  
愛とまことと看護のこころを









*National Hospital Organization Beppu Medical Center-Oita Chuo Nursing School*

# 学校風景



学校外観



ヒポクラテスとナイチンゲール



学校正面玄関



ナイチンゲール誓詞



玄関ホール



ナイチンゲール銅像 燭台



学生ホール





実習室



情報処理室



在宅看護実習室



在宅看護実習室



母子実習室



図書館



自習室



学生寮 (鶴見)



学生寮 (居室)



## 歴代学校長



初代学校長  
家永 睿



第二代学校長  
赤嶺 康夫



第三代学校長  
武藤 庸一



第四代学校長  
酒井 浩徳



第五代学校長  
矢野 篤次郎

## 歴代副学校長



初代副学校長  
堀田 潮



第二代副学校長  
天野 豊子



第三代副学校長  
中村 雅子



第四代副学校長  
清岡 佳子



第五代副学校長  
石井 南美穂



第六代副学校長  
西村 由紀子



第七代副学校長  
渡部 京子



第八代副学校長  
太田原 裕美



第九代副学校長  
扇 玲子



第十代副学校長  
本松 美和子

## 歴代教育主事



天野 豊子



皮野 さよみ



山下 清美



扇 玲子



河口 朝子



白水 麻子



岸田 佐智子



今村 嘉子



深野 久美



西山 ゆかり



大野 美穂



石原 尚美



朝月 真由美



渡邊 真弓



首藤 真奈美



村上 由紀



## 現学校運営委員



事務部長  
(管理課長)

森 貴史

副学校長  
(副院長)

川中 博文

教育主事

村上 由紀

事務部長

大城 英作

学  
校  
長  
(病院長)

末永 康夫

教育主事

渡邊 真弓

事務主任  
(庶務班長)

山梨 祥吾

看護部長

辻丸祐規子

## 現学校職員



村上 由紀  
教育主事

大道 真理  
教員

寺川 孝枝  
教員

杉安 久美  
教員

野中 智恵  
教員

山田 祐子  
教員

平川 真紀  
教員

高木 雅弘  
教員

田尻 朝恵  
教員

渡邊 真弓  
教育主事

## 現学校職員



横山 鮎美  
教務助手

原田千恵子  
教務助手

安森 留美  
教務助手

須田 頌子  
事務助手

矢治多恵子  
事務助手



# 歴代学校職員・運営委員一覧表

## 歴代学校職員

			平成 4 年度	平成 5 年度	平成 6 年度	平成 7 年度	平成 8 年度	平成 9 年度	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	
学校長	家永 睿	平成4年4月～平成9年3月	○	○	○	○	○							
	赤嶺 康夫	平成9年4月～平成18年3月						○	○	○	○	○	○	
	武藤 庸一	平成18年4月～平成27年3月												
	酒井 浩徳	平成27年4月～平成31年3月												
	矢野篤次郎	平成31年4月～令和6年3月												
	末永 康夫	令和6年4月～令和7年3月												
副学校長	堀田 潮	平成4年4月～平成7年3月	○	○	○									
	天野 豊子	平成7年4月～平成11年3月				○	○	○	○					
	中村 雅子	平成11年4月～平成13年3月								○	○			
	清岡 佳子	平成13年4月～平成15年3月										○	○	
	石井南美穂	平成15年4月～平成18年3月												
	西村由紀子	平成18年4月～平成24年3月												
	渡部 京子	平成24年4月～平成26年3月												
	太田原裕美	平成26年4月～平成29年3月												
	扇 玲子	平成29年4月～令和2年3月												
	本松美和子	令和2年4月～令和5年3月												
	末永 康夫(兼務)	令和5年4月～令和6年3月												
	川中 博文(兼務)	令和6年4月～令和7年3月												
	教育主事	天野 豊子	平成4年4月～平成6年3月	○	○									
		皮野さよみ	平成6年4月～平成14年10月			○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成22年4月～平成24年3月														
山下 清美		平成6年10月～平成14年3月			<10	○	○	○	○	○	○	○		
扇 玲子		平成14年4月～平成17年3月											○	
河口 朝子		平成15年4月～平成19年3月												
白水 麻子		平成17年4月～平成18年3月												
岸田佐智子		平成19年4月～平成23年3月												
今村 嘉子		平成20年4月～平成22年3月												
深野 久美		平成23年4月～平成28年3月												
西山ゆかり		平成24年4月～平成26年3月												
大野 美穂		平成26年4月～平成29年3月												
石原 尚美		平成28年4月～令和2年3月												
朝月真由美		平成29年4月～平成31年3月												
渡邊 真弓		平成31年4月～令和7年3月												
首藤真奈美		令和2年4月～令和3年3月												
村上 由紀		令和4年4月～令和7年3月												
教員		津田穂津美	平成4年4月～平成6年3月	○	○									
	佐々木直美	平成4年4月～平成6年3月	○	○										
	白水 麻子	平成4年4月～平成6年3月	○	○										
	岡本 英子	平成4年4月～平成6年9月	○	○	9 >									
	前田早知子	平成4年4月～平成7年3月	○	○	○									
	佐保美恵子	平成4年4月～平成11年3月	○	○	○	○	○	○	○					
	山崎 和代	平成4年4月～平成14年3月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		





歴代学校職員

			平成 4 年度	平成 5 年度	平成 6 年度	平成 7 年度	平成 8 年度	平成 9 年度	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度
教 員	小池 久美	平成6年4月～平成12年3月			○	○	○	○	○	○			
	佐々木容子	平成6年4月～平成16年3月			○	○	○	○	○	○	○	○	○
	松尾 久美	平成6年10月～平成8年3月			<10	○							
	山田 巧	平成7年4月～平成10年3月				○	○	○					
	梅野 貴恵	平成8年4月～平成15年3月					○	○	○	○	○	○	○
	廣田 真里	平成10年4月～平成12年3月							○	○			
	石山いずみ	平成11年4月～平成15年3月								○	○	○	○
	塩谷 浩子	平成12年4月～平成13年3月									○		
	内田 弘子	平成12年4月～平成17年3月									○	○	○
	本松美和子	平成13年4月～平成21年3月										○	○
	山本真由美	平成14年4月～平成28年3月											○
	大村 康子	平成15年1月～平成18年3月											< 1
	田原貴美子	平成15年4月～平成21年2月											
	福川美穂子	平成16年4月～平成18年3月											
	田長丸美和	平成17年4月～平成20年3月											
		平成22年4月～令和5年3月											
	加藤有美子	平成17年6月～平成19年3月											
		平成20年4月～令和4年3月											
	三浦 由美	平成18年4月～平成20年3月											
		平成29年4月～令和2年3月											
	大野 美穂	平成18年4月～平成22年3月											
	藤井 美香	平成18年4月～平成20年3月											
	小林 典子	平成19年4月～平成24年3月											
	井上 典枝	平成20年4月～平成24年3月											
	一宮 絵美	平成20年4月～平成23年3月											
	星野 睦美	平成20年4月～平成22年3月											
	出口 由美	平成20年4月～平成26年3月											
	田久保玲子	平成20年4月～平成21年3月											
	中島由美子	平成21年4月～令和4年3月											
	利光 英子	平成21年4月～平成22年3月											
	岡本 英子	平成21年4月～平成26年3月											
	今木しのぶ	平成22年4月～平成25年3月											
	堤 令子	平成23年4月～平成26年3月											
池ヶ谷知美	平成24年4月～平成30年3月												
	令和2年4月～令和4年3月												
三田村健治	平成24年4月～平成27年3月												
大山亜矢子	平成25年4月～平成28年3月												
杉安 久美	平成25年4月～令和7年3月												
野中 智恵	平成25年4月～令和7年3月												
中村 聖	平成26年4月～平成30年3月												
平井 和明	平成26年4月～平成28年3月												
可兒 友美	平成26年4月～平成29年3月												





歴代学校職員

			平成 4 年度	平成 5 年度	平成 6 年度	平成 7 年度	平成 8 年度	平成 9 年度	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度
教 員	上田加寿子	平成27年4月～令和2年3月											
	佐藤 香	平成27年4月～平成28年3月											
	吉竹 あゆ	平成27年4月～平成30年3月											
	江下 栄子	平成28年4月～平成31年3月											
	大道 真理	平成28年4月～令和7年3月											
	首藤眞奈美	平成28年4月～平成29年3月											
	山元 清子	平成29年4月～令和4年3月											
	上野 敏幸	平成30年4月～令和3年3月											
	大西 洋世	平成30年1月～令和5年3月											
	田中紀代美	平成29年8月～平成31年3月											
	高柰 裕子	平成30年4月～令和3年3月											
	田尻 朝恵	令和2年4月～令和7年3月											
	平川 真紀	令和2年4月～令和7年3月											
	中签 昌代	令和3年4月～令和5年3月											
	高木 雅弘	令和3年4月～令和7年3月											
	山田 祐子	令和3年4月～令和7年3月											
寺川 孝枝	令和4年4月～令和7年3月												

歴代学校職員（教務助手・事務）

教 務 助 手	阿多富士子	平成4年4月～平成5年3月	○											
		平成9年4月～平成17年5月						○	○	○	○	○	○	
	黒田 裕美	平成5年4月～平成5年9月		4～9										
	安藤 睦子	平成5年10月～平成7年3月		<10	○									
	鹿沼 美香	平成7年4月～平成8年5月				○	5>							
	馬場 葉子	平成7年6月～平成11年3月				<6	○	○	○					
	岡本 英子	平成8年4月～平成9年3月					○							
	山中 厚子	平成11年4月～平成16年10月								○	○	○	○	
	岡本 英子	平成17年4月～平成21年3月												
	富田 りえ	平成17年5月～平成17年9月												
	今川 昌子	平成17年6月～平成29年3月												
	井上 典枝	平成18年5月～平成20年3月												
	安森 留美	平成19年4月～平成20年3月												
		平成21年4月～平成22年3月												
		平成27年4月～令和7年3月												
	伊藤 真美	平成19年6月～平成19年11月												
	糸永佐栄子	平成19年10月～平成29年3月												
	安達 美和	平成22年4月～平成26年3月												
	岩田 美香	平成24年9月～平成25年5月												
横山 鮎美	平成28年9月～令和7年3月													
藤澤 浩子	平成30年4月～令和3年3月													
原田千恵子	令和3年4月～令和7年3月													
事 務 長	片山 明人	平成4年4月～平成5年3月	○											
	井 保則	平成5年4月～平成7年3月		○	○									



歴代学校職員（教務助手・事務）

			平成 4 年度	平成 5 年度	平成 6 年度	平成 7 年度	平成 8 年度	平成 9 年度	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度
事務長	沼田 洋介	平成7年4月～平成9年3月				○	○						
	瀧口 武尚	平成9年4月～平成11年3月						○	○				
	内村 均	平成11年4月～平成13年3月								○	○		
	江崎 芳雄	平成13年4月～平成15年3月										○	○
	内田 雅教	平成15年4月～平成17年3月											
	太田 春彦	平成17年4月～平成19年3月											
	犬童 敏夫	平成19年4月～平成21年3月											
	姉川 俊也	平成21年4月～平成24年3月											
	村上 司	平成24年4月～平成26年3月											
	秋吉 輝雪	平成26年4月～平成28年3月											
	橋本 和明	平成28年4月～平成30年3月											
	池間 忍	平成30年4月～令和2年3月											
	石井 竜男	令和2年4月～令和4年3月											
	森 貴史	令和4年4月～令和7年3月											
事務主任	葛城 博	平成4年4月～平成5年3月	○										
	淵上 裕世	平成5年4月～平成8年3月		○	○	○							
	金子 政博	平成8年4月～平成10年3月					○	○					
	今村 寿宏	平成10年4月～平成12年3月							○	○			
	大塚 康雄	平成12年4月～平成14年3月									○	○	
	野副 和行	平成14年4月～平成16年3月											○
	坂口 靖秀	平成16年4月～平成19年3月											
	江島 忠麿	平成19年4月～平成22年3月											
	北江 勇	平成22年4月～平成23年3月											
	清 慶二	平成23年4月～平成25年3月											
	荒木 寛崇	平成25年4月～平成27年3月											
	大坪 雅彦	平成27年4月～平成28年3月											
	岩崎 吉洋	平成28年4月～平成31年3月											
	磯部 武嗣	平成31年4月～令和4年3月											
	河野 華英	令和4年4月～令和6年3月											
	山梨 祥吾	令和6年4月～令和7年3月											
	事務員	釘宮すえ子	平成4年4月～平成7年3月	○	○	○							
松田 浩美		平成4年4月～平成27年3月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
清水 千恵		平成8年6月～平成13年3月					<6	○	○	○	○		
岩崎有美子		平成13年4月～平成18年3月										○	○
須田 頌子		平成18年4月～令和7年3月											
谷 真由美		平成19年4月～平成22年3月											
高谷亜由美		平成27年4月～平成28年3月											
辻 美佐江		平成27年12月～令和2年3月											
矢野 淑美		令和元年11月～令和4年3月											
永井 裕子		令和5年5月～令和6年10月											
永田 恵子		令和5年9月～令和6年3月											
矢治多恵子		令和6年4月～令和7年3月											



平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
○	○																				
		○	○																		
				○	○																
						○	○	○													
									○	○											
											○	○									
													○	○							
														○	○						
																	○	○			
																			○	○	○
○																					
	○	○	○																		
				○	○	○															
					○	○	○														
							○														
								○	○												
										○	○										
												○									
													○	○	○						
																○	○	○			
																			○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
○	○	○																			
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
				○	○	○						○									
												<12	○	○	○	○					
																<11	○	○			
																				<5	10>
																				9~3	
																					○

歴代運営委員

			平成 4 年度	平成 5 年度	平成 6 年度	平成 7 年度	平成 8 年度	平成 9 年度	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	
副院長	野田 尚一	平成4年4月～平成9年3月	○	○	○	○	○							
	狩野 嶺	平成9年4月～平成14年5月						○	○	○	○	○	5 >	
	武藤 庸一	平成14年8月～平成18年3月											< 8	
	酒井 浩徳	平成18年4月～平成27年3月												
	矢野篤次郎	平成27年4月～平成31年3月												
	末永 康夫	平成31年4月～令和6年3月												
	川中 博文	令和6年4月～令和7年3月												
事務部長	糸永 健	平成4年4月～平成6年3月	○	○										
	村崎 義則	平成6年4月～平成8年3月			○	○								
	伊藤 一成	平成8年4月～平成10年4月					○	○						
	藤井 年光	平成10年4月～平成11年3月							○					
	柴田 義孝	平成11年4月～平成13年3月								○	○			
	渡邊 勝巳	平成13年4月～平成15年3月										○	○	
	青堀 透	平成15年4月～平成18年3月												
	北村 守	平成18年4月～平成20年3月												
	重田 利春	平成20年4月～平成22年3月												
	児玉 充生	平成22年4月～平成24年3月												
	松本 純一	平成24年4月～平成27年3月												
	西田 政宏	平成27年4月～平成29年3月												
	田中 広美	平成29年4月～令和3年3月												
	松下 隆文	令和3年4月～令和6年3月												
	大城 英作	令和6年4月～令和7年3月												
	看護部長	得丸 睦子	平成4年4月～平成7年3月	○	○	○								
		栗山 月子	平成7年4月～平成11年3月				○	○	○	○				
森寺 栄子		平成11年4月～平成14年3月								○	○	○		
入舟 紀子		平成14年4月～平成17年3月											○	
徳丸千瑞子		平成17年4月～平成19年3月												
高口眞理子		平成19年4月～平成22年3月												
姫野 君江		平成22年4月～平成25年3月												
井手野由美子		平成25年4月～平成26年3月												
廣田 真里		平成26年4月～平成30年3月												
前川 律子		平成30年4月～令和2年3月												
江口 珠美		令和2年4月～令和6年3月												
辻丸祐規子		令和6年4月～令和7年3月												
健康管理医	三宅 隆生	平成4年4月～平成5年3月	○											
	渡辺 英介	平成4年4月～平成5年3月	○											
	内田 悦慈	平成4年4月～平成9年3月	○	○	○	○	○							
	平田 秀紀	平成4年4月～平成13年3月	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	堀 秀史	平成4年4月～平成13年3月	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	安田 正之	平成9年4月～平成18年3月						○	○	○	○	○	○	
	藤尾 信昭	平成13年4月～平成16年3月										○	○	
	小路 高史	平成13年4月～平成16年3月										○	○	

平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
○	○	○																			
			○	○	○	○	○	○	○	○	○										
												○	○	○	○						
																○	○	○	○	○	
																					○
○	○	○																			
			○	○																	
					○	○															
							○	○													
									○	○	○	○									
													○								
														○	○	○	○				
																		○	○	○	○
																					○
○	○	○																			
○																					
○																					



歴代運営委員

		平成 4 年度	平成 5 年度	平成 6 年度	平成 7 年度	平成 8 年度	平成 9 年度	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度
健康管理医	岩尾 哲	平成16年4月～平成18年3月										
	良永 雅弘	平成16年4月～平成23年3月										
	池田 陽一	平成18年4月～平成21年3月										
	重松 作治	平成18年4月～平成22年3月										
	澤部 俊之	平成19年10月～平成27年3月										
	松本 敏文	平成21年4月～平成24年3月										
	添田 博康	平成22年4月～平成25年3月										
	中島 匡	平成23年4月～平成24年3月										
	菊池 秀年	平成24年4月～平成28年3月										
	末永 康夫	平成24年4月～平成27年3月										
	福山 誠一	平成25年4月～平成29年3月										
	児玉真由子	平成27年4月～平成30年3月										
	園本格士朗	平成28年4月～平成29年3月										
	深田 陽子	平成29年4月～令和2年3月										
	西尾 末広	平成29年4月～平成31年3月										
	安東 加恵	平成30年4月～令和3年3月										
	辛島 千尋	平成31年4月～令和4年3月										
宮原 翔仁	令和3年4月～令和5年3月											
前田 教寿	令和3年4月～令和6年3月											
木村 大作	令和4年4月～令和7年3月											

平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	○	○																			
	○	○	○	○	○	○	○														
			○	○	○																
			○	○	○	○															
				<10	○	○	○	○	○	○	○	○									
						○	○	○													
							○	○	○												
								○													
									○	○	○	○									
									○	○	○										
										○	○	○	○								
												○	○	○							
														○	○	○					
														○	○	○	○				
															○	○	○	○			
																○	○	○	○		
																	○	○	○	○	
																		○	○	○	○







## 学校の概況

# 学校のあゆみ

## 1. 名称、所在地

名 称 独立行政法人国立病院機構 別府医療センター附属大分中央看護学校  
所 在 地 大分県別府市大字内竈1473番地 郵便番号 874-0011  
電話番号 (0977) 67-1111 (代表)

## 2. 沿革

平成 4 年 4 月 1 日 国立別府病院附属看護学校と国立療養所西別府病院附属看護学校が  
統合大型化し、国立別府病院附属大分中央看護学校となる  
学校長 家永睿就任

平成 4 年 4 月 13 日 第 1 回生・第 2 回生は、国立別府病院附属看護学校及び国立療養所西別府病院附属看護学校  
で教育していたが新校舎に移転、始業式を実施した  
\*国立別府病院附属看護学校 (1 回生 39 名・2 回生 42 名)  
国立療養所西別府病院附属看護学校 (1 回生 50 名・2 回生 50 名) が統合された

平成 4 年 4 月 17 日 開校式及び第 3 回生入学式挙行 (3 回生 103 名)

平成 7 年 1 月 23 日 専門士の称号が付与された

平成 7 年 3 月 31 日 学校長 家永睿退任

平成 7 年 4 月 1 日 学校長 赤嶺康夫就任

平成 9 年 4 月 1 日 保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則が改正され、単位制となった

平成 16 年 4 月 1 日 独立行政法人国立病院機構に移行し、別府医療センター附属大分中央看護学校となる

平成 18 年 3 月 31 日 学校長 赤嶺康夫退任

平成 18 年 4 月 1 日 学校長 武藤庸一就任

平成 27 年 3 月 31 日 学校長 武藤庸一退任

平成 27 年 4 月 1 日 学校長 酒井浩徳就任

平成 31 年 3 月 31 日 学校長 酒井浩徳退任

平成 31 年 4 月 1 日 学校長 矢野篤次郎就任

令和 6 年 3 月 31 日 卒業生総数 2,671 名  
学校長 矢野篤次郎退任

令和 6 年 4 月 1 日 学校長 末永康夫就任

令和 7 年 3 月 31 日 卒業生総数 2,729 名 (令和 7 年 1 月時点見込み)

## 3. 両校の背景

### 1) 国立別府病院附属看護学校

昭和 21 年 3 月 25 日 大分県指定乙種看護婦養成所併設

昭和 23 年 3 月 25 日 卒業生数 61 名

昭和 23 年 4 月 19 日 国立亀川病院附属高等看護学院開校  
(看護婦 3 年課程入学定員 40 名)

昭和 25 年 7 月 20 日 国立別府病院附属高等看護学院に名称変更

昭和 50 年 11 月 1 日 国立別府病院附属看護学校に名称変更

昭和 51 年 4 月 1 日 学校教育法第 82 条の 2 に規定する専修学校の看護専門課程として看護学科設置の認定を受ける

平成 4 年 3 月 31 日 卒業生数 1,489 名

### 2) 国立療養所西別府病院附属看護学校

昭和 29 年 4 月 1 日 国立療養所石垣原病院附属准看護学院開校  
(准看護課程入学定員 30 名)

昭和 36 年 9 月 1 日 国立療養所石垣原病院附属高等看護学院開校  
(看護婦 2 年課程入学定員 20 名)

昭和 37 年 3 月 16 日 国立療養所石垣原病院附属准看護学院閉校 卒業生総数 176 名

昭和 46 年 4 月 1 日 国立療養所西別府病院附属高等看護学院に名称変更

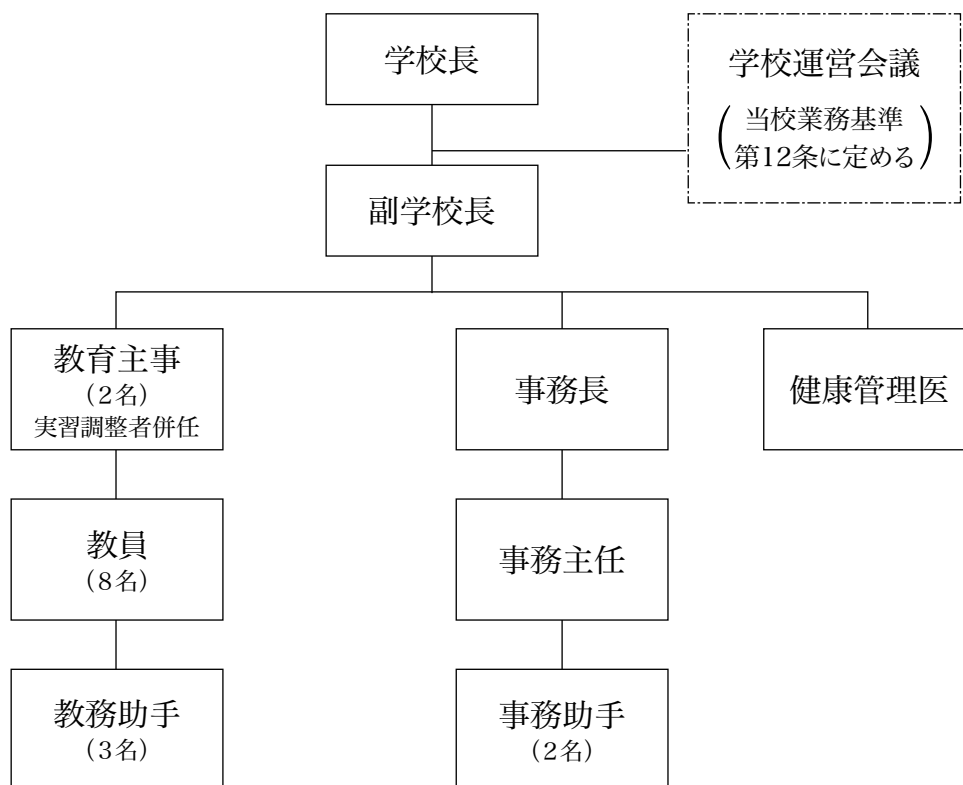
昭和 50 年 4 月 1 日 国立療養所西別府病院附属看護学院に名称変更

昭和 53 年 4 月 1 日 看護婦 3 年課程へ変更 (入学定員 50 名)

昭和 54 年 3 月 31 日 卒業生総数 437 名 (2 年課程)

平成 4 年 3 月 31 日 卒業生総数 508 名 (3 年課程)

## 組織図



学 校 職 員			
学校長(病院長)	末 永 康 夫		
副学校長(副院長)	川 中 博 文		
教育主事	渡 邊 真 弓		
教育主事	村 上 由 紀		
教 員	平 川 真 紀	事務長(管理課長)	森 貴 史
	杉 安 久 美	事務主任(庶務班長)	山 梨 祥 吾
	山 田 祐 子	教務助手	安 森 留 美
	大 道 真 理		横 山 鮎 美
	野 中 智 恵		原 田 千 恵 子
	高 木 雅 弘	健康管理医	木 村 大 作
	田 尻 朝 恵	事務助手	須 田 頌 子
	寺 川 孝 枝		矢 治 多 恵 子

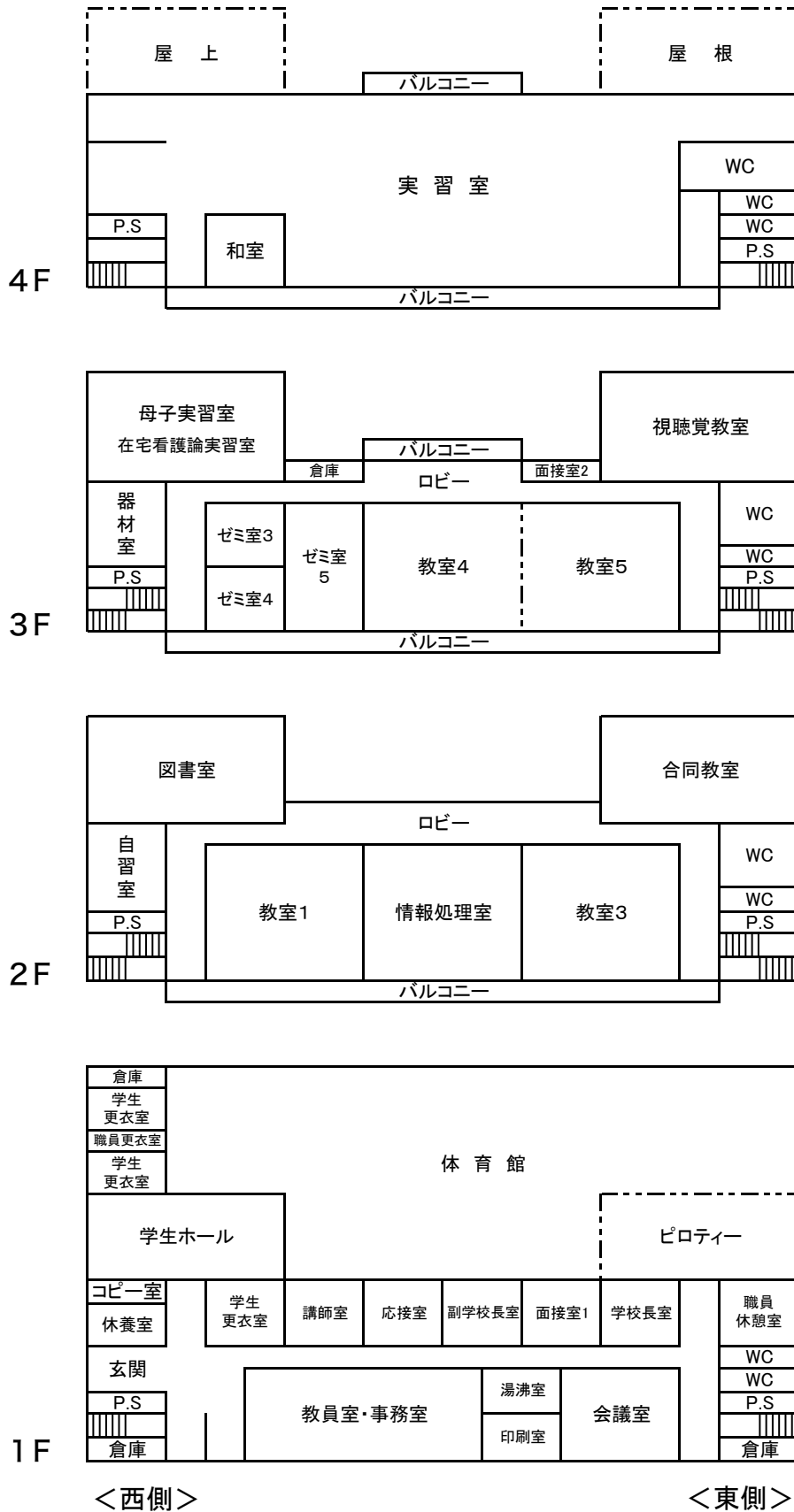
(令和7年1月末現在)



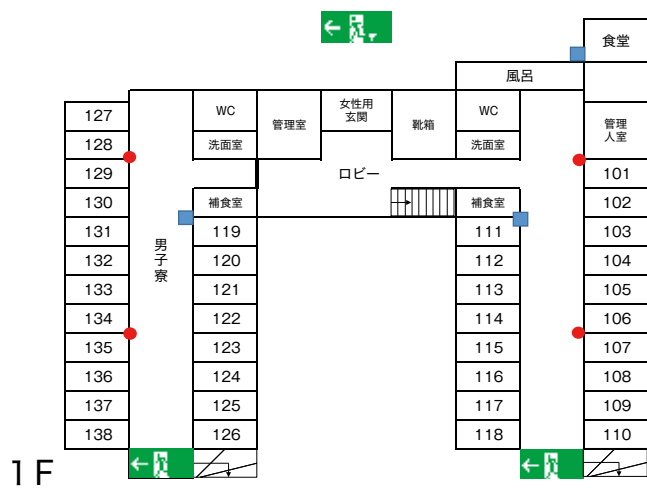
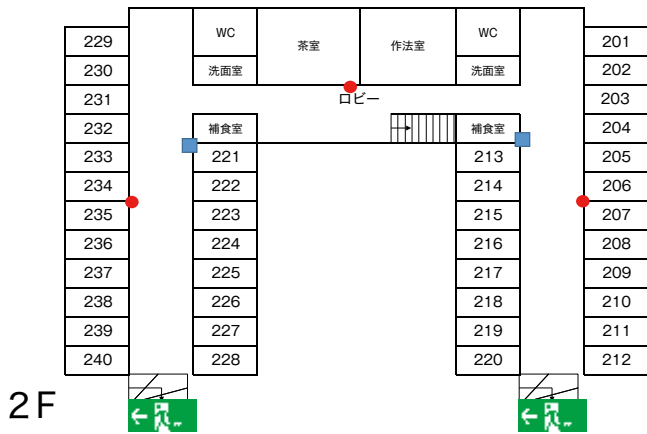
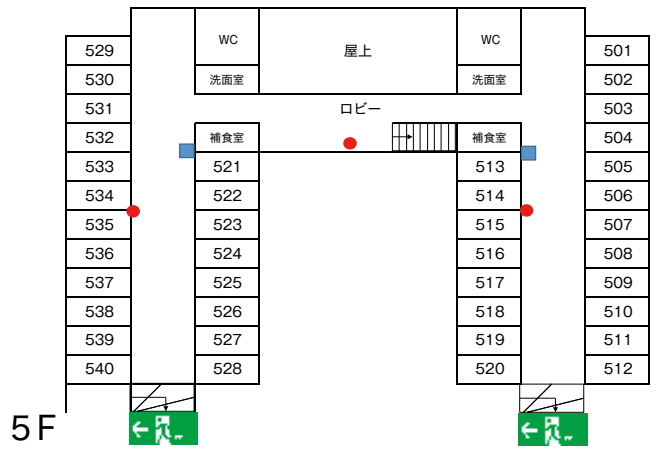
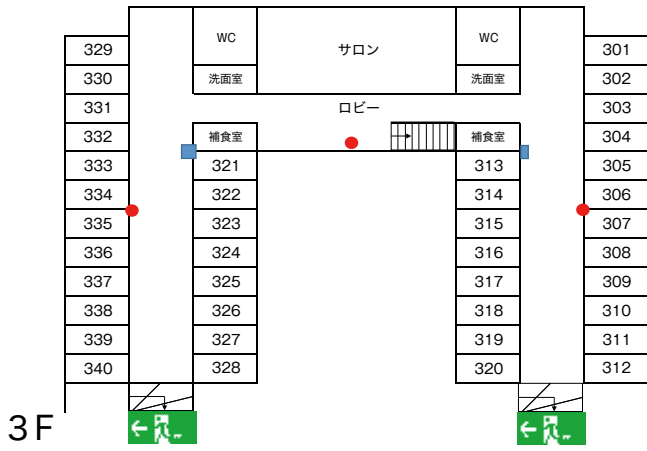
## 諸会議

会 議	協議事項	構成員	運 営
学校運営会議	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の規定の制定改廃</li> <li>2. 学校の予算の執行計画</li> <li>3. 教育課程の編成に関する事項</li> <li>4. 各学年の教育計画に関する事項</li> <li>5. 学校の人事に関する事項</li> <li>6. 学校の定員に関する事項</li> <li>7. 学生の身分に関する事項</li> <li>8. その他学校の運営に関し、重要と認める事項</li> </ol>	学校長、教育主事、 教員、事務長、 事務主任、運営委員	2ヶ月に1回以上、 学校長が招集する
教員会議	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程に関する具体的事項</li> <li>2. 各学年の教育及び行事計画ならびに学習及び課外活動に関する事項</li> <li>3. 教育内容の調整に関する事項</li> <li>4. 教育方針及び教材、教具の整備に関する事項</li> <li>5. 学生の健康管理に関する事項</li> <li>6. その他教務に関する重要事項</li> <li>7. カリキュラム改正に関する事項</li> </ol> ※1) 研究会・教員としての資質の向上 2) 看護教育方法、教材研究、学生指導、その他 3) 専門領域に関すること	教育主事、教員	1ヶ月に2回以上、 教育主事が招集する
講師会議	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業科目の教授内容に関する事項</li> <li>2. 専門領域と関連領域の教育内容進度等に関する事項</li> <li>3. 授業科目の評価及び履修の認定に関する事項</li> </ol>	学校長、教育主事、 教員、講師、事務長、 事務主任、その他学校長 が必要と認める者	学期始め及び学期 末に学校長が招集する
運営委員会 実習指導	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習指導者会議の運営に関する事項</li> <li>2. 実習指導に関する学習、研究について</li> </ol>	看護師長、副看護師長、 教育主事、実習担当教員	年5回、教育主 事が招集する
実習指導者 会議	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習内容及び実習指導に関する事項</li> <li>2. 実習に関して必要と認められる事項</li> </ol>	教育主事、教員、 看護部長、副看護部長、 看護師長、実習指導者	1ヶ月に1回教 育主事が招集する
学校評価委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年度活動方針策定、実施計画の企画・立案</li> <li>2. 情報収集及び提供</li> <li>3. 学校評価結果の審議</li> <li>4. 学校評価に基づく学校長への提言</li> <li>5. 学校評価に基づく改善計画の企画・立案</li> <li>6. 改善結果のとりまとめ</li> <li>7. 学校評価結果、改善結果の公表</li> <li>8. その他</li> </ol>	学校長、副学校長、 看護部長、事務部長、 教育主事、事務長、 事務主任、教員	年3回、委員長 (学校長)が招集する
カリキュラム 担当者会議	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程の編成及び評価に関すること</li> <li>2. 前期・後期教育計画の評価に関すること</li> <li>3. 各学年の教育計画の調整に関すること</li> <li>4. 講師の選定、講師との調整、講師会議の企画・運営</li> <li>5. 年間行事に伴う学生の動き等に関すること</li> </ol>	教育主事、教員	月2回
実習担当者会議	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程（臨地実習）の編成及び評価に関すること                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臨地実習目的・目標の設定と教育課程の編成</li> <li>2) 臨地実習計画の作成・運営・評価</li> </ol> </li> <li>2. 臨地実習施設に関すること</li> <li>3. 実習指導運営委員会の企画・運営及び評価に関すること</li> <li>4. 実習指導者会議の企画・運営及び評価に関すること</li> </ol>	教育主事、教員	月2回

## 看護学校見取り図



# 学生宿舎見取り図



● 消火器 ■ 消火栓

## 33年のあゆみ

年 月 日	出 来 事	記 事
平成4年 4. 1	国立別府病院附属看護学校と国立療養所西別府病院附属看護学校が統合大型化し、国立別府病院附属大分中央看護学校となる	【実習施設の承認】 3.2.15 国立大分病院 3.2.18 国立療養所西別府病院
4. 13	第1・2回生は、国立別府病院附属看護学校及び国立療養所西別府病院附属看護学校で教育していたが、新校舎に移転、始業式を行った	
4. 17	国立別府病院附属看護学校(1回生39名 2回生42名)、国立療養所西別府病院附属看護学校(1回生50名 2回生50名)が統合された	
4. 17	開校式及び第3回生入学式挙行(3回生103名)	授業料60,000円(2・3回生48,480円) 宿舍料5,040円(1月から) 教材 人形蘇生器購入
5. 12	第1回1日看護学生体験 第1回ナイチンゲール祭	講演 「心の出会いを求めて」 須永博士先生
10. 17・18	第1回看学祭	
10. 25	ねんりんピック参加	
11. 20	第3回生戴帽式	
平成5年 3. 11	第1回生卒業式	
4. 15	第4回生入学式	宿舍料20,160円へ変更
5. 12	第2回1日看護学生体験 第2回ナイチンゲール祭	講演 「文学にみる人間の生き方～末摘花の境涯」 別府大学文学部教授 安東大隆先生
10. 21・22	第2回看学祭	
10. 24	ねんりんピック参加	
11. 12	第4回生戴帽式	
平成6年 3. 10	第2回生卒業式	
4. 13	第5回生入学式	
5. 14	第3回1日看護学生体験 第3回ナイチンゲール祭	特別講演 「看護の心」 別府栄光園園長 小郷穆子先生 シンポジウム 「看護を学ぶ意義について」
10. 7・8	第3回看学祭	
11. 2	第5回生戴帽式	
平成7年 3. 8	第3回生卒業式	
4. 12	第6回生入学式	授業料72,000円へ変更
5. 13	第4回1日看護学生体験 第4回ナイチンゲール祭	シンポジウム 「看護の魅力」 講演 「命ある限り伝えたい」 草伏村生先生
10. 8	ねんりんピック参加	
10. 19・20	第4回看学祭	
11. 17	第6回生戴帽式	
平成8年 1. 23	国立病院・療養所附属看護婦等養成所の卒業生に対し専門士の称号付与される	
3. 7	第4回生卒業式	
4. 11	第7回生入学式	
5. 11	第5回1日看護学生体験 第5回ナイチンゲール祭	シンポジウム 「看護の魅力・看護の喜び」 講演 「生と性について」 九州大学医療技術短期大学助教授 浅生慶子先生
10. 18・19	第5回看学祭	
11. 1	第7回生戴帽式	
平成9年 3. 5	第5回生卒業式	
4. 1	保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則が改正され、新カリキュラムによる教育が開始となった。単位制が導入された。	
4. 10	第8回生入学式	
5. 10	第6回1日看護学生体験	
10. 25	第6回看学祭	講演 「看護の魅力・看護の喜び」 国立別府病院 師長 三浦智子
10. 31	第8回生戴帽式	
平成10年 3. 10	第6回生卒業式	
3.	在宅看護室を増設完備	在宅看護用ユニットバス購入
4. 9	第9回生入学式	授業料84,000円、宿舍料17,892円へ変更



年 月 日	出 来 事	記 事
5. 23 10. 17	第 7 回一日看護学生体験 第 7 回看学祭	講演 「看護の魅力・看護の喜び」 国立別府病院 師長 越田津矢美
平成11年 10. 30 3. 9 4. 9 5. 22 10. 23	第 9 回生戴帽式 第 7 回生卒業式 第 10 回生入学式 第 8 回一日看護学生体験 第 8 回看学祭	講演 「看護の喜び」 国立別府病院 副師長 川西紀代子・安部順子
平成12年 10. 29 3. 8 4. 7	第 10 回生戴帽式 第 8 回生卒業式 第 11 回生入学式	教材 プロジェクター 2 台購入 授業料 102,000 円へ変更
5. 27	第 9 回一日看護学生体験	
10. 21	第 9 回看学祭	講演 「看護の喜び」 国立別府病院 副師長 小野加寿子
平成13年 11. 2 3. 8 4. 1	第 11 回生戴帽式 第 9 回生卒業式 第 12 回生入学式	授業料 114,000 円へ変更 学生寮セキュリティシステム設置
5. 26 10. 27	第 10 回一日看護学生体験 第 10 回看学祭	講演 「看護の魅力」 卒業生 杉本伊佐子・今里憲太郎
平成14年 11. 2 3. 7	第 12 回生戴帽式 第 10 回生卒業式	学生駐輪場増設 エイズキャンペーン・チッカマウガ参加 教官室コンピューター・学生用コンピューター LAN 設置 【実習施設変更の承認】 14.2.22 在宅看護論実習 10 施設 (天心堂訪問看護ステーションひ・まわり、一燈園老人訪問看護ステーション、別府市医師会訪問看護ステーション、上人病院訪問看護ステーション上人、やまなみ訪問看護ステーション、訪問看護ステーションひまわり、ハーモニー大平山訪問看護ステーション、さかいがわ訪問看護ステーション、ひじ訪問看護ステーション、大分県厚生連訪問看護ステーションつるみ)
4. 10 5. 26 10. 27	第 13 回生入学式 第 11 回一日看護学生体験 第 11 回看学祭	授業料 140,400 円へ変更 講演「看護の魅力」 国立療養所西別府病院 師長 藤井淳子
11. 1	第 13 回生戴帽式	生体シミュレーター「イチロー」、 呼吸音シミュレーター「ミスターラング」購入
平成15年 12. 3.		エイズキャンペーン・チッカマウガ参加 3 年生体験学習 「シミュレーションによる看護・医療安全教育」 1 年生体験学習 「病院や地域の中で働く医療職者の業務内容体験」
平成15年 3. 6 4. 9 5. 17 10. 24 11. 8	第 11 回生卒業式 第 14 回生入学式 第 12 回一日看護学生体験 第 14 回生戴帽式 第 12 回看学祭	
平成16年 3. 3 4. 1	第 12 回生卒業式 国立病院から独立行政法人国立病院機構に移行し、独立行政法人国立病院機構別府医療センター附属大分中央看護学校となる	
4. 7 5. 15 10. 22	第 15 回生入学式 第 12 回一日看護学生体験 第 15 回生戴帽式	実習用白衣一新

年 月 日	出 来 事	記 事
11. 12・13	第13回看学祭「看護維新」	特別講演 テーマ「看護のめざすもの」 講師 大阪医療センター 副院長 内藤正子先生
平成17年 3. 4	第13回卒業式	
4. 8	第16回入学式	
5. 21	第13回一日看護学生体験	
10. 21	第16回生戴帽式	
11. 11・12	第14回看学祭「Passion」～それぞれの宇宙へ～	特別講演 テーマ「自分の可能性を求めて」 講師 アテネパラリンピック金メダリスト 成田真由美さん
平成18年 3. 2	第14回卒業式	
3. 31	学校長 赤嶺康夫退任	
4. 1	学校長 武藤庸一就任	
4. 12	第17回入学式	
5. 20	第14回一日看護学生体験	
10. 21・22	第1回湯の森ふれあい祭 第1回別府医療センター病院祭と看護学校祭を合同開催	市民向け講演会 「おなかのがん治療」 特別講演 テーマ「笑って健康」 講師 佐伯市観光大使 矢野大和氏
11. 10	第17回生戴帽式	
平成19年 3. 1	第15回卒業式	
4. 1	教育内容変更 専門分野に政策医療論を含む	
4. 11	第18回入学式 「看護の日」及び「看護週間」事業に参加	5. 12 別府県民保健福祉センター「看護の日」及び「看護週間」事業に学生参加 5. 13 看護協会「看護の日」事業にシンポジストとして学生参加 シンポジウム 「お世話するところ」
5. 19	第15回一日看護学生体験	
9. 15・16	第2回湯の森ふれあい祭 第2回別府医療センター病院祭と看護学校祭を合同開催	市民向け講演会 「メタボリックシンドロームってなん？」 特別講演 テーマ「動物と共に生きる」 講師 アフリカンサファリ獣医師 神田岳委氏
10. 12	第18回生戴帽式	
平成20年 3. 4	第16回卒業式	
4. 1	教員定数改訂	専任教員数 6名から10名へ増員
4. 9	第19回入学式	
5. 17	第16回一日看護学生体験	
10. 18・19	第3回湯の森ふれあい祭 第3回別府医療センター病院祭と看護学校祭を合同開催	シンポジウム「理想の緩和医療を目指して」 出前歌説法「心の健康」 南陽山勝光寺住職 南 慧照氏
11. 7	第19回生戴帽式	
平成21年 3. 4	第17回卒業式 保健師助産師看護師学校養成所指定規則が改正され、新カリキュラムによる教育を開始	教育内容に統合分野が創設される 看護基礎教育の技術項目の卒業時到達度が明確化される
4. 10	カリキュラム改正に伴い教育理念を改変	「自ら学ぶ学生の育成を目指す」
5. 23	第20回入学式	
10. 10・11	第17回一日看護学生体験 第4回湯の森ふれあい祭 第4回別府医療センター病院祭と看護学校祭を合同開催	講演「切らずに治す放射線治療」 出前講座 「エコに関する話し（地球温暖化・ごみとリサイクル）」 NPO 法人役員 葛西満里子氏
11. 6	第20回生戴帽式	
平成22年 3. 3	第18回卒業式	
4. 9	第21回入学式	
5. 22	第18回一日看護学生体験	
10. 17	学校祭「Link」	講演会 テーマ「看護の国際協力への道～自分の可能性を信じて～」 講師 大下敏子先生
11. 12	第21回生戴帽式	
平成23年 3. 1	第19回卒業式	
4. 8	第22回入学式	教育体制を担任制からチューター制へ変更

年 月 日	出 来 事	記 事
5. 21 10. 16	第 19 回一日看護学生体験 学校祭「輝」	各教員が全学年少人数を受け持ち、一年間継続して相談できる体制とした  講演会 テーマ「大規模災害における看護職の支援活動」 講師 独立行政法人国立病院機構菊池病院 副看護部長 松尾 保氏
11. 11 平成24年 3. 1 4. 6 5. 19 10. 14	第 22 回生戴帽式 第 20 回生卒業式 第 23 回生入学式 第 20 回一日看護学生体験 学校祭「Ring」～つながり～	教員定数増員可能枠2名  講演会 テーマ「献血の知識、若年層の献血離れ」 講演者 大分県血液センター 大分県学生献血推進協議会
11. 9 平成25年 3. 1 4. 5 5. 18 10. 20	第 23 回生戴帽式 第 21 回生卒業式 第 24 回生入学式 第 21 回看護の日 学校祭「Step by Step」	講演会 テーマ「広がる看護の未来 先輩から後輩への伝承」 講師 NHO 九州がんセンター副看護部長 徳永雄規氏 NHO 九州医療センター診療看護師 石原夕子氏 NHO 別府医療センター診療看護師 田村委子氏 NHO 別府医療センター感染管理認定看護師 村武明子氏 NHO 別府医療センター透析看護認定看護師 安部佐和美氏
11. 15 平成26年 3. 3 4. 8 5. 17 10. 19	第 24 回生戴帽式 第 22 回生卒業式 第 25 回生入学式 第 22 回看護の日 学校祭「NEW STYLE！」～感謝の気持ちを夢にのせて～	シンポジウム テーマ「地震・津波・火事・噴火 一災害への心がまえ」 講師 NHO 別府医療センター副看護部長 宮崎良尚氏 NHO 別府医療センター副看護部長 藤田将之氏
11. 21 平成27年 3. 3 4. 7 5. 16 10. 17	第 25 回生戴帽式 第 23 回生卒業式 第 26 回生入学式 第 23 回生看護の日 学校祭（病院祭と合同開催） 湯の森ふれあい祭「LINK」～人から人へつながる輪～	講演会（病院主催） 特別講演 テーマ「ベンツから学ぶリーダーシップ」 講師 高崎山職員 災害劇 テーマ「津波がきた～」
11. 20 平成28年 3. 3 4. 7 5. 14 10. 15	第 26 回生誓いの式 第 24 回生卒業式 第 27 回生入学式 第 24 回看護の日 学校祭（病院祭と合同開催） 湯の森ふれあい祭「輪になろう」～ Be together as one ～	講演会 特別講演 テーマ1「水族館の命」 講師 大分マリンパレス水族館「うみたまご」館長 テーマ2「防災を考えよう」 講師 防災士 災害劇 テーマ「サザエさん一家の防災」
11. 18 平成29年 3. 3 4. 7 5. 13 10. 21	第 27 回生誓いの式 第 25 回生卒業式 第 28 回生入学式 第 25 回看護の日 学校祭（病院祭と合同開催） 湯の森ふれあい祭「結」～ゆい～	講演会（病院主催） 特別講演 テーマ「笑って元気になろう～笑いの大切さ～」 講師 笑いヨガティーチャー 大野ミチル氏 災害劇 テーマ「サザエさん一家が被災したら～心のケアを知ろう～」 講師 別府医療センター劇団と DPAT 隊員
11. 17 平成30年 3. 2 4. 6	第 28 回生誓いの式 第 26 回生卒業式 第 29 回生入学式	

年 月 日	出 来 事	記 事
平成30年 5. 14 10. 20	第26回看護の日 学校祭（病院祭と合同開催） 湯の森ふれあい祭「華－はな－」～つながる笑顔咲き誇れ～	講演会（病院開催） 特別講演 テーマ「がんはなぜできるのか？予防できるのか？」 「がんに対する標準治療」 劇 テーマ「がんになったらどうしたらいいの？」
11. 21	第29回生誓いの式	
平成31年 3. 5	第27回生卒業式	
4. 9	第30回生入学式	
令和元年 5. 13	第27回看護の日	
10. 19	学校祭「虹」～その瞬間、輝く笑顔でかける橋～	講演会 テーマ「がんになっても自分らしく活躍できる」 ～がん患者の立場から～ 講師 NPO がんサポートグループ Cuna Jugeo 女子会担当 竹友優子氏
11. 15	第30回生誓いの式	
令和2年 3. 3	第28回生卒業式	
4. 7	第31回生入学許可	
5. 12	第28回看護の日	
10. 10	学校祭「燈」－照らそう未来とその笑顔－	講演会 テーマ「感染予防対策の基本」 ～新型コロナウイルス感染症蔓延に臨んで～ 講師 NHO 別府医療センター感染制御室長 大分中央看護学校長 矢野篤次郎氏
11. 13	第31回生誓いの式	
令和3年 3. 2	第29回生卒業式	
4. 7	第32回生入学式	
10. 9	学校祭「歩（あゆむ）」～今あるミチとその先へ～	講演会 テーマ「インタビュー上映」（新型コロナウイルス感染対策のため） 講師 NHO 別府医療センター救急看護認定看護師 宮崎良尚氏 NHO 別府医療センター認知症看護認定看護師 坂本理恵氏 NHO 別府医療センター感染管理認定看護師 原 利宝氏
11. 5	第32回生誓いの式	
令和4年 3. 2	第30回生卒業式	
4. 7	第33回生入学式	
10. 15	学校祭「輝（かがやき）」～未来に向かって輝け～	本校最後の入学生 講演会 テーマ「自分らしく輝く」 講師 NPO 法人自立支援センターおおいた 芦刈昌信氏 NPO 法人自立支援センターおおいた 山崎 忍氏
11. 11	第33回生誓いの式	
令和5年 3. 2	第31回生卒業式	
10. 14	学校祭「煌（きらめき）」 ～一人ひとりの個性を發揮し明るい未来をきりひらこう～	本校最後の学校祭 講演会（シンポジウム） テーマ「がんになっても煌めいて生活している人々を支える」 講師 がんサバイバー 鈴木綾香氏、入口亜希子氏 NPO 法人がんサポートグループ クーナフエゴ運営者・ 別府大学短期大学教授 岡本 昭氏 NHO 別府医療センターがん相談支援センター MSW 玉野緋呂子氏 大分中央看護学校 32 回生 帆谷紗都美氏
令和6年 3. 1	第32回生卒業式	
令和7年 2. 23	閉校記念式典 予定	大分中央看護学校 体育館
3. 5	閉校記念パーティー 予定 第33回生卒業式 予定	ホテル サンバリー・アネックス



# 学 則

## 第1章 総 則

(名 称)

第1条 本学校は、独立行政法人国立病院機構別府医療センター附属大分中央看護学校と称する。

(目 的)

第2条 本学校は、看護師として必要な知識及び技術を教授し、独立行政法人国立病院機構及び社会に貢献し得る有能な人材を育成することを目的とする。

(自己点検・自己評価)

第3条 本学校は、質の高い教育の維持・向上を図り、前条の目的達成のために、本学校における教育・研究活動及び学校運営等の状況について、自ら点検及び評価を行う。

2. 前項の点検及び評価の項目設定、実施体制については、別に定める。

(位 置)

第4条 本学校は、大分県別府市大字内竈1473番地に位置する。

(課程、学科及び学生定員)

第5条 本学校の課程、学科及び学生定員は、次のとおりとする。

課 程	学 科	(クラス定員)入学定員	総定員
看護専門課程	看護学科(三年課程)	(40人)80人	240人

(修業年限)

第6条 修業年限は3年とする。

(在学年限)

第7条 学生は、6年を超えて在学することができない。

但し、当校は令和7年3月で閉校となることから、令和2年4月以降の在学年限は次のとおりとする。

令和2(2020)年度入学生は、入学より5年を超えて在学することができない。

令和3(2021)年度入学生は、入学より4年を超えて在学することができない。

令和4(2022)年度入学生は、入学より3年を超えて在学することができない。

2. 第13条第1項の規定により転入学又は編入学した者は、同条第2項に定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

## 第2章 学年、学期及び休業日

(学 年)

第8条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学 期)

第9条 学年を次の2学期に分ける。

第1学期4月1日から9月30日まで

第2学期10月1日から翌年3月31日まで

(休 業 日)

第10条 休業日は、次のとおりとする。

一 日曜日及び土曜日

二 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

三 春季休業 3週間

四 夏季休業 5週間

五 冬季休業 2週間

2. 学校長は、必要により前項の休業日を変更することができる。

3. 第1項に定めるもののほか、臨時に休業を必要とする場合は、学校長がその都度定める。

4. 学校長は、教育上必要があり、かつ、やむを得ぬ事情があるときは、第1項の規定にかかわらず、休業日に授業を行うことができる。

## 第3章 入学及び転入学等

(入学の時期)

第11条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第12条 本学校に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

一 高等学校又は中等教育学校を卒業した者  
二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者

三 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

四 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

五 文部科学大臣が指定した者

六 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)による大学入学資格検定に合格し

た者を含む。)

- 七 本学校において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力を有すると認められた者で、18歳に達した者

(転入学等)

- 第13条 他の看護師学校養成所(三年課程)において1年以上履修した者で、本学校に転入学(以下「転入学等」という。)を志願する者があるときは、学校長は欠員のある場合に限り、選考の上転入学等を許可することができる。
2. 前項の規定により転入学等を許可しようとする者の既に修得した授業科目、単位数及び時間数の取扱い並びに在学すべき年数については、独立行政法人国立病院機構別府医療センター附属大分中央看護学校業務基準(以下「業務基準」という。)第12条に定める学校運営会議(以下「学校運営会議」という。)の議を経て、学校長が決定する。

(入学の出願)

- 第14条 本学校に入学又は転入学等を志願する者は、所定の期日までに、所定の書類に入学検定料を添えて願出しなければならない。
2. 前項に定める入学を志願する者が提出しなければならない書類は次の各号に掲げる書類とする。
- 一 入学願書
  - 二 出身高等学校長の証明する調査書(高等学校卒業(見込み)者以外の者については、教育施設長が証明する調査書)
3. 第1項に定める転入学等を志願する者が提出しなければならない書類は次の各号に掲げる書類とする。
- 一 転学許可書(現に他の看護師学校養成所(三年課程)に在学している者に限る)
  - 二 転入学等願書
  - 三 履修証明書

(入学者の選考)

- 第15条 入学を志願する者に対しては、学力検査及び面接により選考を行う。

(入学等の手続及び許可)

- 第16条 第13条第1項又は前条の選考により合格した者であって入学又は転入学等の許可を受けようとする者は、所定の期日までに、保証人の誓約書その他所定の書類に入学料を添えて提出しなければならない。ただし、第35条による特例の適用を受けようとする者について

は、入学料を添えることを要しない。

2. 学校長は、前項の手続を完了した者に対し、入学又は転入学等を許可する。

(保証人)

- 第17条 保証人は、保証する学生の在学中、その一身上に関する事項について一切の責任を負うものとする。これについて、保証人は、書面により誓約しなければならない。
2. 保証人は、身分及び住所に変更があった場合には、直ちにその旨を学校長に届け出なければならない。
3. 保証人を変更した場合には、新たに第1項の誓約書を提出しなければならない。

## 第4章 教育課程

(授業科目、単位数及び時間数)

- 第18条 本学校における授業科目、単位数及び時間数は、別表のとおりとする。
2. 別表中、講義及び演習については15時間から30時間、実験、実習及び実技については30時間から45時間、臨地実習については30時間から45時間をもって1単位とする。

(授業科目の評価及び単位修得の認定)

- 第19条 単位修得の認定は、講義、実習等に必要時間の取得状況と当該科目の評価により行う。
2. 出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目について評価を受ける資格を失う。
3. 授業科目の評価は優(80点以上)、良(70点から79点)、可(60点から69点)及び不可(60点未満)とし、可以上を合格とする。
4. 病気その他やむを得ない理由により試験を受けることのできなかった者又は不合格の者に対しては、追試験又は再試験を行うことができる。

(入学前の授業科目の履修等)

- 第20条 本学校の入学前に放送大学やその他大学若しくは高等専門学校又は歯科衛生士、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、臨床工学技士、義肢装具士、救急救命士及び言語聴覚士の資格に係る学校若しくは養成所で、保健師助産師看護師学校養成所指定規則(昭和26年文部省・厚生省令第1号)別表第3に規定されている教育内容と同一内容の科目を履修している者から、その単位の認定について、申請があった場合には、履修した学習内容を評価し、本学校における教育内容に相当するものと認められる場合には、学校長は総取得単位数の2

分の1を超えない範囲で本学校において履修したものと認定することができる。

2. 本学校の入学前に社会福祉士及び介護福祉士法(昭和62年法律第30号)第40条第2項第1号の規定に該当する者で養成所に入学した者の単位の認定について申請のあった場合には、社会福祉士及び介護福祉士法施行規則等の一部を改正する省令(平成20年厚生労働省令第42号)による改正前の社会福祉士介護福祉士学校養成施設指定規則(昭和62年厚生省令第50号)別表第4に定める基礎分野又は社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則(平成20年文部科学省・厚生労働省令第2号)別表第4に定める「人間と社会」の領域に限り、既修の学習内容を評価し、本学校における教育内容に相当するものと認められる場合には、学校長は本学校において保健師助産師看護師学校養成所指定規則別表3に定める基礎分野を履修したものと認定することができる。

## 第5章 休学、復学、退学及び転学

(休学)

- 第21条 学生は、病気のため引き続き3箇月以上就学することができないとき、又はその他やむを得ない理由により休学しようとするときは、休学願いを学校長に提出し、その許可を得て休学することができる。
2. 学校長は、病気その他の理由により、就学することが適当でないと認められる者に対して学校運営会議の議を経て休学を命ずることができる。
3. 休学期間は、引き続き1年を超えることができない。ただし、学校長がやむを得ない理由があると認めた場合にはこの限りではない。
4. 休学は、通算して3年を超えることができない。ただし、学校長がやむを得ない理由があると認めた場合にはこの限りでない。
5. 休学期間は、在学期間に算入しない。

(復学)

- 第22条 休学期間が満了となった学生は、学校長の許可を得て復学するものとする。
2. 休学となった学生が休学期間中に休学理由が消滅した場合には、直ちに学校長に申し出なければならない。

(退学)

第23条 学生が退学しようとするときは、保証人連署の上理由を記して学校長に願い出て、許可を受けなければならない。

(転学)

第24条 学生が他の看護師学校養成所(三年課程)に転学を志願しようとするときは、保証人連署の上理由を記して学校長に願い出て、許可を受けなければならない。

## 第6章 卒業等

(卒業)

第25条 学校長は、第18条に定める授業科目の単位修得の認定を受けた者について、学校運営会議の議を経て、卒業を認定する。

2. 学校長は、卒業を認定した者に対し、卒業証書を授与する。

(称号の授与)

第26条 学校長は、前条により、本学校看護専門課程看護学科を修了した者に対して、専門士(医療専門課程)の称号を授与する。

(資格の取得)

第27条 本学校看護専門課程看護学科を卒業した者には、看護師国家試験の受験資格が与えられる。

## 第7章 賞罰

(表彰)

第28条 学校長は、表彰に値する行為を行った学生を表彰することができる。

(懲戒)

- 第29条 本学校の規則若しくは学校長の命令に違反し、又は学生の本分に反する行為があった者は、所定の手続によって懲戒する。
2. 懲戒の種類は、戒告、停学及び退学とする。
3. 停学が引き続き3箇月以上にわたるときは、その期間は、在学期間に算入しない。

(本学校の命ずる退学)

第30条 学校長は、次の各号の一に該当する者に対して、学校運営会議の議を経て、退学を命ずることができる。

- 一 正当な理由がなく欠席が長期にわたる者
- 二 第7条第1項又は第2項に規定する期間を超えた者
- 三 性行不良で改善の見込がないと認められた者
- 四 授業料を納期までに納付せず、かつ、督促しても納付しない者



## 第8章 健康管理

(健康管理)

第31条 学校長は、学生に対して1年に2回以上の健康診断を実施する。

## 第9章 入学検定料、入学料及び授業料

(納付義務)

第32条 入学を志願する者は入学検定料を、入学の許可を受けようとする者は入学料を、入学を許可された者は授業料を納めなければならない。

(入学検定料、入学料及び授業料の額)

第33条 入学検定料、入学料及び授業料の額は、学校長が別に定めるところによる。

(授業料の徴収)

第34条 授業料は、次の2期に分けて、年額の2分の1に相当する額を徴収する。

第1期(4月から9月までの分)納期4月1日から4月30日まで

第2期(10月から翌年3月までの分)納期10月1日から10月31日まで

(入学料及び授業料の特例)

第35条 学校長は、経済的理由により入学料及び授業料を納付することが困難であると認められ、かつ、学業が優秀であると認められる者その他やむを得ない事情があると認められる者に係る入学料及び授業料の特例を定めることができる。

(休学の場合の授業料)

第36条 休学を許可され又は休学を命ぜられた者は、休学期間の授業料は徴収しない。ただし、第1学期又は第2学期の途中で休学若しくは復学した場合について、休学当期若しくは復学当期の授業料は徴収する。

(退学、停学の場合の授業料)

第37条 前期又は後期の途中で退学を許可され又は退学を命ぜられた場合における当該学期の授業料は徴収する。

2. 停学期間中の授業料は徴収する。

(入学検定料、入学料及び授業料の還付)

第38条 既納の入学検定料、入学料及び授業料は、返還しない。ただし、大学等における修学支援に関する法律(令和元年法律第8号)に基づき、大学等における修学の支援(学資支給金(給付型奨学金)の支給及び授業料等減免)において対象となる者はこの限りではない。

## 第10章 職員組織及び運営

(職員)

第39条 本学校に次の職員を置く。

学 校 長	1名
副 学 校 長	1名
事 務 長	1名
教 育 主 事	2名
実習調整者	1名以上
教 員	10名以上
教 務 助 手	1名以上
講 師	20名以上
実習指導者	若干名
健康管理医	1名以上
事務主任	1名以上
事務員	1名以上

2. 職員の職務及び運営については、独立行政法人国立病院機構組織規程及び業務基準の定めるところによる。

(学校長)

第40条 学校長は、独立行政法人国立病院機構別府医療センター院長をもって充てる。

(副学校長)

第41条 副学校長は、看護職の専任者とする。

(事務長)

第42条 事務長は、独立行政法人国立病院機構別府医療センター管理課長をもって充てる。

(健康管理医)

第43条 健康管理医は、独立行政法人国立病院機構別府医療センター医師をもって充てる。

(事務主任)

第44条 事務主任は、独立行政法人国立病院機構別府医療センター庶務班長をもって充てる。

## 第11章 寄 宿 舎

(寄 宿 舎)

第45条 本学校に寄宿舍を置く。

2. 寄宿舍に関し必要な事項は、別に定める。

3. 入居を許可された者は、別に定めるところにより、寄宿舍料を納入しなければならない。

## 第12章 弁 償

(弁 償)

第46条 学校長は、第35条の規定に該当する者で、第23条、第24条又は第30条の規定により、退学若しくは転学する者には、第35条に定める特例により徴収しないこととされた入学料及び授業料を弁償させることができる。



### 第13章 雑 則

第47条 本学則の他学校の運営に関して必要な事項は、別に定める。

#### 附 則

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

#### 附 則（平成16年11月30日）

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

#### 附 則（平成17年3月25日）

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

#### 附 則（平成19年3月7日）

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

#### 附 則（平成21年3月31日）

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

#### 附 則（令和2年3月19日）

この学則は、令和2年4月1日から施行する。

#### 附 則（令和4年4月1日）

この学則は、令和4年4月1日から施行する。

なお学則第18条及び別表3の規定は、この学則の施行日以後に入学する者について適用し、施行日以前に在学している者については、従前の例による。

## 授業科目・単位数及び時間数

平成4年度～平成8年度入学生(3回生～7回生)

分野	科目別	時間数			備考	分野	科目別	時間数			備考
		講義	実習	時間数				講義	実習	時間数	
基礎分野	論理学	30		30	数を含む	成人看護学	330		330		
	心理学	30		30		成人看護概論	15		15		
	社会学	30		30		成人保健	30		30		
	教育学	30		30		成人臨床看護	285		285		
	化学	30		30		老人看護学	90		90		
	物理学	30		30		老人看護概論	15		15		
	英語	120		120		老人保健	15		15		
	保健体育	60		60		老人臨床看護	60		60		
	小計	360		360							
専門基礎分野	医学概論	30		30	専門分野	小児看護学	120		120		
	解剖生理学	120		120		小児看護概論	15		15		
	生化学	30		30		小児保健	30		30		
	栄養学	30		30		小児臨床看護	75		75		
	薬理学	45		45		母性看護学	120		120		
	病理学	105		105		母性看護概論	15		15		
	微生物学	45		45		母性保健	30		30		
	公衆衛生学	45		45		母性臨床看護	75		75		
	社会福祉	30		30		臨床実習		1035	1035		
	関係法規	30		30		基礎看護		135	135		
	精神保健	45		45		成人看護		630	630		
	小計	555		555	老人看護						
専門分野	基礎看護学	390		390	小児看護		135	135			
	看護学概論	60		60	母性看護		135	135			
	基礎看護技術	255		255	小計	1050	1035	2085			
	臨床看護総論	75		75	計	1965	1035	3000			
		合計						3000			

平成9年度入学生～平成18年度入学生(8回生～17回生)

分野	科目名	単位数	時間数	分野	科目名	単位数	時間数
基礎分野	論 理 学	1	30	専門分野	看 護 研 究 理 論	1	30
	看 護 物 理 学	1	30		看 護 研 究 演 習	1	30
	情 報 科 学	1	15		在 宅 看 護 概 論	1	15
	情 報 科 学 演 習	1	30		在 宅 看 護 方 法 論・演 習	2	60
	社 会 学	1	30		在 宅 看 護 過 程 演 習	1	30
	心 理 学	1	30		成 人 看 護 学 概 論	1	15
	教 育 学	1	30		成 人 看 護 方 法 論 I	1	30
	人 間 関 係 論	1	30		成 人 看 護 方 法 論 II	1	30
	英 会 話	2	60		成 人 看 護 技 術 演 習	1	15
	英 語 講 読	1	30		周 手 術 期 看 護 方 法 論	1	30
	体 育 理 論	1	30		成 人 看 護 過 程 演 習	1	30
	体 育 実 技	1	30		老 年 看 護 学 概 論	1	30
	小 計	13	375		老 年 看 護 技 術 演 習	1	30
専門基礎分野	生 命 科 学	1	15		老 年 看 護 方 法 論	1	30
	身 体 機 構 総 論	1	30		老 年 看 護 過 程 演 習	1	15
	身 体 機 構 論 I	1	15		小 児 看 護 学 概 論	1	30
	身 体 機 構 論 II	1	15		小 児 看 護 方 法 論	1	30
	身 体 機 構 論 III	1	30		小 児 看 護 技 術 演 習	1	30
	身 体 機 構 論 IV	1	30		小 児 看 護 過 程 演 習	1	15
	身 体 機 構 論 V	1	15		母 性 看 護 学 概 論	1	15
	身 体 機 構 論 VI	1	30		母 性 看 護 方 法 論	2	60
	身 体 機 構 論 VII	1	30		母 性 健 康 教 育 演 習	1	30
	身 体 機 構 論 VIII	1	30		精 神 看 護 学 概 論	1	15
	身 体 機 構 論 IX	1	30		精 神 保 健 論	1	30
	生 化 学	1	30		精 神 看 護 方 法 論	1	30
	感 染 ・ 免 疫 学	1	30		精 神 看 護 方 法 論 演 習	1	30
	薬 理 学	1	30		小 計	39	1050
	栄 養 学	1	15		臨 地 実 習		
	健 康 科 学 概 論	1	15		日 常 生 活 援 助 実 習	1	45
	保 健 環 境 論	1	30		看 護 過 程 展 開 実 習	2	90
	保 健 行 政 論	1	30		成 人 周 手 術 期 看 護 実 習	2	90
	保 健 統 計 学	1	15		成 人 リハビリテーシヨ ン 看 護 実 習	2	90
	社 会 福 祉	1	30		成 人 セ ル フ ケ ア 実 習	2	90
	関 係 法 規	1	30		成 人 タ ー ミ ナ ル ケ ア 実 習	2	90
小 計	21	525	老 年 看 護 学 基 礎 実 習		2	90	
専門分野	基 礎 看 護 学 概 論	1	30		老 年 看 護 学 実 習	2	90
	看 護 理 論 演 習	1	30		小 児 看 護 学 実 習	2	90
	看 護 管 理 ・ 教 育	1	15		母 性 看 護 学 実 習	2	90
	基 本 看 護 技 術	2	60		在 宅 看 護 論 実 習	2	90
	基 本 看 護 技 術 校 内 実 習	1	30	精 神 看 護 学 実 習	2	90	
	日 常 生 活 援 助 技 術	2	60	小 計	23	1035	
	日 常 生 活 援 助 技 術 校 内 実 習	1	45	合 計	講 義	73	1950
	診 療 時 援 助 技 術	1	15		実 習	23	1035
	診 療 時 援 助 技 術 校 内 実 習	1	30				

平成19年度入学生～平成20年度入学生(18回生～19回生)

分野	科目名	単位数	時間数	分野	科目名	単位数	時間数
基礎分野	論 理 学	1	30	専門分野	看 護 研 究 演 習	1	30
	看 護 物 理 学	1	30		在 宅 看 護 概 論	1	15
	情 報 科 学	1	15		在 宅 看 護 方 法 論・演 習	2	60
	情 報 科 学 演 習	1	30		在 宅 看 護 過 程 演 習	1	30
	社 会 学	1	30		成 人 看 護 学 概 論	1	15
	心 理 学	1	30		成 人 看 護 方 法 論 I	1	30
	教 育 学	1	30		成 人 看 護 方 法 論 II	1	30
	人 間 関 係 論	1	30		成 人 看 護 技 術 演 習	1	15
	英 会 話	2	60		周 手 術 期 看 護 方 法 論	1	30
	英 語 講 読	1	30		成 人 看 護 過 程 演 習	1	30
	体 育 理 論	1	30		政 策 医 療 看 護 概 論	1	15
	体 育 実 技	1	30		政 策 医 療 看 護 方 法 論	1	15
	小 計	13	375		老 年 看 護 学 概 論	1	30
専門基礎分野	生 命 科 学	1	15		老 年 看 護 技 術 演 習	1	30
	身 体 機 構 総 論	1	30		老 年 看 護 方 法 論	1	30
	身 体 機 構 論 I	1	15		老 年 看 護 過 程 演 習	1	15
	身 体 機 構 論 II	1	15		小 児 看 護 学 概 論	1	30
	身 体 機 構 論 III	1	30		小 児 看 護 方 法 論	1	30
	身 体 機 構 論 IV	1	30		小 児 看 護 技 術 演 習	1	30
	身 体 機 構 論 V	1	15		小 児 看 護 過 程 演 習	1	15
	身 体 機 構 論 VI	1	30		母 性 看 護 学 概 論	1	15
	身 体 機 構 論 VII	1	30		母 性 看 護 方 法 論	2	60
	身 体 機 構 論 VIII	1	30		母 性 健 康 教 育 演 習	1	30
	身 体 機 構 論 IX	1	30		精 神 看 護 学 概 論	1	15
	生 化 学	1	30		精 神 保 健 論	1	30
	感 染 ・ 免 疫 学	1	30		精 神 看 護 方 法 論	1	30
	薬 理 学	1	30		精 神 看 護 方 法 論 演 習	1	30
	栄 養 学	1	15		小 計	41	1080
	健 康 科 学 概 論	1	15		臨 地 実 習		
	保 健 環 境 論	1	30		日 常 生 活 援 助 実 習	1	45
	保 健 行 政 論	1	30		看 護 過 程 展 開 実 習	2	90
	保 健 統 計 学	1	15		成 人 周 手 術 期 看 護 実 習	2	90
	社 会 福 祉	1	30		成 人 リハビリテーシヨン看護実習	2	90
	関 係 法 規	1	30	成 人 セ ル フ ケ ア 実 習	2	90	
小 計	21	525	成 人 ターミナルケア実習	2	90		
専門分野	基 礎 看 護 学 概 論	1	30	政 策 医 療 看 護 論 実 習	1	45	
	看 護 理 論 演 習	1	30	老 年 看 護 学 基 礎 実 習	2	90	
	看 護 管 理 ・ 教 育	1	15	老 年 看 護 学 実 習	2	90	
	基 本 看 護 技 術	2	60	小 児 看 護 学 実 習	2	90	
	基 本 看 護 技 術 校 内 実 習	1	30	母 性 看 護 学 実 習	2	90	
	日 常 生 活 援 助 技 術	2	60	在 宅 看 護 論 実 習	2	90	
	日 常 生 活 援 助 技 術 校 内 実 習	1	45	精 神 看 護 学 実 習	2	90	
	診 療 時 援 助 技 術	1	15	小 計	24	1080	
	診 療 時 援 助 技 術 校 内 実 習	1	30	合 計	講 義	41	1980
	看 護 研 究 理 論	1	30		実 習	24	1080



平成21年度入学生～令和3年度入学生(20回生～32回生)

分野	教育内容	科目名	単位数	時間数	分野	教育内容	科目名	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30	専門分野II	成人看護学	成人看護学概論	1	30
		教育学	1	30			成人看護方法論I	1	30
		情報科学	1	15			成人看護方法論II	1	30
		情報科学演習	1	30			成人看護方法論III	1	30
		看護物理学	1	30			成人看護方法論IV	1	30
	成人看護方法論V	1	15	老年看護学概論			1	30	
	人間と生活・社会の理解	社会学	1	30		老年看護方法論I	1	30	
		心理学	1	30		老年看護方法論II	1	30	
		人間関係論I	1	30		老年看護方法論III	1	15	
		人間関係論II	1	15		小児看護学概論	1	30	
		英会話	1	30		小児看護方法論I	1	30	
		英語講読	1	30		小児看護方法論II	1	15	
		体育理論	1	15		小児看護方法論演習	1	30	
		体育実技	1	30		母性看護学概論	1	15	
小計		13	345	母性看護方法論I	1	30			
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学I	2	45	母性看護方法論II	1	30		
		解剖生理学II	2	45	母性看護方法論演習	1	30		
		生化学	1	30	精神看護学概論	1	30		
		栄養学	1	15	精神看護方法論I	1	30		
		微生物学	1	30	精神看護方法論II	1	30		
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	15	精神看護方法論III	1	15		
		疾病論I	1	30	成人看護学実習I	2	90		
		疾病論II	1	30	成人看護学実習II	2	90		
		疾病論III	1	30	成人看護学実習III	2	90		
		疾病論IV	1	30	老年看護学基礎実習	2	90		
		疾病論V	1	30	老年看護学実習	2	90		
		薬理学I	1	15	小児看護学実習	2	90		
		薬理学II	1	15	母性看護学実習	2	90		
		治療論	1	30	精神看護学実習	2	90		
	健康支援と社会福祉制度	保健医療論	1	15	小計	38	1305		
		社会福祉	2	45	在宅看護論	在宅看護概論	1	15	
		関係法規	1	30		在宅看護方法論演習I	2	60	
		公衆衛生学	2	30		在宅看護方法論演習II	1	30	
		小計	22	510		在宅看護論実習	2	90	
専門分野I	基礎看護学	看護学概論	2	45		看護マネジメント	1	15	
		安全を守るための技術	1	15		医療安全と看護	1	30	
		対象把握のための技術	1	30		看護実践演習	2	45	
		看護を展開するための技術	1	30		統合実習	2	90	
		日常生活援助技術I	1	30		小計	12	375	
		日常生活援助技術II	2	60		合計	100	3000	
		診療時援助技術	2	60					
		臨床看護総論	1	30					
		看護研究	1	30					
		日常生活援助実習	1	45					
		基礎看護学実習	2	90					
小計	15	465							

令和4年度入学生(33回生)

分野	教育内容	科目名	単位数	時間数	分野	教育内容	科目名	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30	地域・在宅看護論	地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	30	
		教育学	1	30		地域・在宅看護方法論Ⅲ	1	15	
		看護物理学	1	30		地域・在宅看護方法論Ⅳ	1	30	
		情報科学	1	15		地域・在宅看護方法論Ⅴ	1	15	
		情報基礎演習	1	15		成人看護学概論	1	30	
		I C T 活用演習	1	15	成人看護方法論Ⅰ	1	30		
	人間と生活・社会の理解	社会学	1	30	成人看護方法論Ⅱ	1	30		
		心理学	1	30	成人看護方法論Ⅲ	1	30		
		人間関係論Ⅰ	1	30	成人看護方法論Ⅳ	1	30		
		人間関係論Ⅱ	1	15	成人看護方法論Ⅴ	1	15		
		医療英語Ⅰ	1	30	老年看護学概論	1	15		
		医療英語Ⅱ	1	30	老年看護方法論Ⅰ	1	30		
		体育理論	1	15	老年看護方法論Ⅱ	1	30		
		体育実技	1	30	老年看護方法論Ⅲ	1	15		
小計			14	345	小児看護学	小児看護学概論	1	15	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学	2	45		小児看護方法論Ⅰ	1	30	
		生理学	2	45		小児看護方法論Ⅱ	1	30	
		生化学	1	30		小児看護方法論Ⅲ	1	15	
		栄養学	1	15		母性看護学概論	1	15	
		微生物学	1	30		母性看護方法論Ⅰ	1	30	
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	15		母性看護方法論Ⅱ	1	30	
		疾病論Ⅰ	1	30		母性看護方法論Ⅲ	1	15	
		疾病論Ⅱ	1	30		精神看護学概論	1	15	
		疾病論Ⅲ	1	30		精神看護方法論Ⅰ	1	30	
		疾病論Ⅳ	1	30		精神看護方法論Ⅱ	1	30	
		疾病論Ⅴ	1	30		精神看護方法論Ⅲ	1	15	
		薬理学	1	15	看護組織管理	1	30		
		看護薬理	1	15	医療安全の基礎	1	15		
		治療論	1	30	看護の統合演習	1	30		
治療倫理		1	15	看護倫理	1	15			
健康支援と社会保険制度	保健医療論	1	15	小計			43	1035	
	社会福祉	2	45	基礎看護学実習Ⅰ	1	45			
	関係法規	1	30	基礎看護学実習Ⅱ	2	90			
	公衆衛生学	2	45	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	30			
小計			22	525	地域・在宅看護論実習Ⅱ	1	45		
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	地域・在宅看護論実習Ⅲ	2	90		
		基礎看護技術Ⅰ	1	30	成人老年看護学実習Ⅰ	2	90		
		基礎看護技術Ⅱ	1	30	成人老年看護学実習Ⅱ	2	90		
		基礎看護技術Ⅲ	1	30	成人老年看護学実習Ⅲ	2	90		
		日常生活援助技術Ⅰ	1	30	成人老年看護学実習Ⅳ	2	90		
		日常生活援助技術Ⅱ	1	30	小児看護学実習	2	90		
		診療時援助技術Ⅰ	1	30	母性看護学実習	2	90		
		診療時援助技術Ⅱ	1	30	精神看護学実習	2	90		
		臨床看護総論Ⅰ	1	15	統合実習	2	90		
		臨床看護総論Ⅱ	1	15	小計			23	1020
		看護研究の基礎	1	30	合計			102	2925
		地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1	15				
			地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	15				

# 教育理念・教育方針・教育目的・教育目標

## 1. 教育理念

本校の教育は、豊かな人間性と、自ら進んで学習する能力を備えた、独立行政法人国立病院機構と社会に貢献できる質の高い看護の実践者を育成することを目指す。

## 2. 教育方針

本校の教育は、生命の尊厳と人間尊重を基盤とする。保健・医療・福祉全般にわたる広い視野をもち、生涯を通じて個人の資質を心身両面にわたって発展させると共に、課題を探求する能力を備えた、独立行政法人国立病院機構と社会に貢献する質の高い看護者を育成する。

看護は、健康や生活という視点から、その人らしい生き方を支援する活動である。そのため、対象を身体・精神・社会的に統合された個別の存在として理解する能力を育成することが必要である。看護は対象との相互作用を通して人間関係の形成を図るため、他者理解と同時に自己理解を深めることが不可欠である。その上で、科学的思考に基づき、健康や障害の課題を明確にし、対象に応じた看護を提供するための看護実践力、チーム医療の一員としての役割を果たす基礎的な能力を育成することが重要である。また、国際感覚を身につけ、時代の変化や多様な価値に対応するために、最新知識や技術、社会や地域の状況を学び続ける基礎的能力も必要となる。本校は、これらを身につけ主体的に看護を創造できる看護師を育成する。また、学習者の個性を尊重し、豊かな人間性を育み学習者の成長が図れるよう支援する。

## 3. 教育目的

本学校は看護師として必要な知識及び技術を教授し、独立行政法人国立病院機構及び社会に貢献しうる有能な人材を育成することを目的とする。

## 4. 教育目標

- 1) 看護の対象である人間を総合的に理解できる能力を養う
- 2) 看護の対象となる人を尊重し、倫理に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う
- 3) 科学的思考に基づいた基礎的看護実践能力を身につける
- 4) 保健・医療・福祉システムを総合的に理解し、看護師の役割及びチーム医療における多職種と連携・協働する基礎的能力を養う
- 5) 専門職業人として自ら進んで学習する能力を身につける

## 5. アドミッションポリシー

- 1) 人に対する関心や思いやりをもつことができる人
- 2) 看護への関心があり自ら学び成長しようと努力する人
- 3) 自らの考えをもち、筋道を立てて伝えることができる人
- 4) 自らのことに責任をもち健康や生活に対する管理ができる人
- 5) 人との関りを大切にし、チームワークに必要な協調性をもつ人

## 6. ディプロマポリシー

別府医療センター附属大分中央看護学校は以下の能力を身につけ、かつ本校の看護専門課程を修了した者には、専門士（医療専門課程）の称号を授与します。

- 1) 幅広い知識と確かな技術、豊かな人間性
- 2) 人間を総合的に理解し、生活者として捉える力
- 3) 高い専門性と倫理観をもって独立行政法人国立病院機構と社会へ貢献する意志をもち、専門職業人として看護を実践する力
- 4) 保健・医療・福祉システムを総合的に理解し、多職種と連携・協働する力
- 5) 看護専門職として自己の課題を明確にし、学習し続ける力

## 7. 分野の考え方

教育目的である「看護師としての知識、技術を身につけた有能な看護の実践者を育成する」ためには、基礎教育を土台として、学習を継続していくことのできる能力の育成が重要である。そのためには、広く教養や社会人としての常識を身につけること、他者との相互作用を通して感性を磨き豊かな人間性の陶冶がはかられることが重要である。教育内容の設定にあたっては、学生のレディネスを踏まえて内容を精選し、教育方法を工夫し、効果的な配列を考慮する必要がある。そのために、基礎分野、専門基礎分野は、専門分野と有機的に関連しており、専門分野の理解を助け、看護の対象である人間の理解、看護の課題の明確化や看護実践の方法の選択や実践の評価に活用できるように組織化する必要がある。また、教科外活動や教育環境の工夫を取り入れることで学生の総合的な発達を促していく。

### <基礎分野>

基礎分野は、「科学的思考の基盤」「人間の生活・社会の理解」からなる。本校は、これらの教育内容として、14科目、14単位を設定している。

「科学的思考の基盤」となる科目は、論理的な思考力の育成、情報処理能力や、統計分析の基礎能力、情報管理の知識、情報通信技術（ICT）を活用するための技術、教育の本質や目的を理解するための科目を設定した。看護物理学においては、物理の知識を看護活動の根拠と結び付けて学習する。

「人間の生活・社会の理解」では、社会学、心理学、人間関係論Ⅰ、人間関係論Ⅱ、医療英語、体育理論・実技を設定した。人間関係論Ⅰでは、人間の心理や特徴と関連づけながら、人間関係の基礎となる理論を学ぶ。人間関係論Ⅱでは、自己の思考や思いを効果的に伝える、あるいは聴くというコミュニケーション技法等、自己表現スキルの向上、相互関係を良好に維持しながら積極的な人間関係づくりへのアサーションの考え方について学ぶ。これらの学習を通して、相互関係づくりの意義や人権尊重の理解につなげる。

### <専門基礎分野>

専門基礎分野では、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」、「健康支援と社会保障制度」について学ぶ。

本校は、これらの教育内容として、18科目22単位を設定している。「人体の構造と機能」では、解剖学、生理学をはじめ生化学、栄養学、微生物学を学ぶ。「疾病の成り立ちと回復の促進」では、病理学をはじめ各疾病論、薬理学、治療論を学ぶ。臨床判断能力の基盤を強化するために新たに看護薬理学を設定し、治療に必要な重要薬物の作用機序、投与方法と吸収や効果の関係をもとに身体観察の実際、与薬の実際、服薬管理等を学ぶ。また、チーム医療についても関連職種の役割と共に理解できるよう教授する。

治療論では、手術、放射線、化学療法、内視鏡、麻酔やリハビリテーションなど主な治療方法について各疾患と関連させて理解できるように構成する。

「健康支援と社会保障制度」については、保健医療論、社会福祉、関係法規、公衆衛生学の4科目を設定している。



社会福祉、公衆衛生学においては、社会や地域の特性を理解したうえで法律やケアシステム等の制度に基づいて看護活動の多様性を学び、看護実践力を修得する必要がある。そこで、地域・在宅看護論実習と関連させながら学習する。

### <専門分野>

専門分野は、看護学で構成されており、基礎分野や専門基礎分野で学んだ知識を基盤とし、臨床判断力や倫理的判断に必要な基礎的能力を養い看護実践の根拠や方法について具体的に学ぶ。「基礎看護学」は10科目11単位、「地域・在宅看護論」は対象者の療養の場の拡大を踏まえ6科目6単位、「成人看護学」6科目6単位、「老年看護学」4科目4単位、「小児看護学」4科目4単位、「母性看護学」4科目4単位、「精神看護学」4科目4単位、「看護マネジメント」4科目4単位で構成している。

「基礎看護学」は、あらゆる領域の土台となる看護の対象の理解、看護の目的・役割・機能の理解、看護の方法としての基本技術を学ぶ。基礎看護学は、看護学概論、基礎看護技術、日常生活援助技術、診療時援助技術、臨床看護総論、看護研究の基礎で構成されている。これらの科目では、対象の発達段階や生活する場の違い、疾患・治療・処置などの多様性に応じて、看護の方法を工夫することができるよう看護の基礎を学ぶ。さらに、基礎分野、専門基礎分野で学んだ知識をもとに人間観、看護観、倫理観を形成していく分野でもある。看護を学び始めた学生が初めて看護の楽しさを体感し、看護への興味関心や探求していこうとする動機付けにもなる。

「地域・在宅看護論」は、地域で生活するあらゆる健康レベルの人および家族を対象とする看護及びケアシステムについて学ぶ。地域・在宅看護論では、病院や施設のみならず、住み慣れた地域でその人らしい暮らしを支える多職種連携を含めた看護の方法を学ぶ。地域で生活する対象の健康レベルはさまざまである。地域で生活する対象の暮らしを支える家族や社会資源、マネジメントについて理解を深める。また、必要な看護を提供するための生活環境を活かした看護技術の応用についても学習する。

「成人看護学」では、心身ともに成長・成熟し、課題に直面しながら意志決定し、自己を発展・拡大させていく対象が、生活習慣や社会でのストレス等で健康障害をきたした際の、あらゆる健康レベルでの看護を学ぶ。多種多様な価値観をもつ対象の生活と健康状態を理解し、急性期・回復期・慢性期・終末期という機能分化に対応する看護の実際を理解し、医療と対象の生活する地域と連携を取ることで、対象の生活を切れ目なく支援する看護の実際を学ぶ。そこで、健康上の課題や特徴から急性期看護としてクリティカルな看護、機能回復・障害受容を支援する看護、慢性期としてセルフケアを支援する看護、終末期として緩和ケアにおける看護の実際を学ぶ。

「老年看護学」では、高齢者の特徴とその家族を理解し、その人らしく自律的な生き方の実現と人生の最終段階として安らかな死を迎えるための支援について学習する。人生の円熟期をむかえた老年期の対象の人生における生活史、生活習慣、多様な価値観を理解し、持てる力を引き出す看護を学ぶ。また、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割を理解し、医療と地域の連携、住み慣れた場所で健康を維持できるような支援の実際を理解する。

「小児看護学」では、成長・発達を理解し、小児期に起こりやすい健康問題と必要な看護について学ぶ。

小児看護学では、子どもの権利を守り、子どもと家族の状況を判断し、さまざまな健康状態と発達段階に応じた看護の実際について学習する。小児看護では、発達途上にある子どもを一人の人格ある人として認識し、その子どもの健全な発育を促進するように援助することが大切である。子どもの健康の保持増進や健全な成長・発達の促進、健康の回復にむけた看護の実際を学ぶ。

「母性看護学」では、女性とその家族を対象に、女性の生涯にわたる健康の維持・増進を学ぶ。また、周産期の正常な経過や異常の理解、健やかな生活に向けた母子のケアとして、妊娠期から継続した母性各期の健康の維持・増進を学ぶ。妊娠・分娩・産褥・新生児の正常の経過と看護、異常に対する看護を学ぶとともに、リプロダクティブヘルス/ライツに関連する女性と家族の意思決定や母子の健やかな生活における保健活動・育児支援、妊娠期

から産褥期を通して継続した母子への健康生活の支援を学ぶ。

「精神看護学」では、精神の健康の保持・増進と精神障害をきたした対象への看護を学ぶ。精神の健康問題は、社会の変動による生活の変化とも大きく関連する。心の発達は、固有の過程をたどることや精神障害の特徴、症状が生活に及ぼす影響について理解を深め、心の健康の保持・増進のための個別性のある看護、対象の生活の自立・回復を促進するための援助の実際、ケアを実践する看護師が対象に与える影響や看護師の心の健康の維持についても学ぶ。また、地域で生活する精神障害者への継続的な支援とその方法について学ぶ。

「看護マネジメント」では、看護組織管理、災害看護、国際看護、安全管理と看護、看護の統合演習、看護倫理等について学ぶ。看護管理では看護組織における看護師教育やチーム医療、医療安全、他職種との協働と連携について学ぶ。さらに、災害看護では、頻発する災害で実際に行われた看護活動について理解を深めるために、災害時のトリアージとして、演習を取り入れ学習する。また、災害サイクル（発生直後～復興～予防、準備）ごとに優先される人々のニーズと必要な看護を理解する。国際看護では、実際に行われている国際協力の実際や課題について理解する。安全管理と看護では、リスクマネジメントの実際について学ぶ。実際に発生したインシデント事例を通して患者誤認、転倒・転落、誤薬のリスクを認知し、回避行動について理解を深める。看護の統合演習では、科学的根拠に基づいて優先度を考慮した看護実践について演習を通して理解を深める。看護倫理については、具体的な看護場面を基に倫理原則と倫理的ジレンマの実際について学習を深める。演習や意見交換を基に倫理的意

思決定の方法を理解する。

臨地実習では、2025年以降の医業分化や地域包括ケアシステムに基づく看護活動の多様性を考慮し、「地域・在宅看護論」は、地域で生活する対象のケアマネジメント、介護を必要としている対象への支援、保健活動の実際、訪問看護の実際を学習する。また、「成人老年看護学実習」は成人期あるいは老年期にある対象の急性期看護、回復期看護、慢性期看護、終末期看護の実践を実習できるよう設定している。「小児看護学実習」「母性看護学実習」「精神看護学実習」においては、入院している対象への看護実践に留まらず、地域で生活する対象と実際に関わることで生活者としての対象への多様な支援のあり方を学習する。

「看護の統合と実践」については、専門分野で学んだ知識と技術を統合し、対象に必要な看護の優先順位を判断し、医療チームの一員として協働、連携を図りながら必要な看護を実践する看護マネジメントの実際を学習することをねらいとする。

以上が分野の考え方である。総単位数は、102単位である。

## 主要概念

### <人間>

- ・人間は、身体的・精神的・社会的に統合された存在である。
- ・人間は、身体・精神・社会的側面が相互に影響しながら生活している。
- ・人間は、唯一無二の存在であり、尊重される。
- ・人間は、生涯を通じ、自己実現に向かって成長する。
- ・人間は、固有の価値観をもち、主体的に意思決定をおこなう。
- ・人間は、他者や環境との相互作用を通して変化する。
- ・人間は、自然治癒能力を有し、学習によって高めることができる。
- ・人間は、受胎・誕生・成長・成熟の過程を経て、やがて死を迎える。
- ・人間は、健康で幸福に生きる権利と社会の一員としての義務を果たす責任をもつ。

### <環境>

- ・環境は、個人を取り巻く自然環境や社会環境をあらわす。
- ・環境は、個人や集団の健康や生活に影響を与える。また個人や集団により環境も変化している。
- ・環境は、人間が健康で幸福に生きるために、法律、政治、文化、情報、経済、教育、医療、福祉などの機能をもつ。
- ・環境は、急速に変化しており自然環境は地球規模での保護が必要となっており、個人はその責任をもつ。
- ・環境は、グローバル化の進展により、国際的なレベルでの対応が不可欠になっている。

### <健康>

- ・健康は、その人が持てる力を発揮することで、生活の質を高め、健やかに生きることである。
- ・健康は、主観的な健康と客観的な健康があり、両者は必ずしも一致しない。
- ・健康は、流動的であり、個人や環境の影響により変化する。
- ・健康は、適応、安定、変化、成長という要素により多様な捉え方ができる。
- ・健康は、生きる目的ではないが、幸福に生きるために重要である。

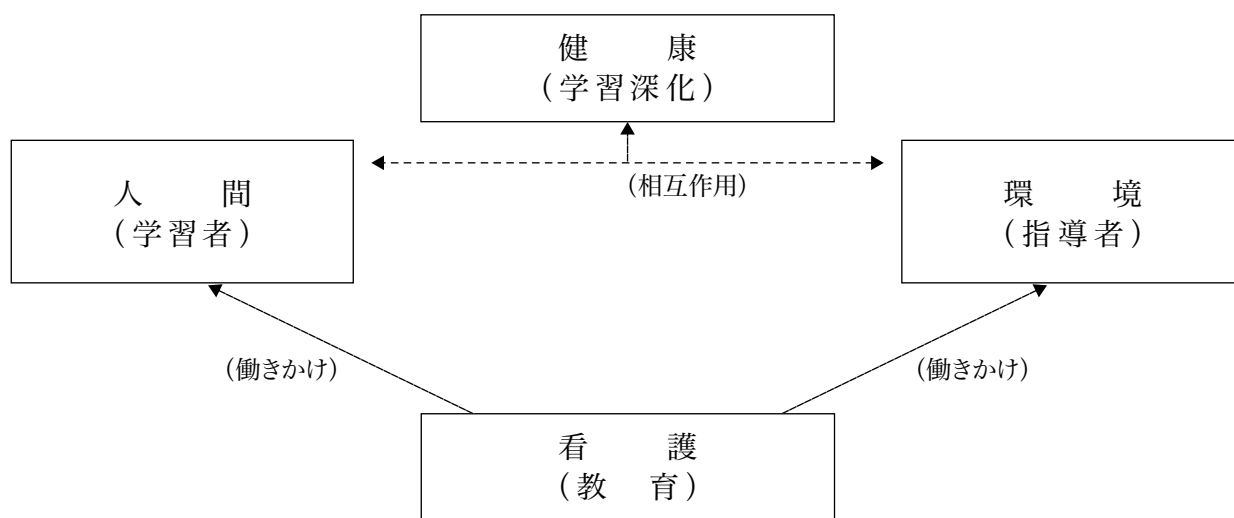
### <看護>

- ・看護は、人類の歴史と同時に常に誰かによって行われてきた人間らしい働きかけである。
- ・看護の本質は、生物体、生活体である人間の、個別の状況に応じた基本的ニーズの充足を通して生活の質を高めていくことである。
- ・看護は、社会の変化に伴いその機能も変化しており、専門的職業としての価値は社会に不可欠なものである。
- ・看護は、疾病予防、健康増進、疾病からの回復、苦痛の緩和を図るという使命をもつ。
- ・看護は、対象者と看護者との相互作用により展開されるため両者に影響を及ぼす。
- ・看護は、個別の状況に応じた生活援助により、基本的欲求の充足を促し、生活の質を高めることを独自の機能としている。
- ・看護は、対象者のみならず、対象者を取り巻く家族や環境にも働きかけをおこなう。
- ・看護は、社会的な機能の一つであり、その役割を果たすために保健・医療・福祉の関連職種と連携をおこなう。
- ・看護は、その目的を果たすために経験を意味づけることに加え、知見を活用した働きかけが必要であり、結果の評価を生かすことで発展していく。
- ・看護は、実践と、研究と理論が相互につながることで、実践の科学としての発達を遂げることができる。

### <教育>

- ・教育は、人間の成長・発達に不可欠のものである。
- ・教育は、人間の権利として保障される。
- ・教育は、家庭、地域、学校、組織や集団、行政、企業、マスコミなど人間の存在する場で意図的、無意図的に行われており、好むと好まざるに関わらず影響をうけている。
- ・学校教育は、特定の目的のもとに組織化されており、目的達成が使命となる。
- ・教育は、学習者が主体であり、個人の能力を発達させることで、目的の実現を目指す。
- ・教育は、知識、技術、態度の修得をバランスよく図ることで実践者を育成する。
- ・教育は、学習者と指導者の相互作用により深化・発展していく過程で、両者の発達を促す。
- ・基礎教育は、生涯教育の基礎となるものであり、自己教育力により発展していく。

《概念の関係》





## 教育内容の概要（現行）

分野	教育内容	科目	講義	実習	科目目標	教育内容概要
			単位と時間数			
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1 (30)		「推論」(論理的に考えるということ)の基本的な仕組みと推論の日常的な議論への適用である「論証」を理解し、思考を論理的に表現することができる。	論理とは、倫理法則、推論の形式、文章の構成、評価
		教育学	1 (30)		教育の意味を考えつつ、人間の成長発達にとって教育が持つ重要性を理解する。制度化された公教育機関である学校が成立した背景や役割、さらに現代的課題である生涯学習にもふれながら、生涯にわたる人間の正常発達にとって教育という作用が不可欠であることを理解する。	教育の本質、人間の発達と教育、教育の原理、教育の意義、教育と発達、家庭教育、生涯学習
		看護物理学	1 (30)		身近な現象を通して看護に必要な物理学の基礎を学び、身体/身体ケアや検査・治療・処置に関する物理学の原理を理解する。	物理学とは、看護への物理学の応用(力の合成と分解、重心位置、運動量、力のつり合い、作用反作用(体位と体位変換、移動)、熱力学、熱の産生と伝導、熱の移動(罨法、清潔援助)、検査・処置、治療に関する物理学
		情報科学	1 (15)		社会における情報化の進展及びコンピュータの役割や仕組みとその利用方法について理解する。医療情報の取り扱いなど情報倫理について理解する。	医療における情報、情報倫理、コンピュータの基礎、コンピューターネットワーク、情報セキュリティ、医療情報システム
		情報基礎演習	1 (15)		コンピュータの基本操作を理解し、各種ソフトの基本的な操作ができる。統計処理の基礎知識について学び、コンピュータを使った処理技術を身につける。	ネットワークの利用、データ管理、文書作成、プレゼンテーション、表計算、文献検索
		ICT活用演習	1 (15)		インターネット上の資源やサービス、基本的なソフトウェアを使い情報を活用するための操作を身につける。	データベースの利用、マルチメディア素材の作成と活用、クラウドサービスの活用、ICT機器の活用、質的・量的データ処理
		社会学	1 (30)		社会の仕組みや構成、集団による文化や価値観の違いを学び、社会的存在としての人間について理解する。	社会学の成立、資本主義の理論、社会と文化社会、家族の多様化、女性と労働
	心理学	1 (30)		基礎的な分野で従来積み上げられてきた研究を概観し、「こころ」についての知識を深める。基礎的な心理学的事実を関連付け統合し、実際の看護や臨床の場面でどのように応用すべきか理解する。	心理学とは、感覚と知覚、記憶、思考、学習、性格とパーソナリティ、社会と集団、臨床心理、医療・看護と心理	
	人間と生活・社会の理解	人間関係論Ⅰ	1 (30)		人間関係の心理の基礎や心の問題を解決する治療法・技法の特徴と理論、心理臨床に関する理論と実践の基礎を理解する。闘病生活を支える人間関係、保健医療チームの人間関係、家族を支える人間関係など、臨床場面の看護における人間関係について理解する。	人間関係の心理の基礎、心理臨床に関する理論と実践、看護の臨床場面での人間関係、看護と人間関係づくりの演習
		人間関係論Ⅱ	1 (15)		自己の意見・考え・欲求・気持ちを率直で正直に相互尊重のもとに自己表現するというアサーションの考え方を理解し、アサーティブな自己表現スキルを身につける。医療現場での看護に活かすコミュニケーションの持ち方を理解する。	アサーションの必要性、医療現場でのコミュニケーションの特徴、DESC法、傾聴スキル
		医療英語Ⅰ	1 (30)		医療・看護の国際化への対応を視野に入れ、実際の看護場面を想定し、日常会話や臨床看護場面での英語会話等、英語によるコミュニケーションを身につける。	位置、バイタル、痛みを表す表現、病状チェック、検査のための表現、日常生活援助の表現、薬剤の種類、救急室での表現

分野	教育内容	科目	講義	実習	科目目標	教育内容概要
			単位と時間数			
基礎分野	人間と生活・社会の理解	医療英語Ⅱ	1 (30)		国際化にともない、変化する日本の医療・看護の現場で、専門分野の英語による文献、論文、アブストラクトやインターネットサイトの情報について読解し、その内容を理解する。	英語の基礎、医療や看護の語彙や表現
		体育理論	1 (15)		現代における健康のあり方について考察し、健康を保持・増進し、体力向上のための具体的方法について理解する。	健康と生活、運動処方、健康に良い運動とは、メンタルヘルス、睡眠
		体育実技	1 (30)		様々な運動やスポーツを実践することで、仲間とのコミュニケーションを図るとともに、協力や協調性を理解する。また運動と健康の関連性を認識し、運動を実践する重要性を理解する。	実技(ストレッチ体操、バレエ、バスケットボール、バドミントン、卓球)
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学	2 (45)		人体の形態と構造について系統的に理解する。また、器官を構成する細胞や分子について、器官のシステムとしての働きを理解する。	人体とは、栄養の消化と吸収、呼吸と血液のはたらき、血液の循環と調節、体液の調節と尿の生成、内臓機能の調節、身体の支持と運動、情報の需要と処理、外部からの防御、生殖
		生理学	2 (45)		人体を構成する細胞や器官の機能について学ぶ。生命を維持する働きや活動を統合する働きについて学ぶ。	生体のメカニズム、栄養の消化と吸収のメカニズム、呼吸と血液の循環と調節のメカニズム、体液の調節と尿の生成のメカニズム、内臓機能の調節機能、身体の支持と運動のメカニズム、情報の需要と処理、外部からの防御機能、生殖(生殖機能、成長と老化)
		生化学	1 (30)		人体を構成する細胞、生体内における代謝と役割、生命活動を営むために必要な栄養、遺伝について理解する。	生命を維持するために生体内で起こっている化学反応、物質代謝、栄養素のエネルギー変換のしくみ
		栄養学	1 (15)		人間に必要な栄養・栄養素について理解する。また、現代の食生活の現状や問題点・健康障害時の食事に関する知識を理解する。	栄養と栄養素、栄養状態の評価、日常生活と栄養、ライフステージと栄養、療養生活と食事、食事指導、チーム医療と食事
		微生物学	1 (30)		感染症の原因である微生物および微生物とその宿主(特に人間)との相互関係について理解する。また人間を取り巻く環境中の微生物について理解する。	微生物の成り立ち、感染症、細菌の構造、感染経路、感染症の検査方法、感染症の診断、観察、感染症の予防、細菌学、ウイルス学、公衆衛生と危機管理
疾病の成り立ちと回復の促進		病理学	1 (15)		人体の健康が破綻する病態の原因・発生機序・治療や検査を理解する。	疾病の要因と生体の回復、細胞の障害、生体の障害、感染、病理診断
		疾病論Ⅰ	1 (30)		呼吸器および循環器の疾病について病態・検査・治療を理解する。	呼吸機能の障害、呼吸器の主な疾患、主要症状、検査・治療・処置、外科的療法 循環器系の障害、心臓の主な疾患、主要症状、検査・治療・処置、外科的療法、血管の疾患
		疾病論Ⅱ	1 (30)		消化器および内分泌・代謝の疾病について病態・検査・治療を理解する。	消化器系の主な疾患、主要症状、検査・治療・処置、外科的療法 内分泌・代謝系の主な疾患、主要症状、検査・治療・処置、外科的療法

分野	教育内容	科目	講義	実習	科目目標	教育内容概要
			単位と時間数			
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病論Ⅲ	1 (30)		脳神経および運動器の疾病について病態・検査・治療を理解する。	脳神経系の主な疾患、主要症状、検査・治療・処置、外科的療法 運動器系の主な疾患、主要症状、検査・治療・処置、外科的療法
		疾病論Ⅳ	1 (30)		腎・泌尿器、生殖器系、乳腺の疾病および感染症の病態・検査・治療を理解する。	腎・泌尿器系の主な疾患、主要症状、検査・治療・処置、外科的療法、生殖器系の主な疾患、主要症状、検査・治療・処置、外科的療法、乳腺疾患と主要症状、検査・治療処置、主な感染症と症状、治療と予防
		疾病論Ⅴ	1 (30)		血液・造血器、アレルギー、膠原病、感覚器、口腔・歯の疾病について病態・検査・治療を理解する。	血液・造血器系の主な疾患、主要症状、検査・治療・処置。アレルギーの主な疾患と症状、検査・治療・処置。自己免疫疾患の症状、検査・治療。感覚器系の主な疾患と症状、検査・治療・処置
		薬理学	1 (15)		薬物の特性及び作用・副作用についての基礎的な知識を理解する。	薬理作用と作用機序、薬物動態、投与経路と血中濃度の推移、形状と体内動態、薬物と臨床検査、薬事法規
		看護薬理	1 (15)		薬理学の内容を基礎知識として、臨床で薬物療法を受ける患者の看護について推論する。	薬物療法に関する基礎知識、与薬種類別の方法、与薬の実際、医薬品の安全な管理と使用、処方箋の確認、薬物療法を受ける患者の臨床推論
		治療論	1 (30)		臨床で行われる主な治療である手術療法、麻酔法、放射線療法、がん化学療法、リハビリテーションの特徴と人体への影響について理解する。	手術療法、麻酔法、放射線診断、放射線治療、化学療法、リハビリテーション療法
	健康支援と社会保障制度	保健医療論	1 (15)		医学・医療とは何か、また、現代医療の動向や看護の役割を理解する。さらに、国立病院機構の機能や特徴を理解する。	医学・医療の歴史、医学と医療、現代医療における諸問題、保健医療福祉をとりまく社会の変化と今後の医療、国立病院機構が担う医療
		社会福祉	2 (45)		すべての人が人間としての尊厳を有し、価値ある存在であり、平等であることを理解する。現代の社会構造を理解し、看護専門職として支援のあり方を考える。	生活者の健康と福祉、社会保障の目的と機能、社会保障制度、社会福祉に関する法律の理解、社会福祉行政のしくみ
		関係法規	1 (30)		人々の健康を守り、看護職として職務を正しく遂行するために必要な保健・医療・福祉に関する制度や法律を理解する。	法の概念、法規の種類、保健衛生法規、衛生法規、環境保全法規、労働関係法規、医事法規、看護と関係法規（保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保に関する法律）、医療サービスの供給体制
		公衆衛生学	2 (45)		公衆衛生の基本内容、生活者の健康保持増進に関する保健活動を理解する。	公衆衛生の概念、健康と環境、健康に関連した指標、生活環境の保全（環境保全対策、地球環境、ごみ・廃棄物、住環境）、食と公衆衛生、疾病の疫学と予防（健康の理解、感染症の基本、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、保健活動の基盤となる法や施策（地域保健、母子保健、精神保健、学校保健等）、保健統計、これからの公衆衛生

分野	教育内容	科目	講義	実習	科目目標	教育内容概要
			単位と時間数			
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1 (30)		看護の主要概念である人間・環境・健康・看護についての考え方を基盤として、看護の対象である人間の理解、看護活動の場と看護の機能と役割及び専門職としての責務について理解する。	看護の概念、看護の対象としての人間、人間を取り巻く環境因子と健康、看護活動の場と看護の機能・役割、看護理論家とその業績、専門職としての看護職の責務
		基礎看護技術Ⅰ	1 (30)		全ての看護に共通する技術として、人間関係を成立させるためのコミュニケーション技術、安全・安楽、感染防止についての考え方を理解し、安全・安楽を守る技術、感染防止の技術を身につける。	コミュニケーションの意義と目的、関係構築のためのコミュニケーション、プロセスレコード、医療安全の概念と安全管理、安全を守る技術（誤薬、誤認防止、転棟転落防止、暴露防止、針刺し事故防止）感染の成立と予防、感染防止の技術（標準予防策、洗浄、消毒、滅菌、手指衛生、無菌操作）
		基礎看護技術Ⅱ	1 (30)		全ての看護に共通する技術として、観察の重要性を理解し、対象の状態を的確に判断するためのフィジカルアセスメント技術を身につける。さらに情報を共有するための記録、報告について理解する。	観察の意義、種類と方法、フィジカルアセスメントの意義、系統別フィジカルアセスメント、看護における情報管理、記録の要素、報告の意義と方法
		基礎看護技術Ⅲ	1 (30)		対象に必要な看護を展開するための技術として問題解決技法である看護過程展開技術を理解する。また、指導・教育的な関わりとして学習支援のための教育・指導技術を身につける。	ロイ適応看護モデルを用いた看護過程展開技術、個別あるいは集団への学習支援の特性と適応
		日常生活援助技術Ⅰ	1 (30)		人々の健康と生活を理解し、対象を取り巻く生活環境（療養環境、活動と休息、食事と栄養）を整えるための技術を身につける。	環境調整、活動・休息、食事と栄養の意義、療養環境を整える技術、ボディーメカニクスの基本原理と体位保持、体位変換、移乗・移送、休息と睡眠の援助、食事と栄養を支える技術
		日常生活援助技術Ⅱ	1 (30)		人々の健康と生活を理解し、対象を取り巻く生活環境（衣・清潔、排泄）を整えるための技術を身につける。	衣生活・身体清潔、排泄の意義、全身清拭や入浴介助等、皮膚の清潔を保つ技術、排泄の援助技術
		診療時援助技術Ⅰ	1 (30)		呼吸、循環を整える治療、処置の目的と方法を理解し、安全・安楽な治療・処置の援助技術を身につける。	呼吸を楽にする姿勢と呼吸法、酸素吸入、排痰と吸引、体位ドレナージ、血圧、血流を保持する姿勢と方法、穿刺、包帯法、止血の方法
		診療時援助技術Ⅱ	1 (30)		診察や検査、治療（注射）の目的と方法を理解し、安全・安楽な診察、検査、治療（注射）の援助技術を身につける。	診察、検査の目的と方法、診察時の援助技術、生体機能のモニタリング、検体検査、採血法、治療（注射）の目的、方法、静脈内注射、筋肉内注射
		臨床看護総論Ⅰ	1 (15)		健康の段階および健康障害の経過に応じた対象と家族の適応を促す看護を理解する。	健康の段階の考え方、急性期、回復期、慢性期、終末期の各期の対象の特徴及び治療の特徴、対象や家族のニーズと看護援助
		臨床看護総論Ⅱ	1 (15)		健康障害に基づく主要症状及び主要な治療を受ける対象の看護を理解する。	主要な症状（消化吸収系、呼吸器系、循環器系、体温調節機能関連、体液異常、痛み、意識障害）、主要な治療（化学療法、放射線療法、輸血療法）に関する看護
		看護研究の基礎	1 (30)		看護における研究の意義を理解し、文献検索、クリティック、調査研究、実験研究の演習をとおして研究のプロセスの理解と科学的思考を育成する。	研究の意義・目的、研究デザイン、研究プロセス、文献検索・文献検討、クリティック、研究計画書作成、調査研究、実験研究



分野	教育内容	科目	講義	実習	科目目標	教育内容概要
			単位と時間数			
専門分野	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1 (15)		地域における暮らしや地域で生活している対象と家族の特徴を理解する。さらに法制度に基づき、地域で生活する対象と家族を支える看護について理解する。	地域における暮らしと生活環境、多様化する生活と対象と家族の在り方、医療保険制度と介護保険制度、地域包括ケアシステムの概念と機能、多職種連携、協働、社会資源の活用、地域・在宅看護の目的、機能、役割、家族を含む対象への看護の特徴
		地域・在宅看護方法論I	1 (15)		地域で生活する人々の健康の維持・増進を図り、生活支援、介護予防、リスク予防のためのケアマネジメントについて理解する。	地域における連携とマネジメント、地域・在宅看護における関係職種との連携、地域・在宅療養を支えるネットワークとケアシステム
		地域・在宅看護方法論II	1 (30)		日常生活援助が必要な、地域・在宅療養者とその家族の発達段階、健康状態、生活状況に応じた日常生活を支える看護援助について理解する。	健康段階各期の看護活動、地域・在宅における日常生活援助(栄養を支える援助、活動休息の援助、排泄の援助、清潔の援助)
		地域・在宅看護方法論III	1 (15)		日常生活援助が必要な、地域・在宅療養者とその家族の発達段階、健康状態、生活状況に応じた日常生活を支える看護援助を身につける。	訪問準備、地域・在宅における日常生活援助(栄養を支える援助、活動休息の援助、排泄の援助、清潔の援助)の実際
		地域・在宅看護方法論IV	1 (30)		治療処置が必要な地域・在宅療養者とその家族の健康状態、生活状況に応じた看護援助について理解する。	気管カニューレ挿入中の対象への援助(吸引)、人工呼吸器装着中の対象への援助、在宅酸素療法中の対象への援助、経管栄養をしている対象への援助(胃ろう)、在宅輸液療法中の対象への援助、褥瘡ケア、腹膜透析中の対象への援助
	地域・在宅看護方法論V	1 (15)		地域・在宅で生活する対象の慢性期、急性増悪期、回復期、終末期の各期に必要な看護展開を理解する。	慢性期、急性増悪期、回復期、終末期の各期の対象の状態把握と推論過程、病状変化による療養生活や家族への影響、社会資源の活用と多職種との連携の実際、意思決定支援、健康状態、生活状況に合わせた看護の展開	
	成人看護学	成人看護学概論	1 (30)		成人の概念、成人各期の特徴、成人の健康の意義・動向及び健康問題や危機を理解し、成人期にある対象の看護の意義、目的を理解する。また、成人期に必要な保健活動と法的根拠を理解する。	成人の概念、成人各期の特徴と健康問題、成人期の健康状態の動向、成人期に必要な看護、教育、健康教育と予防や対処
		成人看護方法論I	1 (30)		長期的な疾病、機能障害により生涯にわたり症状のコントロールが必要な成人期の特徴と看護の役割を理解する。対象の自己管理や生活構築を支援する方法を理解する。	健康行動を育む援助、セルフマネジメントを必要とする対象の個別あるいは集団を対象とした学習支援、行動形成、行動変容を促進する看護アプローチ
		成人看護方法論II	1 (30)		重篤な病状により手術療法を受ける対象や集中的で濃厚なケアを受ける対象の生体の防御反応や修復反応のプロセスを理解し、急激な身体侵襲を受けた直後の対象への生命の危機回避や回復を促進する看護の方法を理解する。	健康破綻による生命の危機状態、侵襲刺激に対する生体反応と心理的反応、手術による生体の変化、術前、術中、術後の看護、救急看護の特徴、集中治療における看護、術後リハビリテーション、家族への支援
		成人看護方法論III	1 (30)		健康障害により、生活上の制限や困難がある対象の特徴と看護の役割を理解する。対象が障害を受容し生活における機能回復を支援する方法について理解する。	健康障害や機能障害と生活、障害の認識過程、二次的障害の予防と残存機能の活用、機能障害がある対象の生活を支える援助、社会生活への自律・自立へむけての支援、多職種連携、家族への支援

分野	教育内容	科目	講義	実習	科目目標	教育内容概要
			単位と時間数			
専門分野	成人看護学	成人看護方法論Ⅳ	1 (30)		治癒困難な状態にある対象の意思決定、QOLを支援し、全人的苦痛の緩和、その人らしい生活を支える看護の役割や支援の方法を理解する。	人間にとっての死、人生最後のときの医療と看護、QOLの考え方、全人的苦痛と緩和ケア、意思決定支援、アドバンスケアプランニング、看護師の役割、チームアプローチ
		成人看護方法論Ⅴ	1 (15)		慢性期、急性期、回復期、終末期の各期にある対象に発達段階、健康の段階を考慮した必要な看護展開を理解する。	慢性期、急性期、回復期、終末期の各期の対象の状態把握と推論過程、発達段階、健康の段階を考慮した看護の目的、看護の役割、社会資源の活用、地域を含めた多職種連携の実際、意思決定支援、家族支援の看護の展開
	老年看護学	老年看護学概論	1 (15)		老年期にある対象の特徴、看護の特徴と役割について理解する。高齢者の生活を支える保健医療福祉制度および権利擁護について理解する。	加齢と老化、加齢に伴う身体的、心理的、社会的側面の変化、発達と成熟、高齢社会における保健医療福祉の動向、看護活動と多職種連携、高齢者の権利擁護、老年看護の定義、看護の特徴と役割
		老年看護方法論Ⅰ	1 (30)		健康な高齢者の加齢に伴う身体的変化、心理・社会的影響を理解し、高齢者のQOL、生活機能の保持増進への援助について理解する。	身体の加齢変化（呼吸器、循環器、感覚器、消化器、ホルモン系、運動器系、泌尿器生殖器系）、高齢者の生活機能を支える看護（生活機能評価、廃用性症候群、嚥下機能にあわせた食生活、排泄ケア、清潔ケア、高齢者とのコミュニケーション、高齢者のセクシャリティー、高齢者の社会参加）、リスクマネジメント
		老年看護方法論Ⅱ	1 (30)		生活機能障害のある高齢者の健康上の問題、健康レベルに応じた具体的な看護の方法について理解する。	症状のアセスメントと看護（発熱、痛み、搔痒感、脱水、嘔吐、浮腫、倦怠感、褥瘡）、検査を受ける高齢者の看護、薬物療法を受ける高齢者の看護、高齢者の特徴的な疾患の看護（脳卒中、心不全、慢性閉塞性肺疾患、パーキンソン、骨粗しょう症における骨折、認知機能障害）
		老年看護方法論Ⅲ	1 (15)		慢性期、急性期、回復期、終末期の各期にある対象に発達段階、健康の段階を考慮した必要な看護展開を理解する。	慢性期、急性期、回復期、終末期の各期の対象の状態把握と推論過程、発達段階、健康の段階を考慮した看護の目的、看護の役割、社会資源の活用、地域を含めた多職種連携の実際、意思決定支援、家族支援の看護の展開
	小児看護学	小児看護学概論	1 (15)		小児期にある対象の特徴、看護の特徴と役割について理解する。小児の正常な成長発達、各期の特徴、小児保健の動向と小児に関する保健医療福祉制度について理解する。	小児看護の特徴と理念、小児各期の成長と発達、小児看護の対象、健康な小児の生活、家族の特徴とアセスメント、社会の中の小児、小児保健の動向と保健医療福祉制度、災害時の小児と看護
		小児看護方法論Ⅰ	1 (30)		小児期の主要な健康障害と症状を示す対象とその家族に応じた看護を理解する。	健康障害が小児及び家族に与える影響、小児の日常生活を支える看護（基本的生活習慣の確立、社会性の支援、家族支援と社会資源の活用）、小児期にみられる主な健康障害、主要な症状を示す小児及び家族への看護、先天的問題をもつ小児と家族への支援

分野	教育内容	科目	講義	実習	科目目標	教育内容概要
			単位と時間数			
専門分野	小児看護学	小児看護方法論II	1 (30)		小児各期の対象に必要なアセスメントと看護技術、治療・検査・処置を受ける対象に必要な看護を理解する。	小児の看護に必要なアセスメント(身体的アセスメント、身体計測)、治療・検査・処置を受ける小児の看護(与薬、輸液、検体採取、罨法、経管栄養、救急処置等)
		小児看護方法論III	1 (15)		慢性期、急性期、回復期、終末期の各期にある対象に発達段階、健康の段階を考慮した必要な看護展開を理解する。	慢性期、急性期、周手術期、終末期の各期の対象の状態把握と推論過程、発達段階、健康の段階を考慮した看護の目的、看護の役割、家族支援の看護の展開
	母性看護学	母性看護学概論	1 (15)		母性の概念、母性の身体的・精神的・社会的特徴、母子保健の動向及び法律、女性の各ライフステージにおける看護の概要を理解する。	対象理解の基盤となる概念、リプロダクティブヘルスに関する概念、母性看護とは、母性看護の対象、母性看護を取り巻く社会の変遷と現状、(母子保健の動向、母性看護に関する法律、母子保健施策と現状、母性看護と倫理)
		母性看護方法論I	1 (30)		妊娠・分娩の経過と妊産婦の看護、妊娠・分娩の異常とハイリスク妊産婦の看護を理解する。	生殖の生理、妊娠の経過と変化、妊婦と胎児のアセスメント、正常な妊娠経過をたどる妊婦の看護、異常妊娠の病態と検査、治療、ハイリスク妊婦の看護、遺伝相談、不妊治療、分娩の経過と生理、正常経過をたどる産婦の看護、分娩の異常、異常分娩の産婦の看護
		母性看護方法論II	1 (30)		産褥期の経過と褥婦の看護、産褥期の異常とハイリスク褥婦の看護および新生児の正常経過と異常における看護について理解する。	産褥期の経過、産褥期の特徴と看護、産褥期の異常、新生児の生理と経過および看護、新生児の異常、ハイリスク新生児の看護
		母性看護方法論III	1 (15)		褥婦と新生児の看護を展開し、褥婦のセルフケア能力に応じた援助を身につける。	正常な経過をたどる褥婦と新生児の看護展開、褥婦へのセルフケア援助(早期離床、産褥体操、新生児の抱き方、おむつ交換)
		精神看護学概論	1 (15)		心のしくみ及び関連用語を理解し、心の健康保持・増進のための予防医学や精神保健活動を理解する。ライフサイクルにおける発達課題と心の健康について理解する。	心の機能と発達、精神の健康の概念、精神の健康とマネジメント、精神保健と精神看護、精神看護と倫理、援助の人間関係の構築
	精神看護学	精神看護方法論I	1 (30)		精神障害をもつ対象の症状や行動、必要な治療、看護を理解する。	脳の仕組みと精神機能、精神疾患・精神症状の理解、主要な検査と治療、精神症状のある対象への看護(不安、不眠、抑うつ、希死念慮、躁状態、依存、興奮、暴力、拒食、過食)
		精神看護方法論II	1 (30)		精神疾患のある対象の日常を支える看護、退院支援について理解する。	精神医療、看護に関する基本的考え方、身体ケアの実際、セルフケアへの援助、薬物療法に伴う看護、身体合併症への看護、生きる力と強さに着目した援助、家族への援助、退院支援に向けた援助
		精神看護方法論III	1 (15)		慢性期、急性期、回復期、終末期の各期にある対象に必要な看護展開を理解する。	慢性期、急性期、周手術期、終末期の各期の対象の状態把握と推論過程、看護の目的、看護の役割、家族支援の看護の展開

分野	教育内容	科目	講義	実習	科目目標	教育内容概要
			単位と時間数			
専門分野	看護マネジメント	看護組織管理	1 (30)		看護におけるマネジメントの概念、マネジメントに必要な知識、技術を理解する。	看護管理の定義、看護管理の基本的要素、組織と看護、看護におけるマネジメント（看護サービスのマネジメント、看護ケアのマネジメント、医療事故対策、院内感染対策、災害の予防と対応）、チーム医療に必要な機能、多職種との連携、看護職のキャリアマネジメント、情報のマネジメント、サービスの評価、国際看護
		医療安全の基礎	1 (15)		看護組織における安全管理として、医療安全に関する基礎的知識、事故分析、事故防止対策について理解する。	医療安全に関する法律、事故発生のメカニズム、事故分析の実際、組織におけるリスクマネジメントの実際
		看護倫理	1 (15)		倫理的意思決定の理論をもとに、看護チームでの意思決定を導くプロセス、倫理的ジレンマについて理解する。	看護倫理の基礎、看護倫理のアプローチ、看護倫理に関する重要概念、看護職の倫理的責任と法的責任、倫理的ジレンマとは、倫理的意思決定を導くモデル、看護職の役割と課題
		看護の統合演習	1 (30)		複数の対象において、変化する状況を把握し、臨床判断を用いて必要な看護をマネジメントしながら実践する能力を身につける。	看護ケアの優先度の考え方、タイムマネジメントの実際、複数の看護援助を必要とする対象への臨床判断を用いた看護マネジメントの演習



## 学年別教育目標（現行）

教育目標	1学年	2学年	3学年
1. 看護の対象である人間を総合的に理解できる能力を養う。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の構造と機能について理解できる。</li> <li>2. 人間を身体的・精神的・社会的に統合した存在として捉え、健康障害について理解できる。</li> <li>3. 看護の対象には、家族および地域で生活している存在も含まれていることを理解できる。</li> <li>4. 看護(学)の主要概念を理解し、人間の多様な価値観や生活信条に気づく。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の誕生から死まで生涯各期の成長、発達の特徴を理解できる。</li> <li>2. 人間を身体的・精神的・社会的に統合した存在として捉え、対象の健康課題を理解できる。</li> <li>3. 臨地実習を通して、対象は多様な価値観や生活信条をもっていることを理解できる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康に関する課題を解決するための看護実践を通して、看護の対象が生活していく存在であることを理解できる。</li> <li>2. 人間は身体的・精神的・社会的に統合した存在であると捉え、様々な発達段階や多様な健康課題を持つ対象として理解できる。</li> <li>3. 臨地実習を通して対象の多様な価値観や生活信条を理解し、人間の尊厳について洞察できる。</li> </ol>
2. 看護の対象となる人を尊重し、倫理に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学則等を遵守すべき内容を理解し、必要な行動をとることができる。</li> <li>2. 生活の中にある規範を守ることができる。</li> <li>3. 臨地実習で対象のニーズを満たすため、知識・看護技術を活用し、安全に援助を実践できる。</li> <li>4. 臨地実習で、対象の人権や価値観を尊重した関係形成ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学則等を遵守する意義と、人間関係におよぼす効果や影響を考えて行動できる。</li> <li>2. 臨地実習で、対象の意思決定に関わる権利を尊重した看護を実践することができる。</li> <li>3. 臨地実習で、対象への看護実践を通して、対象の反応から自己の看護が対象に与えた影響を振り返ることができる。</li> <li>4. 臨地実習を通して、看護師の責務を理解し、看護の質を向上する姿勢をもつことができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護職が遵守すべき内容とその責務を理解し、必要な行動をとることができる。</li> <li>2. 倫理的ジレンマに気づき、解決に向けて考えることができる。</li> <li>3. 臨地実習で対象の意思決定を導くための倫理的判断、対象の権利擁護ができる。</li> <li>4. 臨地実習で対象と援助的人間関係を形成し、相互作用を活用しながら看護を展開することができる。</li> <li>5. 専門職として、看護の質を追求し、臨地実習での看護実践を通して、自己の課題を発展させることができる。</li> <li>6. 看護専門職としての自己能力を客観視し、社会的責任と責務を自覚することができる。</li> </ol>
3. 科学的思考に基づいた基礎的看護実践能力を身につける。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の構造と機能、看護の対象である人を把握するための基礎的看護技術の方法を理解できる。</li> <li>2. 対象とのかかわりから健康の状態や生活の状況に関する客観的・主観的情報を意味あるものとして捉えることができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の成長発達や疾病の経過、治療との関連から看護問題を明らかにできる。</li> <li>2. 生涯各期の成長・発達の促進や強みを生かす看護の方法を理解できる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の健康に影響する現象を分析・解釈・統合し、看護の課題を抽出できる。</li> <li>2. 対象の健康問題・課題に対して問題解決志向、ヘルスプロモーションの考え方をを用いて科学的・系統的な看護を実践できる。</li> </ol>

教育目標	1学年	2学年	3学年
	<ul style="list-style-type: none"> <li>3. 対象の健康上の課題を解決するために、基本的ニーズを考慮した日常生活援助を実施できる。</li> <li>4. 基礎的看護技術をもとに、対象に応じた日常生活援助を実施できる。</li> <li>5. 対象に実施した看護を通して、援助の意味を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3. 診療および治療を補助する看護技術を実践できる。</li> <li>4. 対象の個性性に応じた看護を実践できる。</li> <li>5. 看護実践の中で捉えた対象の反応を多面的に分析し、看護の効果を考えることができる。</li> <li>6. 基礎的知識を活用し、看護を探究することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3. 対象に実践した看護をリフレクションし、自身の看護の課題を見出すことができる。</li> <li>4. 家族を含む対象の状況に必要な看護をマネジメントしながら実践できる。</li> <li>5. 看護実践を理論を活用して評価し、論理的に表現できる。</li> </ul>
4. 保健・医療・福祉システムを総合的に理解し、看護師の役割及びチーム医療における多職種と連携・協働する基礎的能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活や学校生活を通して、グループ活動の意義や効果を理解し、協働することができる。</li> <li>2. 臨地実習を通して、多職種連携・協働の必要性を理解し、看護師の役割について関心を持つことができる。</li> <li>3. 地域で生活している人々が安全・快適に生活を送るための危機管理や安全対策について理解できる。</li> <li>4. リーダーシップ、メンバーシップを通して、他者の考えを理解し、自己の考えを述べることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活している対象の健康の維持・増進、危機管理における社会システムおよび多職種連携・協働について理解できる。</li> <li>2. 臨地実習で、多職種と協働し、対象に必要な保健・医療・福祉システムを活用できる。</li> <li>3. 医療安全についての基礎的知識を理解し、チーム医療における看護師の役割を明らかにできる。</li> <li>4. グループ活動における自己の役割を理解し、リーダーシップ、メンバーシップを発揮できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 臨地実習を通して、対象の健康の維持・増進、危機管理を考慮した、保健・医療・福祉システムのマネジメントができる。</li> <li>2. 臨地実習を通して、対象に関係する機関・多職種との連携・協働を理解し、チームの一員として自己の役割を遂行できる。</li> <li>3. 臨地実習で、対象に起こり得る危機を予測し、医療安全を考慮した看護実践ができる。</li> <li>4. 医療チームの一員として、対象に必要な多職種との連携・協働を提案できる。</li> </ul>
5. 専門職業人として自ら進んで学習する能力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 学習に必要な情報を様々な媒体を用いて収集し、自己の学習計画を立案できる。</li> <li>2. 学習を計画的に実施し、学習の過程で生じた疑問を解決するために、自己の学習方法を工夫することができる。</li> <li>3. 自己の学習成果を評価し、学習計画および学習方法を改善することができる。</li> <li>4. 臨地実習を通して、看護の質を追求する姿勢を持つことができる。</li> <li>5. 目指す看護師像を描き、自己の看護観を述べるができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 目指す看護師像へ向け、自己の学習課題を明確にし、主体的に学習に取り組むことができる。</li> <li>2. 臨地実習で、理論を活用し、対象に必要な看護を実践できる。</li> <li>3. 専門職業人として看護の質を追求し、対象の援助に活かすことができる。</li> <li>4. 臨地実習を通して、自己の看護観を語り合うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 臨地実習で対象に応じた看護を実践するために、理論的知識や先行研究の成果を探索し、活用できる。</li> <li>2. 医療・看護の最新技術、社会の状況を探索し、自己の看護実践に取り入れることができる。</li> <li>3. 看護を学習していくことに誇りをもち、発展的に学習を継続する姿勢を持つことができる。</li> <li>4. 卒業後のキャリアビジョンに向けて学習を継続することができる。</li> </ul>

# 講師一覧

(平成2年度入学生～平成8年度入学生)

学 科 目	平成2年度入学生		平成3年度入学生		平成4年度入学生	平成5年度入学生	平成6年度入学生	平成7年度入学生	平成8年度入学生	
	1回生 (別府)	1回生 (西別府)	2回生 (別府)	2回生 (西別府)	3回生	4回生	5回生	6回生	7回生	
基礎科目	論理学	神崎 英紀	神崎 英紀	神崎 英紀	神崎 英紀	神崎 英紀	神崎 英紀	神崎 英紀	神崎 英紀 小林 博志	神崎 英紀 小林 博志
	心理学	川瀬 泰治	松崎 学	川瀬 泰治	松崎 学	川瀬 泰治	川瀬 泰治	川瀬 泰治	川瀬 泰治	川瀬 泰治
	社会学	大野 保治	大野 保治	大野 保治	大野 保治	大野 保治	大野 保治	大野 保治	大野 保治	大杉 至
	教育学	神崎 秀紀	山崎 清男	山崎 清男	山崎 清男	山崎 清男	山崎 清男	山崎 清男 堀 泰樹	山崎 清男	山崎 清男
	化学	黒瀬 立稔	村田 勝	黒瀬 立稔	村田 勝	村田 勝	村田 勝	村田 勝	村田 勝	村田 勝
	物理学	小田 敏之	平岡	後藤 勝	後藤 勝	後藤 勝	後藤 勝	後藤 勝	後藤 勝	後藤 勝
	英語	稲用 茂夫 菊池 顕栄 福島 脩	福島 脩	稲用 茂夫 Harold Vonnemann David Millar	福島 脩	稲用 茂夫 菊池 顕栄 福島 脩	稲用 茂夫 菊池 顕栄 福島 脩	稲用 茂夫 福島 脩	稲用 茂夫 福島 脩	稲用 茂夫 福島 脩
	保健体育	清水 富弘	前田 裕子	清水 富弘	前田 裕子	清水 富弘	清水 富弘 洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明
専門基礎科目	医学概論	加藤 哲男 津田穂津美 佐々木直美 堀田 潮	三吉野産治 堀田 潮	家永 睿 堀田 潮	三吉野産治 堀田 潮	家永 睿 堀田 潮	家永 睿 赤嶺 康夫 天野 豊子	家永 睿 赤嶺 康夫 天野 豊子	赤嶺 康夫 天野 豊子	赤嶺 康夫 天野 豊子
	解剖生理学	有松 俊明 諫山 哲郎 内田 悦慈 蔵田 孝雄 駒田 信二 野田 尚一 福島 正博 堀 秀史 益田 明典 松本 忠雄 三宅 隆生	安部眞佐子 高松 田代光太郎 畑 畑 平松 良二 藤本 伸 松本 直之 吉松 哲之	荒木 英生 有松 俊明 諫山 哲郎 内田 悦慈 角冲 久夫 蔵田 孝雄 駒田 信二 坂本 泰樹 佐田正一郎 野田 尚一 堀 秀史 松本 忠雄 山下 弘之 渡邊 英介	安部眞佐子 荒木 英生 角冲 久夫 駒田 信二 瀧川 修一 田代光太郎 幡手 雄幸 平松 良二 藤本 伸 水城 晴美 山下 弘之 吉松 哲之	荒木 英生 有松 俊明 内田 悦慈 後藤 勝政 小野 正彦 角冲 久夫 蔵田 孝雄 古賀 寛史 駒田 信二 野田 尚一 松本 忠雄 山下 弘之 吉賀 攝 渡邊 英介	内田 悦慈 角冲 久雄 上平 謙二 蔵田 孝雄 野田 尚一 松本 忠雄 作間 俊治 関口 直孝 野田 尚一 松本 忠雄 松本 直之 吉賀 攝	内田 悦慈 蔵田 孝雄 齊藤 太一 野田 尚一 松本 忠雄 松本 直之 吉賀 攝	碓 博哉 内田 悦慈 浦田 正彦 衛藤 貴子 蔵田 孝雄 野田 尚一 久富 昭孝 松本 忠雄 松本 直之 安増 哲生 吉賀 攝	入江 務 内田 悦慈 蔵田 孝雄 野田 尚一 松本 忠雄 松本 直之 吉賀 攝
	生化学	西山 章	縄田 好一	西山 章	縄田 好一	縄田 好一	縄田 好一	縄田 好一	山崎 彰大	平木 洋一
	栄養学	丹生 静子	富田健二郎	丹生 静子	富田健二郎 阿南	安部眞佐子 丹生 静子	安部眞佐子 丹生 静子	安部眞佐子 丹生 静子	安部眞佐子 丹生 静子	安部眞佐子 丹生 静子
	薬理学	神崎啓太郎	立石 正登	神崎啓太郎	村上 直幸	村上 直幸 神崎啓太郎	村上 直幸 神崎啓太郎	村上 直幸 神崎啓太郎	村上 直幸 末松 直幸	村上 直幸 今村 文子
	病理学I	恵良 昭一 宮崎 一博	松尾 龍雄 安東 優	三井 信介 宮崎 一博	松尾 龍雄	恵良 昭一 宮崎 一博	恵良 昭一 宮崎 一博	上平 謙二 宮崎 一博	平田 秀紀	平田 秀紀
	病理学II	有松 俊明 駒田 信二 坂本 泰樹 福島 正博 堀 秀史 益田 明典 南谷 誠 渡邊 英介 雷 哲明	石川 哲 三宮 邦裕 瀧川 修一 播手 雄幸 堀 秀史 西村 正彦 松尾 誠 松本 直之 水城 晴美	諫山 哲郎 内田 悦慈 角冲 久夫 蔵田 孝雄 坂本 泰樹 堀 秀史 松本 忠雄 三宅 隆生 渡邊 英介	古賀 寛史 後藤 勝政 作間 俊治 三宮 邦裕 瀧川 修一 藤本 伸 松本 直之 水城 晴美	内田 悦慈 蔵田 孝雄 豊田 隆敏 堀 秀史 松本 忠雄 松本 直之 渡邊 英介	内田 悦慈 角冲 久夫 上平 謙二 作間 俊治 関口 直孝 肥川 誉慎 堀 秀史 松本 直之 雷 哲明	上平 謙二 久富 昭孝 堀 秀史 安増 哲生 雷 哲明	内田 悦慈 衛藤 貴子 蔵田 孝雄 佐古田利文 久富 昭孝 堀 秀史 堀 秀史 松本 忠雄 松本 直之 安増 哲生	衛藤 貴子 狩野 葎 佐古田利文 久富 昭孝 堀 秀史 安増 哲生 雷 哲明

学 科 目	平成2年度入学		平成3年度入学		平成4年度入学	平成5年度入学	平成6年度入学	平成7年度入学	平成8年度入学		
	1回生 (別府)	1回生 (西別府)	2回生 (別府)	2回生 (西別府)	3回生	4回生	5回生	6回生	7回生		
専門基礎科目	病理学II	森 雷 哲明	雷 哲明					雷 哲明			
	微生物学	宮崚 和則 三宅 隆生	平松 和史	宮崚 和則 荒木 讓	平松 和史	伊藤 鉄英 黒木 達哉	大野 毅 松井 謙明	原 敬一 河野 彰博 白石 猛	山田 欣也 小川 聡 芝原幸太郎	高橋 理砂 石尾 哲也 白下 英史	
	公衆衛生学	末宗淳二郎 宮本吉次郎	早野 孝雄 山本 雅之	末宗淳二郎 宮本吉次郎	早野 孝雄 山本 雅之	末宗淳二郎 宮本吉次郎	末宗淳二郎 宮本吉次郎	末宗淳二郎 宮本吉次郎	末宗淳二郎 宮本吉次郎	末宗淳二郎 宮本吉次郎	
	社会福祉	今村猷一郎	金子進之助	今村猷一郎	今村猷一郎	今村猷一郎	今村猷一郎	今村猷一郎	今村猷一郎	今村猷一郎	
	関係法規	松木 拓南 天野 豊子	松木 拓南 中村 雅子	吉田 邦徳 堀田 潮	吉田 邦徳 堀田 潮	古浦 義貞 天野 豊子 堀田 潮 吉田 邦徳	古浦 義貞 天野 豊子	藤本 博藏 天野 豊子	藤本 博藏 天野 豊子	藤本 博藏 喜多代 晋 末宗淳二郎 天野 豊子	
	精神保健	広橋 省三 吉山 尚裕	広橋 省三 皮野さよみ 石川 晃	広橋 省三 三角恵美子	広橋 省三 皮野さよみ 三角恵美子	島田 文雄 亀石 圭志 三角恵美子	島田 文雄 亀石 圭志	島田 文雄 松田 良輔 林 新吾	島田 文雄 松田 良輔	島田 文雄 松田 良輔	
専門科目	看護学概論	城戸 安乃 堀田 潮 山川 佳子	中村 雅子 堀田 潮 吉松須美子	天野 豊子 堀田 潮 山川 佳子	中村 雅子 堀田 潮 山川 佳子	天野 豊子 堀田 潮 大石 信子	天野 豊子 大石 信子	皮野さよみ 山下 清美 大石 信子	天野 豊子 山下 清美 酒匂 晴美	天野 豊子 山下 清美 酒匂 晴美	
	基礎看護技術	赤嶺むつ子 栗山早知子 前田早知子 松村 麻子 藤垣 大島美登子	金田 京子 神元 武子 皮野さよみ 佐々木直美 冷川八千子 山本 雅之 中川 昭十 藤垣 大島美登子	赤嶺むつ子 岡本 英子 佐々木直美 廣田 真里 前田早知子 松村 麻子 安達圭一郎 宮本吉次郎	金田 京子 神元 武子 皮野さよみ 佐々木直美 冷川八千子 山本 雅之 前田早知子 安達圭一郎	岡本 英子 佐々木直美 佐保美恵子 津田穂津美 前田早知子 松村 麻子 山崎 和代 安達圭一郎 阿多富士子 宮本吉次郎	岡本 英子 佐々木直美 佐保美恵子 前田早知子 松村 麻子 山崎 和代 安達圭一郎	岡本 英子 小池 久美 佐々木容子 佐保美恵子 前田早知子 松尾 久美 山崎 和代 安達圭一郎	梅野 貴恵 小池 久美 佐々木容子 佐保美恵子 松尾 久美 山崎 和代 山田 巧 安達圭一郎	梅野 貴恵 小池 久美 佐々木容子 佐保美恵子 山崎 和代 山田 巧 福村 美和	
	臨床看護総論	赤嶺むつ子 栗山早知子 松村 麻子 前田早知子 安部 順子 池田 正仁 川口 真理 野田 尚一 平田 秀紀 三浦 智子 村岡 幸子 吉岡 和則	金田 京子 神元 武子 皮野さよみ 佐々木直美 冷川八千子 安部 順子 甲斐 泰子 中川 昭十 野田 尚一 長野 千年 橋本 正則 三浦 智子 松浦 憲司 村岡 幸子 本村 節子 吉岡 和則	赤嶺むつ子 廣田 真里 前田早知子 松村 麻子 安部 順子 池田 正仁 川口 真理 野田 尚一 平田 秀紀 三浦 智子 村岡 幸子 吉岡 和則	金田 京子 神元 武子 皮野さよみ 佐々木直美 冷川八千子 安部 順子 甲斐 泰子 中川 昭十 長野 千年 橋本 正則 松浦 憲司 本村 節子 吉岡 和則	岡本 英子 佐々木直美 佐保美恵子 前田早知子 松村 麻子 池田 正仁 山崎 和代 川口 真理 池田 正仁 甲斐 泰子 川口 真理 垣本 光子 野田 尚一 野田 尚一 野田 尚一 平田 秀紀 吉岡 和則	岡本 英子 佐々木直美 佐保美恵子 松村 麻子 山崎 和代 池田 正仁 川口 真理 山崎 和代 阿南 恵子 池田 正仁 阿南 恵子 池田 正仁 垣本 光子 野田 尚一 野田 尚一 野田 尚一 平田 秀紀 吉岡 和則	岡本 英子 佐々木容子 佐保美恵子 前田早知子 山崎 和代 松尾 久美 山崎 和代 阿南 恵子 池田 正仁 未永 康夫 池田 正仁 未永 康夫 野田 尚一 橋本 洋子 平田 秀紀	小池 久美 佐保美恵子 松尾 久美 山崎 和代 山田 巧 阿南 恵子 池田 正仁 未永 康夫 池田 正仁 未永 康夫 野田 尚一 橋本 洋子 平田 秀紀	梅野 貴恵 小池 久美 佐々木容子 佐保美恵子 山崎 和代 山田 巧 阿南 恵子 池田 正仁 池田 正仁 未永 康夫 野田 尚一 橋本 洋子 平田 秀紀	梅野 貴恵 小池 久美 佐々木容子 佐保美恵子 山崎 和代 山田 巧 阿南 恵子 池田 正仁 池田 正仁 未永 康夫 野田 尚一 橋本 洋子 平田 秀紀
	成人看護概論	栗山早知子	佐々木直美	天野 豊子	佐々木直美	山崎 和代	前田早知子	山下 清美	山下 清美	山下 清美	
	成人保健	大神 貴史 立川夕ヨ子 原田 幸代	緒方 隆 立川夕ヨ子 原田 幸代	大神 貴史 原田 幸代	緒方 隆 原田 幸代	大神 貴史 田原 奉子 前田 泰久	大神 貴史 小野 奉子 前田 泰久	山下 剛 小野 奉子 前田 泰久	山下 剛 石田 芳子 前田 泰久	山下 剛	
	成人臨床看護	阿部美貴子	阿部 里美	阿部 里美	阿部 里美	阿部 里美	安部千代里	安部千代里	安部千代里	安部千代里	





学 科 目	平成2年度入学		平成3年度入学		平成4年度入学	平成5年度入学	平成6年度入学	平成7年度入学	平成8年度入学	
	1回生 (別府)	1回生 (西別府)	2回生 (別府)	2回生 (西別府)	3回生	4回生	5回生	6回生	7回生	
専 門 科 目	母性保健	實崎 千沙 工藤久美子 浅生 慶子	皮野さよみ	津田穂津美	津田穂津美	津田穂津美	皮野さよみ	皮野さよみ	皮野さよみ	皮野さよみ
	母性臨床看護	有永 恵 衛藤 康子 木下秀一郎 森田 隆 渡辺 文子	皮野さよみ 木下秀一郎 森田 隆	有永 恵 衛藤 康子 加藤 圭次 渡辺 文子	有永 恵 衛藤 康子 加藤 圭次 渡辺 文子	加藤 圭次 津田穂津美 渡辺 文子	加藤 圭次 河野 悦子 皮野さよみ	加藤 圭次 河野 悦子 皮野さよみ	梅野 貴恵 加藤 圭次 河野 悦子	加藤 圭次 河野 悦子 皮野さよみ
特 別 科 目	音楽	佐藤由美子	古屋 直子	佐藤由美子	佐藤由美子 古屋 直子	佐藤由美子 古屋 直子	佐藤由美子 古屋 直子	佐藤由美子 古屋 直子	古屋 直子	古屋 直子
	情報科学					境 章	境 章	境 章	境 章	境 章
	統計処理	宮本吉次郎	宮本吉次郎	宮本吉次郎	宮本吉次郎	宮本吉次郎	宮本吉次郎	宮本吉次郎	宮本吉次郎	宮本吉次郎
	救急法	後藤 泰範	後藤 泰範				山田 巧	宇野 太啓	宇野 太啓	宇野 太啓

(平成8年度までは10周年記念誌より引用)

# 講師一覧

(平成9年度入学生～平成13年度入学生)

学 科 目		平成9年度入学	平成10年度入学	平成11年度入学	平成12年度入学	平成13年度入学		
		8回生	9回生	10回生	11回生	12回生		
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	神崎 英紀 大杉 至	神崎 英紀 大杉 至	神崎 英紀 大杉 至	神崎 英紀 大杉 至	神崎 英紀 大杉 至	
		看護物理学	後藤 勝	後藤 勝	後藤 勝	後藤 勝	後藤 勝	
		情報科学	境 章	赤星 琴美	赤星 琴美	赤星 琴美	赤星 琴美	
		情報科学演習	境 章	赤星 琴美	赤星 琴美	赤星 琴美	赤羽 恵一 品川 佳満 中山 晃志	
	人間と人間生活の理解	社会学	大杉 至	大杉 至	大杉 至	大杉 至	大杉 至	
		心理学	川瀬 泰治	川瀬 泰治	川瀬 泰治	川瀬 泰治	川瀬 泰治	
		教育学	山崎 清男	山崎 清男	山崎 清男	山崎 清男	山崎 清男	
		人間関係論	福村 美和 松田 良輔	福村 美和 松田 良輔	福村 美和 松田 良輔	福村 美和 山浦 一保	福村 美和 渡邊としえ	
		英会話	稲用 茂夫	稲用 茂夫	稲用 茂夫	稲用 茂夫	稲用 茂夫	
		英語講読	福島 脩	福島 脩	福島 脩	福島 脩	福島 脩	
		体育理論	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明	
		体育実技	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明	
	専門基礎分野	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	生命科学	赤嶺 康夫	赤嶺 康夫	赤嶺 康夫	赤嶺 康夫	赤嶺 康夫
			身体機構総論	狩野 崒 平田 秀紀	狩野 崒 平田 秀紀	狩野 崒 平田 秀紀	狩野 崒 平田 秀紀	狩野 崒 加藤 和彦
			身体機構論I	蔵田 孝雄	蔵田 孝雄	加藤 和彦	加藤 和彦	伊藤 能清
			身体機構論II	松本 忠雄	松本 忠雄	松本 忠雄	松本 忠雄	松本 忠雄
身体機構論III			小路 高史 堀 秀史	小路 高史 堀 秀史	小路 高史 堀 秀史	小路 高史 堀 秀史	小路 高史	
身体機構論IV			豊田 隆敏 本多 正直	田中 宗浩 本多 正直	田中 宗浩 本多 正直	竹尾 浩敏 本多 正直	名本 真章 本多 正直	
身体機構論V			藤尾 信昭	藤尾 信昭	藤尾 信昭	藤尾 信昭	藤尾 信昭	
身体機構論VI			川口 謙一 河合 浩二	花田麻須大 河合 浩二	井原 和彦 河合 浩二 本村 悟朗	河合 浩二 牧野 晋哉	河合 浩二 平本 貴義	
身体機構論VII			安増 哲生 衛藤 貴子	安増 哲生 衛藤 貴子	安増 哲生 園田 真由	安増 哲生 加藤 圭次	安増 哲生 加藤 圭次	
身体機構論VIII			後藤 勝政	後藤 勝政	後藤 勝政 光尾 邦彦	後藤 勝政 光尾 邦彦	後藤 勝政 永富 裕文	
身体機構論IX		有松 俊明 中村多賀雄 渡邊 徳武 駒田 信二	有松 俊明 中村多賀雄 渡邊 徳武 駒田 信二	有松 俊明 坂本 英久 渡邊 徳武 駒田 信二	有松 俊明 坂本 英久 渡邊 徳武 駒田 信二	有松 俊明 菊川 浩徳 渡邊 徳武 駒田 信二		
社会保障制度生活者の健康		生化学	安部眞佐子	佐塚 正樹	森口 充瞭	森口 充瞭	森口 充瞭	
		感染・免疫学	安田 正之 園田 祥子	安田 正之 園田 祥子	安田 正之 園田 祥子	安田 正之 江下 優樹	安田 正之 園田 祥子	
		薬理学	吉野 裕統 今村 文子	吉野 裕統 今村 文子	喜多代 晋 平木 洋一	喜多代 晋 平木 洋一	森 雅人	
		栄養学	是永 待子	是永 待子	是永 待子	是永 待子	是永 待子	
		健康科学概論	赤嶺 康夫	赤嶺 康夫	赤嶺 康夫	赤嶺 康夫	赤嶺 康夫	
		保健環境論	末宗淳二郎	末宗淳二郎	末宗淳二郎	末宗淳二郎	末宗淳二郎	
		保健行政論	山下 剛	山下 剛	山下 剛	山下 剛 吉田 妙子	山下 剛 姫嶋 洋子	

学 科 目		平成9年度入学	平成10年度入学	平成11年度入学	平成12年度入学	平成13年度入学	
		8回生	9回生	10回生	11回生	12回生	
専 門 基 礎 分 野	社会保険制度生活者の健康	保健行政論				安達 紀子 阿部 初見	安達 紀子 阿部 初見
		保健統計学	山下 剛	山下 剛	山下 剛	山下 剛	山下 剛
		社会福祉	今村猷一郎	今村猷一郎	武宮伸二郎	武宮伸二郎	武宮伸二郎
		関係法規	末宗淳二郎 喜多代 晋 藤本 博藏 天野 豊子	末宗淳二郎 喜多代 晋 平原 親保 中村 雅子	末宗淳二郎 喜多代 晋 平原 親保 中村 雅子	末宗淳二郎 喜多代 晋 清岡 佳子	末宗淳二郎 松永 憲治 清岡 佳子
専 門 分 野	基礎看護学	基礎看護学概論	天野 豊子	天野 豊子	中村 雅子	中村 雅子	清岡 佳子
		看護理論演習	天野 豊子 山下 清美 皮野さよみ	天野 豊子	中村 雅子	中村 雅子	清岡 佳子
		看護管理・教育	酒匂 晴美 中村 雅子	中村 雅子	清岡 佳子	清岡 佳子 扇 玲子	
		基礎看護技術	佐保美恵子 梅野 貴恵	佐保美恵子 小池 久美 梅野 貴恵	梅野 貴恵 小池 久美 石山いづみ	梅野 貴恵 本松美和子 石山いづみ	梅野 貴恵 本松美和子 石山いづみ 内田 弘子
		基本看護技術校内実習	佐保美恵子	佐保美恵子 梅野 貴恵	小池 久美 梅野 貴恵	塩谷 浩子 梅野 貴恵	本松美和子 内田 弘子 梅野 貴恵
		日常生活援助技術	山田 巧 佐々木容子 小池 久美	佐々木容子 梅野 貴恵 廣田 真里	佐々木容子 石山いづみ 廣田 真里	佐々木容子 石山いづみ 塩谷 浩子	佐々木容子 石山いづみ 本松美和子
		日常生活援助技術校内実習	山田 巧 佐々木容子 小池 久美	佐々木容子 梅野 貴恵 廣田 真里	佐々木容子 石山いづみ 廣田 真里	佐々木容子 石山いづみ 塩谷 浩子	佐々木容子 石山いづみ 本松美和子
		診療時援助技術	山崎 和代	山崎 和代	山崎 和代	内田 弘子	内田 弘子
		診療時援助技術校内実習	山崎 和代	山崎 和代	山崎 和代	内田 弘子	内田 弘子
		看護研究理論	山下 清美	山下 清美	山下 清美	山下 清美	皮野さよみ
		看護研究演習	山下 清美 皮野さよみ 山崎 和代 梅野 貴恵 小池 久美 廣田 真里	山下 清美 皮野さよみ 山崎 和代 梅野 貴恵 佐々木容子 石山いづみ	山下 清美 山崎 和代 梅野 貴恵 佐々木容子 石山いづみ 内田 弘子	皮野さよみ 扇 玲子 梅野 貴恵 佐々木容子 石山いづみ 内田 弘子	



学 科 目		平成9年度入学	平成10年度入学	平成11年度入学	平成12年度入学	平成13年度入学		
		8回生	9回生	10回生	11回生	12回生		
基礎看護学	看護研究演習	佐々木容子 石山いずみ	塩谷 浩子 内田 弘子	本松美和子	本松美和子 山本真由美			
	在宅看護論	在宅看護概論	恒久 和子	皮野さよみ	皮野さよみ	山崎 和代	皮野さよみ 三戸部由喜子	
		在宅看護方法論演習	三戸部由喜子 皮野さよみ	三戸部由喜子 皮野さよみ	三戸部由喜子 山崎 和代 皮野さよみ	三戸部由喜子 山崎 和代	三戸部由喜子 輪田 順一 佐藤 弥生 武島 富美 藤川 和明 野中 義光 南崎 寛 栗山早知子 川山徳律美 衛藤 博文 小野 朱美 児玉真理子 本松美和子	
		在宅看護過程演習	皮野さよみ 佐保美恵子	皮野さよみ	皮野さよみ 山崎 和代	山崎 和代	本松美和子	
	在宅看護論	成人看護学概論	山崎 和代	山崎 和代	山崎 和代	山崎 和代	石山いずみ	
		成人看護方法論I	山田 巧	山下 清美	山下 清美	山下 清美 石山いずみ 塩谷 浩子	山下 清美 石山いずみ	
		成人看護方法論II	小池 久美 山崎 和代 平田 秀紀 末永 康夫 山田 巧	廣田 真里 山崎 和代 平田 秀紀 末永 康夫 佐保美恵子	小池 久美 山崎 和代 平田 秀紀 末永 康夫 岩尾 英美	川野 晶子 足達 啓子 平田 秀紀 末永 康夫 加藤百合子 石山いずみ	川野 晶子 足達 啓子 大塚 誠 末永 康夫 加藤百合子 石山いずみ	
			成人看護技術演習	宇野 太啓 廣田 真里	宇野 太啓 廣田 真里	宇野 太啓 石山いずみ	宇野 太啓 石山いずみ	宇野 太啓 石山いずみ
			周手術期看護方法論	池田 正仁 狩野 嶺 橋本 洋子 阿南 恵子 廣田 真里	池田 正仁 狩野 嶺 谷本 徳子 川西紀代子 廣田 真里	池田 正仁 狩野 嶺 村上 裕子 川西紀代子 石山いずみ	池田 正仁 狩野 嶺 村上 裕子 明石まつみ 石山いずみ	池田 正仁 田原光一郎 杉田 由美 明石まつみ 石山いずみ
		基礎看護論	成人看護過程演習	山下 清美 皮野さよみ 山崎 和代 梅野 貴恵 小池 久美 廣田 真里 佐々木容子 佐保美恵子	山下 清美 皮野さよみ 山崎 和代 梅野 貴恵 小池 久美 廣田 真里 佐々木容子 石山いずみ	山下 清美 皮野さよみ 山崎 和代 梅野 貴恵 佐々木容子 石山いずみ 塩谷 浩子 内田 弘子	山下 清美 山崎 和代 梅野 貴恵 佐々木容子 石山いずみ 内田 弘子 本松美和子 幸 邦子	皮野さよみ 扇 玲子 梅野 貴恵 佐々木容子 石山いずみ 内田 弘子 本松美和子 山本真由美
			老年看護学概論	山下 清美	山下 清美	山下 清美	山下 清美	本松美和子
	老年看護論	老年看護技術演習	小池 久美	廣田 真里	廣田 真里	内田 弘子	内田 弘子	

学 科 目		平成9年度入学	平成10年度入学	平成11年度入学	平成12年度入学	平成13年度入学		
		8回生	9回生	10回生	11回生	12回生		
専 門 分 野	老年看護学	老年看護方法論	佐藤 淳子 加藤百合子	佐藤 淳子 加藤百合子	森 めぐみ 岩尾 英美	森 めぐみ 岩尾 英美	工藤 吉子 木下みどり	
		老年看護過程演習	安部 順子	安部 順子	安部 順子	高橋 昌子	高橋 昌子	
	小児看護学	小児看護学概論	佐々木容子	佐々木容子	佐々木容子	佐々木容子	佐々木容子 山本真由美	
		小児看護方法論	中山 秀樹 山本 綾子	中山 秀樹 山本 綾子	肘井 孝之 山本 綾子	肘井 孝之 山本 綾子	肘井 孝之 有田ルミ子	
		小児看護技術演習	高橋 昌子	有田ルミ子	有田ルミ子	森崎 久美 佐藤 美紀	森崎 久美 神田 朋子	
		小児看護過程演習	佐々木容子	佐々木容子	佐々木容子	佐々木容子	佐々木容子	
	母性看護学	母性看護学概論	皮野さよみ	皮野さよみ	皮野さよみ	梅野 貴恵	清岡 佳子 皮野さよみ	
		母性看護方法論	加藤 圭次 越田津矢美 河野 悦子	加藤 圭次 越田津矢美 阿部 里美	加藤 圭次 越田津矢美 阿部 里美	濱地 勝弘 二宮 陽子 阿部 里美	二宮ユミ子 吉野久美子 安部 瑞穂	
		母性健康教育演習	梅野 貴恵	梅野 貴恵	梅野 貴恵	梅野 貴恵	梅野 貴恵	
		精神看護学概論	松本真利子	二宮 宏子	二宮 宏子	菊池 桃子	菊池 桃子	
	精神看護学	精神保健論	島田 文雄	島田 文雄	島田 文雄	島田 文雄	島田 文雄	
		精神看護方法論	柳田 尚穂 井上 秀子 渡邊 美保	金丸 秀紀 井上 秀子 渡邊 美保	重松 淳哉 小野田洋子 渡邊 美保	重松 淳哉 小野田洋子 渡邊 美保	田川 慶太 小野田洋子 綾部三津子	
		精神看護方法論演習	堀 ミサ子 前田 護 井上 秀子 渡邊 美保	堀 ミサ子 前田 護 井上 秀子 渡邊 美保	上田 博 野辺 薫 中園 尚志 池田 清 小野田洋子 渡邊 美保	上田 博 野辺 薫 中園 尚志 池田 清 小野田洋子 渡邊 美保	上田 博 野辺 薫 高木利栄子 池田 清 小野田洋子 河野 雅美 綾部三津子	
		特別講義	周手術期看護方法論	宮崎 一博 江口 博 佐古田利文	横山 秀樹 江口 博 肥川 誉慎	横山 秀樹 江口 博 肥川 誉慎	横山 秀樹 江口 博 肥川 誉慎	横山 秀樹 江口 博 肥川 誉慎
				宮崎 一博 江口 博 佐古田利文	横山 秀樹 江口 博 肥川 誉慎	横山 秀樹 江口 博 肥川 誉慎	横山 秀樹 江口 博 肥川 誉慎	横山 秀樹 江口 博 肥川 誉慎

# 講師一覧

(平成14年度入学生～平成18年度入学生)

学 科 目	平成14年度入学	平成15年度入学	平成16年度入学	平成17年度入学	平成18年度入学	
	13回生	14回生	15回生	16回生	17回生	
基礎分野	論理学	神崎 英紀 大杉 至	神崎 英紀	大杉 至	大杉 至 神崎 英紀	大杉 至 神崎 英紀
	看護物理学	後藤 勝	後藤 勝	後藤 勝	後藤 勝	後藤 勝
	情報科学	赤星 琴美	赤星 琴美	赤星 琴美	赤星 琴美	赤星 琴美
	情報科学演習	赤羽 恵一 品川 佳満 岡崎 寿子	品川 佳満 中山 晃志 岡崎 寿子	品川 佳満 中山 晃志 岡崎 寿子	品川 佳満 岡崎 寿子	品川 佳満 岡崎 寿子
	社会学	大杉 至	大杉 至	大杉 至	大杉 至	大杉 至
	心理学	川瀬 泰治	川瀬 泰治	川瀬 泰治	川瀬 泰治	川瀬 泰治
	教育学	山崎 清男	山崎 清男	山崎 清男	山崎 清男	山崎 清男
	人間関係論	福村 美和 渡邊としえ	福村 美和 渡邊としえ	福村 美和 篠原 忍	福村 美和 東村 知子	長谷川美枝子 東村 知子
	英会話	稲用 茂夫	福島 脩	松下 秀峰	小林 真衣	稲用 茂夫
	英語講読	福島 脩	松下 秀峰	中田 優一	稲用 茂夫	稲用 茂夫
	体育理論	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明
	体育実技	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明
	専門基礎分野	生命科学	赤嶺 康夫	赤嶺 康夫	赤嶺 康夫	武藤 庸一
身体機構総論		中山 雅晴 加藤 和彦	坂場 壮一 加藤 和彦	加藤 和彦 東 秀史 宇野 太啓 大塚 誠 末永 康夫	加藤 和彦 田原光一郎 宇野 太啓 大塚 誠 末永 康夫	八反田洋一 田原光一郎 宇野 太啓 大塚 誠 末永 康夫
身体機構論I		伊藤 能清 加藤 和彦	伊藤 能清	大森 忠雄 伊藤 能清	深田 高一 伊藤 能清	本田 栄子 加藤 和彦
身体機構論II		重永 武彦	重永 武彦	重永 武彦	澤部 俊之	澤部 俊之
身体機構論III		小路 高史	小路 高史	大森 忠雄 岩尾 哲	大森 忠雄 岩尾 哲	伊東 励 重松 作治
身体機構論IV		名本 真章 東 宣彦	良永 雅弘 東 宣彦	大森 忠雄 良永 雅弘 東 宣彦 東 秀史	大森 忠雄 深田 高一 伊東 励 良永 雅弘 鶴田 悟 田原光一郎	伊東 励 本田 栄子 良永 雅弘 鶴田 悟 田原光一郎
身体機構論V		藤尾 信昭	藤尾 信昭	大森 忠雄 藤尾 信昭	深田 高一 藤尾 信昭	本田 栄子 藤尾 信昭
身体機構論VI		河合 浩二 中西 知恵 井原 和彦	河合 浩二 矢野 英寿 井原 和彦	大森 忠雄 園田 康男	伊東 励 井原 和彦	伊東 励 井原 和彦
身体機構論VII		安増 哲生 森本 和秀 加藤 圭次	安増 哲生 加藤 圭次	大森 忠雄 山中 邦稔 安増 哲生 加藤 圭次	伊東 励 安田 透 安増 哲生 奥川 馨	伊東 励 安田 透 松原 孝典 奥川 馨
身体機構論VIII		後藤 勝政	後藤 勝政 光尾 邦彦	大森 忠雄 光尾 邦彦 肥川 誉慎	伊東 励 光尾 邦彦 肥川 誉慎	伊東 励 光尾 邦彦 大場 寛

学 科 目	平成14年度入学	平成15年度入学	平成16年度入学	平成17年度入学	平成18年度入学		
	13回生	14回生	15回生	16回生	17回生		
専 門 基 礎 分 野	身体機構論Ⅹ	有松 俊明 菊川 浩徳 渡邊 徳武 駒田 信二	有松 俊明 大島 裕司 渡邊 徳武 駒田 信二	有松 俊明 武藤 庸一 戸栗 一郎 渡邊 徳武 駒田 信二 横山 秀樹 武内 秀也	有松 俊明 武藤 庸一 戸栗 一郎 渡邊 徳武 阿南 隆 横山 秀樹 武内 秀也	有松 俊明 武藤 庸一 戸栗 一郎 渡邊 徳武 阿南 隆 金子 聡 武内 秀也 坂本菜穂子	
	生化学	森口 充瞭	森口 充瞭	森口 充瞭	森口 充瞭	森口 充瞭	
	感染・免疫学	後藤 和代 安田 正之	後藤 和代 安田 正之	後藤 和代 安田 正之	後藤 和代 安田 正之	後藤 和代 末永 康夫	
	薬理学	森 雅人	森 雅人	宮崎 弘和	宮崎 弘和	松本 憲治	
	栄養学	那須百合子	那須百合子	那須百合子	那須百合子	那須百合子	
	健康科学概論	赤嶺 康夫	赤嶺 康夫	赤嶺 康夫	赤嶺 康夫	武藤 庸一	
	保健環境論	末宗淳二郎	末宗淳二郎	末宗淳二郎	末宗淳二郎	末宗淳二郎	
	保健行政論	山下 剛 姫嶋 洋子 安達 紀子 佐土原浩子	山下 剛 小原 京子 安達 紀子 佐土原浩子	山下 剛 小原 京子 甲斐久美子 佐土原浩子	山下 剛 藤垣 則子 安達 紀子 吉岡 真理 片山 志保	田吹 好美 藤垣 則子 安達 紀子 簀戸 由紀	
	保健統計学	山下 剛	山下 剛	山下 剛	山下 剛	田吹 好美	
	社会福祉	武宮伸二郎	武宮伸二郎	武宮 律子	武宮 律子	武宮 律子	
	関係法規	末宗淳二郎 松永 憲治 大石 和男	末宗淳二郎 時任 満憲 宮崎 弘和 扇 玲子	末宗淳二郎 宮崎 弘和 八代 祐二 白水 麻子	末宗淳二郎 八代 祐二 西村由紀子 松本 憲治	末宗淳二郎 八代 祐二 西村由紀子 松本 憲治	
	専 門 分 野	基礎看護学概論	清岡 佳子	石井南美穂	石井南美穂	石井南美穂	西村由紀子
		看護理論演習	清岡 佳子 扇 玲子	石井南美穂 扇 玲子	石井南美穂 白水 麻子	石井南美穂 大野 美穂	西村由紀子 大野 美穂
		看護管理・教育	扇 玲子	白水 麻子	徳丸千端子 原田久美子 山田久美子	高口眞理子	高口眞理子
基本看護技術		梅野 貴恵 山本真由美 内田 弘子	佐々木容子 本松美和子 内田 弘子	藤原 節子 上田 美智 扇 玲子 本松美和子 大村 康子 福川美穂子 内田 弘子	大村 康子 川野 美和 山本真由美 加藤有美子 田原貴美子	藤井 美香 川野 美和 山本真由美 加藤有美子 大野 美穂	
基本看護技術校内実習		藤原 節子 上田 美智 山本真由美 梅野 貴恵 内田 弘子	藤原 節子 上田 美智 佐々木容子 本松美和子 内田 弘子	内田 弘子	山本真由美	山本真由美 本松美和子	
日常生活援助技術		佐々木容子 石山いずみ 山本真由美	山本真由美 田原貴美子	井口ミサヲ 宮崎 恵子 藤本砂緒里	熊谷 利美 本松美和子 岡本 英子	大野 美穂 加藤有美子 本松美和子	

学 科 目	平成14年度入学	平成15年度入学	平成16年度入学	平成17年度入学	平成18年度入学	
	13回生	14回生	15回生	16回生	17回生	
専 門 分 野	日常生活援助技術			廣末 佳子 志賀美智子 吉永千賀子 山本真由美 福川美穂子 岡本 英子	田原貴美子	
	日常生活援助技術校内実習	笠置 治恵 吉永千賀子 丸小野貴子 小山 善子 小野 一恵 御幡 隆子 渡辺千賀子 堀 圭子 小野いくみ 佐々木容子 山本真由美	笠置 治恵 麻生 利恵 宮崎 恵子 藤本砂緒里 小野いくみ 志賀美智子 吉永千賀子 山本真由美 丸小野貴子 有田ルミ子 小野 一恵 田原貴美子 加藤有美子	高橋 昌子 渡辺 繁子 秦 栄美 凍田スミ子 田原貴美子 大村 康子	川野 美和 大村 康子	三浦 由美 藤井 美香
	診療時援助技術	内田 弘子 大村 康子	大村 康子	大村 康子 岡本 英子	加藤有美子	三浦 由美
	診療時援助技術校内実習	河野 明美 堀 真弓 渡辺まり子 橋本 洋子 大川久美子 加藤美恵子 渡辺 智子 渡辺三貴子 龍現寺素子 内田 弘子 大村 康子	河野 明美 加藤 元美 渡辺まり子 橋本 洋子 平井めぐみ 安部 順子 川口 真弓 桑本真由美 池ヶ谷知美 大村 康子	河野 明美 加藤 元美 渡辺まり子 橋本 洋子 北川 香 河崎 千明 池ヶ谷知美 大村 康子	大村 康子 田原貴美子	小林 典子
	看護研究理論	河口 朝子	河口 朝子	河口 朝子	河口 朝子	岸田佐智子
	看護研究演習	河口 朝子 扇 玲子 内田 弘子 本松美和子 山本真由美 大村 康子 田原貴美子 福川美穂子	石井南美穂 河口 朝子 白水 麻子 本松美和子 山本真由美 大村 康子 川野 美和 加藤有美子	西村由紀子 河口 朝子 本松美和子 山本真由美 加藤有美子 川野 美和 三浦 由美 大野 美穂 藤井 美香	西村由紀子 岸田佐智子 本松美和子 山本真由美 川野 美和 三浦 由美 大野 美穂 藤井 美香 小林 典子	西村由紀子 岸田佐智子 今村 嘉子 山本真由美 加藤有美子 小林 典子 星野 睦美 一宮 絵美 出口 由美 大野 美穂 田久保玲子 井上 典枝
	在宅看護概論	三戸部由喜子	三戸部由喜子 本松美和子	三戸部由喜子 本松美和子	井手知恵子	井手知恵子



学 科 目	平成14年度入学	平成15年度入学	平成16年度入学	平成17年度入学	平成18年度入学	
	13回生	14回生	15回生	16回生	17回生	
専 門 分 野	在宅看護方法論・演習	三戸部由喜子 輪田 順一 佐藤 弥生 武島 富美 藤川 和明 南崎 覚 中村 里香 川原 幸子 本松美和子	川原 幸子 藤川 和明 伊東 利洋 川山穂律美 小野 朱美 本松美和子	川原 幸子 藤川 和明 伊東 利洋 本松美和子	川原 幸子 中原 忍 三浦 由美	川原 幸子 福澤 至 本松美和子 三浦 由美
	在宅看護過程演習	本松美和子	本松美和子	川原 幸子 本松美和子	川原 幸子 本松美和子	川原 幸子 三浦 由美
	成人看護学概論	扇 玲子	扇 玲子 大村 康子	扇 玲子 大村 康子	白水 麻子 大村 康子	藤井 美香
	成人看護方法論Ⅰ	石山いづみ	扇 玲子 大村 康子	藤井 栄 佐藤 恭子 宮原恵美子 中谷 直美 大村 康子	藤井 栄 北川 香 宮原恵美子 大山亜矢子 山口チハル 大野 美穂	藤井 栄 大山亜矢子 宮原恵美子 山口チハル 佐藤 君代 大野 美穂
	成人看護方法論Ⅱ	大塚 誠 末永 康夫 加藤百合子 宮村 直美 安西 直子 石山いづみ	大塚 誠 末永 康夫 加藤百合子 宮村 直美 佐藤 恭子 安西 直子	北川 香 山元 清子 工藤 吉子 安森 洋美 白水 麻子	北川 香 河島 京子 工藤 吉子 安森 洋美 藤井 美香	笠置 治恵 宮野 康子 秦 栄美 鷺野 宏美 藤井 美香
	成人看護技術演習	宇野 太啓 大村 康子	宇野 太啓 大村 康子	後藤 隆子 大村 康子	原野恵理子 大川 祐美 大野 美穂	原野恵理子 大川 祐美 大野 美穂 藤井 栄
	周手術期看護方法論	宇野 太啓 田原光一郎 杉田 由美 明石まつみ	武藤 庸一 肥川 誉慎 横山 秀樹 田原光一郎 宇野 太啓 安森 洋美 川西紀代子	桑本真由美 山田祐規子 川西紀代子 此本 雅恵 有田ルミ子 佐藤 恭子 白水 麻子	山田祐規子 藤井 栄 首藤美由紀 東 美雪 藤井 美香 川西紀代子 有田ルミ子	首藤美由紀 安森 洋美 川西紀代子 藤井 栄 有田ルミ子 東 美雪 藤井 美香
	成人看護過程演習	河口 朝子 扇 玲子 佐々木容子 内田 弘子 本松美和子 山本真由美 田原貴美子	河口 朝子 扇 玲子 本松美和子 山本真由美 大村 康子 田原貴美子 福川美穂子 内田 弘子	河口 朝子 白水 麻子 本松美和子 山本真由美 大村 康子 川野 美和 加藤有美子	河口 朝子 本松美和子 山本真由美 川野 美和 加藤有美子 大野 美穂 藤井 美香 三浦 由美	岸田佐智子 本松美和子 大野 美穂 山本真由美 三浦 由美 藤井 美香 川野 美和 小林 典子
	老年看護学概論	扇 玲子	河口 朝子 内田 弘子	河口 朝子 内田 弘子	武宮 律子 河口 朝子 高戸 雅子	武宮 律子 島村由美子 河口 朝子

学 科 目	平成14年度入学	平成15年度入学	平成16年度入学	平成17年度入学	平成18年度入学	
	13回生	14回生	15回生	16回生	17回生	
専 門 分 野	老年看護技術演習	内田 弘子 本松美和子	内田 弘子	北條真理江 坂本美保子 小林 雅子 川野 美和	北條真理江 坂本美保子 小林 雅子 川野 美和	北條真理江 坂本美保子 豊木 裕子 川野 美和
	老年看護方法論	工藤 吉子 木下みどり	雨宮 洋子 安部 明夫 大久保喜久枝 澤田 智子 内田 弘子	雨宮 洋子 廣末 佳子 高戸 雅子 川野 美和	雨宮 洋子 廣末 佳子 高戸 雅子 川野 美和	雨宮 洋子 廣末 佳子 小山 善子 川野 美和
	老年看護過程演習	高橋 昌子	笠置 治恵	大野 康子 川野 美和	川野 美和	川野 美和
	小児看護学概論	山本真由美 佐々木容子	山本真由美	山本真由美	加藤有美子	若嶋壽喜子
	小児看護方法論	旭 隆宏 有田ルミ子 福川美穂子	旭 隆宏 吉田 幸子 廣田 雄一 山口賢一郎	旭 隆宏 帯刀佐智代	高橋 伸 菅 尚浩 酒見 好弘 帯刀佐智代	高橋 伸 菅 尚浩 酒見 好弘 島村由美子
	小児看護技術演習	森崎 久美 神田 朋子	池田 恵子 藤原三枝子 帯刀佐智代 森崎 久美	池田 恵子 森崎 久美 宮崎 恵子 藤原三枝子	村上 則子 藤原三枝子 森崎 久美 宮崎 恵子	村上 則子 藤原三枝子 鶴岡奈津樹 帯刀佐智代
	小児看護過程演習	佐々木容子	山本真由美	山本真由美	加藤有美子	小林 典子
	母性看護学概論	石井南美穂	石井南美穂 田原貴美子	石井南美穂	梅野 貴恵	梅野 貴恵
	母性看護方法論	二宮ユミ子 吉野久美子 安部 瑞穂	二宮ユミ子 吉野久美子 松丸 陽子	二宮ユミ子 松丸 陽子 小野 香苗	角沖 久夫 酒見 好弘 小倉 寛則 弓削乃利人 阿部 里美 小野 香苗	角沖 久夫 阿萬 紫 稲富 滋 酒見 好弘 阿部 里美 蔵岡 育実
	母性健康教育演習	田原貴美子	石井南美穂 田原貴美子	田原貴美子	梅野 貴恵	梅野 貴恵
	精神看護学概論	菊池 桃子	綾部三津子	綾部三津子	松岡 緑	松岡 緑
	精神保健論	島田 文雄	島田 文雄 扇 玲子 山本真由美	石橋 通江 島田 文雄 石井南美穂 河口 朝子	島田 文雄 綾部三津子 河口 朝子	樋口 誠逸 後藤 尚美 山本真由美
	精神看護方法論	小城 左明 小野田洋子 綾部三津子	池原 真人 山田まゆみ	池原 真人 山田まゆみ	康田沙智恵 森 めぐみ	本田 慎一 森 めぐみ
	精神看護方法論演習	池野 和好 富永 了 河野 雅美 池田 清 高木利栄子	石橋 通江 池野 和好 吉田 和史 山本真由美	池野 和好 吉田 和史 河口 朝子 山本真由美	池野 和好 吉田 和史 河口 朝子 山本真由美	池野 和好 吉田 和史 山本真由美

# 講師一覧

(平成 19 年度入学生～平成 20 年度入学生)

学 科 目		平成19年度入学	平成20年度入学		
		18回生	19回生		
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	大杉 至 神崎 英紀	大杉 至 神崎 英紀	
		看護物理学	後藤 勝	後藤 勝	
		情報科学	赤星 琴美	赤星 琴美	
		情報科学演習	品川 佳満 岡崎 寿子	品川 佳満 岡崎 寿子	
	人間と人間生活の理解	社会学	大杉 至	大杉 至	
		心理学	川瀬 泰治	川瀬 泰治	
		教育学	山崎 清男	山崎 清男	
		人間関係論	長谷川美枝子 橋口 捷久	長谷川美枝子 橋口 捷久	
		英会話	稲用 茂夫	稲用 茂夫	
		英語講読	稲用 茂夫	稲用 茂夫	
		体育理論	松浪 勝	洲 雅明	
		体育実技	洲 雅明	洲 雅明	
	専門基礎分野	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	生命科学	武藤 庸一	武藤 庸一
			身体機構総論	矢田 一宏 大塚 誠 宇野 太啓 池田 陽一 久野 晃聖 鹿田 康紀 安田 正之	矢田 一宏 大塚 誠 宇野 太啓 末永 康夫 吉河 康二
身体機構論I			本田 栄子 安田 正之	本田 栄子 菊池 博	
身体機構論II			澤部 俊之	澤部 俊之	
身体機構論III			重松 作治 菊池 直浩	重松 作治 菊池 直浩	
身体機構論IV			良永 雅弘 鶴田 悟 松本 敏文 伊東 励 本田 栄子	良永 雅弘 鶴田 悟 松本 敏文 伊東 励 本田 栄子	
身体機構論V			藤尾 信昭 本田 栄子	藤尾 信昭 本田 栄子	
身体機構論VI			菊池 直浩 河合 浩二	菊池 直浩 井原 和彦	
身体機構論VII			島本 久美 伊東 励 松原 孝典 安田 透	島本 久美 伊東 励 菊池 秀年 藤井 猛	
身体機構論VIII			光尾 邦彦 内田 晋 伊東 励	光尾 邦彦 内田 晋 伊東 励	
身体機構論IX		戸栗 一郎 渡邊 徳武 有松 俊明	戸栗 一郎 渡邊 徳武 有松 俊明		

学 科 目		平成19年度入学		平成20年度入学	
		18回生		19回生	
専門基礎分野	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	身体機構論IX	武藤 庸一 武内 秀也 阿南 隆 金子 聡 坂本菜穂子	武藤 庸一 武内 秀也 斉藤 元吉 島田 浩光 藤田 佳吾	
		生化学	森口 充瞭	森口 充瞭	
		感染・免疫学	後藤 和代 末永 康夫	後藤 和代 末永 康夫	
		薬理学	松本 憲治	松本 憲治	
		栄養学	中島 俊隆	灰塚ふじ子 西久保百合子	
	社会保障制度	健康科学概論	武藤 庸一	武藤 庸一	
		保健環境論	末宗淳二郎	末宗淳二郎	
		保健行政論	田吹 好美 藤垣 則子 赤星 琴美 片山 志保	田吹 好美 藤垣 則子 赤星 琴美 片山 志保	
		保健統計学	田吹 好美	田吹 好美	
		社会福祉	武宮 律子	武宮 律子	
		生活者の健康	関係法規	古川 孝明 西村由紀子 末宗淳二郎 松本 憲治	古川 孝明 西村由紀子 末宗淳二郎 本松 由美
			基礎看護学概論	西村由紀子	西村由紀子
	専門分野	基礎看護学	看護理論演習	西村由紀子 今村 嘉子	今村 嘉子
			看護管理・教育	高口真理子	姫野 君江
基本看護技術		基本看護技術	山本真由美 大野 美穂 川野 美和 三浦 由美 本松美和子	山本真由美 大野 美穂 井上 典枝 田久保玲子	
		基本看護技術校内実習	本松美和子	山本真由美	
基礎看護学		日常生活援助技術	小林 典子 大野 美穂 山本真由美	小林 典子 一宮 絵美 加藤有美子	
		日常生活援助技術	本松美和子	山本真由美	
		校内実習	藤井 美香	出口 由美	
		診療時援助技術	藤井 美香	星野 陸美	
		診療時援助技術校内実習	小林 典子	小林 典子	
		看護研究理論	岸田佐智子	岸田佐智子	
		看護研究演習	岸田佐智子 西村由紀子 今村 嘉子 山本真由美 小林 典子 加藤有美子	岸田佐智子 西村由紀子 皮野さよみ 山本真由美 小林 典子 加藤有美子	

学 科 目		平成19年度入学		平成20年度入学	
		18回生		19回生	
専 門 分 野	基礎看護学	看護研究演習	一宮 絵美 出口 由美 井上 典枝 岡本 英子 中島由美子 星野 睦美	一宮 絵美 出口 由美 井上 典枝 岡本 英子 中島由美子 田長丸美和 深野しのぶ	
		在宅看護論	在宅看護概論	井手知恵子	井手知恵子
			在宅看護方法論演習	川原 幸子 一宮 公人 田久保玲子 福澤 至	川原 幸子 一宮 公人 岡本 英子 高田 浩美
	在宅看護過程演習		川原 幸子 田久保玲子	川原 幸子 岡本 英子	
	成人看護学	成人看護学概論	藤井 美香	大野 美穂	
		成人看護方法論I	宮原恵美子 山口チハル 中村 郁代 大野 美穂 大山亜矢子 牧 俊子	宮原恵美子 山口チハル 中村 郁代 板井 弓枝 一宮 絵美 田中 優子	
		成人看護方法論II	一宮 絵美 笠置 治恵 山元 竜二 中村 京子 秦 栄美 安森 洋美	一宮 絵美 笠置 治恵 山元 竜二 大島 玲子 岡本詩寿子 木崎 美佳	
		成人看護技術演習	大野 美穂 田久保玲子 日野 法子	一宮 絵美 藤井 栄 日野 法子	
		周手術期看護方法論	安部佐和美 宮崎 初美 水永 久美 安西 直子 一宮 絵美 西 美穂子 藤井 栄	安部佐和美 宮崎 初美 水永 久美 小林 典子 志賀美智子 永吉久美子 増川 明里	
		成人看護過程演習	岸田佐智子 今村 嘉子 星野 睦美 小林 典子 山本真由美 一宮 絵美 加藤有美子 井上 典枝 大野 美穂 田久保玲子 出口 由美	岸田佐智子 今村 嘉子 星野 睦美 小林 典子 山本真由美 一宮 絵美 加藤有美子 井上 典枝 岡本 英子	



学 科 目		平成19年度入学	平成20年度入学
		18回生	19回生
政策医療論	政策医療看護概論	西村由紀子 森崎 久美 藤原三枝子 鳴海 篤志 川山穂律美	西村由紀子 森崎 久美 藤原三枝子 鳴海 篤志 川野 晶子
	政策医療看護方法論	森崎 久美 藤原三枝子 鳴海 篤志 加藤有美子 川山穂律美 山本真由美	森崎 久美 藤原三枝子 鳴海 篤志 一宮 絵美 川野 晶子
老年看護学	老年看護学概論	武宮 律子 安西 直子 川野 美和	武宮 律子 今村 嘉子
	老年看護方法論	雨宮 洋子 小山 善子 星野 睦美 藤井 栄 松丸 陽子	雨宮 洋子 小山 善子 星野 睦美 岩田 美香 志賀美智子 山田まゆみ
	老年看護技術演習	星野 睦美 坂本美保子 北條真理江	星野 睦美 坂本美保子 北條真理江
	老年看護過程演習	星野 睦美	星野 睦美
小児看護学	小児看護学概論	岸田佐智子 若嶋壽喜子	加藤有美子
	小児看護方法論	高橋 伸 菅 尚浩 帯刀佐智代 酒見 好弘	高橋 伸 菅 尚浩 帯刀佐智代
	小児看護技術演習	帯刀佐智代 島村由美子 村上 則子 鶴岡奈津樹 江口 珠美	帯刀佐智代 島村由美子 村上 則子 阿部奈津樹 長田 彩加
	小児看護過程演習	加藤有美子	加藤有美子
母性看護学	母性看護学概論	梅野 貴恵	井上 典枝
	母性看護方法論	角沖 久夫 藤本 英典 稲富 滋 宮崎 恵子 宮野 康子 酒見 好弘	角沖 久夫 藤本 英典 稲富 滋 宮崎 恵子 宮野 康子 高橋 伸
	母性健康教育演習	井上 典枝	井上 典枝
	精神看護学	精神看護学概論	出口 由美
	精神保健論	樋口 誠逸 出口 由美	樋口 誠逸 出口 由美

学 科 目		平成19年度入学	平成20年度入学
		18回生	19回生
専 門 分 野	精神看護学	後藤 尚美	川崎 希
	精神看護方法論	本田 慎一 足達 啓子	木田 直也 山口 昌弘
	精神看護方法論演習	出口 由美 池野 和好 吉田 和史	出口 由美 池野 和好 高木利栄子
	特別講義	柴戸 麻里 福田 詠子 本田 良子 松尾 光晴	柴戸 麻里 鳴海 篤志 畑中 哲生 宮田 正和

# 講師一覧

(平成 21 年度入学生～平成 24 年度入学生)

学 科 目		平成21年度入学	平成22年度入学	平成23年度入学	平成24年度入学	
		20回生	21回生	22回生	23回生	
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	大杉 至 神崎 英紀	大杉 至 神崎 英紀	大杉 至 神崎 英紀	大杉 至 神崎 英紀
		教育学	山崎 清男	山崎 清男	長谷川祐介	長谷川祐介
		情報科学	品川 佳満 大賀 淳子	品川 佳満 大賀 淳子	品川 佳満 大賀 淳子	品川 佳満 大賀 淳子
		情報科学演習	佐藤みつよ 岡崎 寿子	佐藤みつよ 渡邊 寿子	佐藤みつよ 品川 佳満	田原 歩 品川 佳満
		看護物理学	後藤 勝	後藤 勝	後藤 勝	後藤 勝
	人間と生活・社会の理解	社会学	大杉 至	大杉 至	大杉 至	大杉 至
		心理学	川瀬 泰治	川瀬 泰治	川瀬 泰治	川瀬 泰治
		人間関係論Ⅰ	長谷川美枝子 橋口 捷久	長谷川美枝子 橋口 捷久	長谷川美枝子 橋口 捷久	長谷川美枝子 橋口 捷久
		人間関係論Ⅱ	長谷川美枝子	長谷川美枝子	長谷川美枝子	長谷川美枝子
		英会話	稲用 茂夫	稲用 茂夫	オカナ・トマース	オカナ・トマース
		英語講読	稲用 茂夫	稲用 茂夫	稲用 茂夫	稲用 茂夫
		体育理論	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明
		体育実技	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明
	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	下田 浩	藤倉 義久	藤倉 義久	藤倉 義久
解剖生理学Ⅱ		下田 浩	藤倉 義久	藤倉 義久	藤倉 義久	
生化学		森口 充瞭	森口 充瞭	森口 充瞭	富田健二郎	
栄養学		灰塚ふじ子 西久保百合子	灰塚ふじ子 嶋 由紀	橋本 有吏	橋本 有吏 嶋 由紀	
微生物学		仙波 和代	久保 徳彦 永井 淳子	久保 徳彦	久保 徳彦	
				上野 拓也 中島 匡	上野 拓也 西尾 末広	
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学(病理学総論)	吉河 康二	吉河 康二	吉河 康二	吉河 康二
		疾病論Ⅰ (呼吸・循環器)	澤部 俊之	澤部 俊之	澤部 俊之	澤部 俊之
			斉藤 元吉	斉藤 元吉	斉藤 元吉	福山 誠一
			重松 作治	重松 作治	重松 作治	重松 作治
			武藤 庸一	武藤 庸一	田中 秀幸	田中 秀幸
		疾病論Ⅱ (消化器・内分泌代謝)	良永 雅弘	良永 雅弘	良永 雅弘	良永 雅弘
			鶴田 悟	鶴田 悟	鶴田 悟	鶴田 悟
			松本 敏文 藤尾 信昭	松本 敏文 藤尾 信昭	松本 敏文 藤尾 信昭	松本 敏文 藤尾 信昭
		疾病論Ⅲ (脳神経・運動器)	光尾 邦彦	光尾 邦彦	光尾 邦彦	光尾 邦彦
			永井 康之 鍋島 央	永井 康之 井原 和彦	永井 康之 井原 和彦	永井 康之 井原 和彦
疾病論Ⅳ (腎泌尿器・女性生殖器・乳腺・感染症)	菊池 秀年	菊池 秀年	菊池 秀年	菊池 秀年		
	藤井 猛	田崎 義久	田崎 義久	田崎 義久		
	島本 久美	島本 久美	吉田 祥子	菊池 博		
	武内 秀也 楠本 哲也	武内 秀也 楠本 哲也	武内 秀也 楠本 哲也	武内 秀也 矢野篤次郎		
疾病論Ⅴ (血液造血器・アレルギー・膠原病・感覚器)	菊池 博	菊池 博	菊池 博	吉田 祥子		
	末永 康夫	末永 康夫	末永 康夫	末永 康夫		
	戸栗 一郎	今木 裕幸	今木 裕幸	今木 裕幸		
	有松 俊明	有松 俊明	有松 俊明	有松 俊明		
	渡邊 徳武	渡邊 徳武	渡邊 徳武	渡邊 徳武		

学 科 目		平成21年度入学	平成22年度入学	平成23年度入学	平成24年度入学	
		20回生	21回生	22回生	23回生	
専 門 基 礎 分 野	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病論Ⅴ (血液造血管器・アレルギー・膠原病・感覚器)	後藤 瑞生 上村 尚樹	後藤 瑞生	後藤 瑞生	
		薬理学Ⅰ	本松 由美	吉原 涼子	吉原 涼子	吉原 涼子
		薬理学Ⅱ	本松 由美	吉原 涼子	吉原 涼子	吉原 涼子
		治療論	内田 博喜	内田 博喜	久米 正純	久米 正純
			沖 英次	廣重 彰二	廣重 彰二	廣重 彰二
			山元 竜二	橋本 健吉	鈴木 浩輔	鈴木 浩輔
			宇野 太啓	宇野 太啓	宇野 太啓	宇野 太啓
			添田 博康	添田 博康	添田 博康	添田 博康
			大塚 誠	大塚 誠	大塚 誠	大塚 誠
			楠本 哲也	楠本 哲也	矢野篤次郎	矢野篤次郎
末永 康夫	末永 康夫		末永 康夫	末永 康夫		
健康支援と社会保障制度	保健医療論	武藤 庸一	武藤 庸一	武藤 庸一	武藤 庸一	
	社会福祉	武宮 律子 永松 悟	武宮 律子	武宮 律子	武宮 律子	
	関係法規	末宗淳二郎 西村由紀子	末宗淳二郎 西村由紀子	末宗淳二郎 西山ゆかり	末宗淳二郎 西山ゆかり	
	公衆衛生学	田吹 好美	田吹 好美	田吹 好美	田吹 好美	
専 門 分 野 Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	西村由紀子	西村由紀子	西村由紀子	渡部 京子
		安全を守るための技術	井上 典枝	井上 典枝 山本真由美	深野しのぶ 堤 令子	田長丸美和
		対象把握のための技術	山本真由美 小林 典子	山本真由美 出口 由美	小林 典子 出口 由美	中島由美子 出口 由美
		看護を展開するための技術	山本真由美 中島由美子	山本真由美 中島由美子	山本真由美 深野しのぶ 堤 令子	山本真由美 中島由美子
		日常生活援助技術Ⅰ	加藤有美子 出口 由美	加藤有美子 田長丸美和	井上 典枝 出口 由美	出口 由美 堤 令子
		日常生活援助技術Ⅱ	中島由美子 岡本 英子 井上 典枝	中島由美子 岡本 英子 井上 典枝	中島由美子 岡本 英子 井上 典枝	池ヶ谷知美 加藤有美子 堤 令子
		診療時援助技術	深野しのぶ 小林 典子	深野しのぶ 田長丸美和 加藤有美子	深野しのぶ 岡本 英子 三田村健治	大山亜矢子 岡本 英子 三田村健治 池ヶ谷知美
		臨床看護総論	今村 嘉子 岩熊 秀樹 星野 睦美 岸田佐智子	深野しのぶ 岩熊 秀樹	深野 久美 岩熊 秀樹 深野しのぶ 山本真由美	岡本 英子 岩熊 秀樹 中島由美子 川野 理美 吉永 幸永
		看護研究	岸田佐智子	皮野さよみ	深野 久美	深野 久美
		専 門 分 野 Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	一宮 絵美	皮野さよみ
成人看護方法論Ⅰ	一宮 絵美 藤田 將之 永吉久美子			小林 典子 藤田 將之 清家つかさ	三田村健治 藤田 將之 清家つかさ	三田村健治 藤田 將之 三浦久美子

学 科 目		平成21年度入学	平成22年度入学	平成23年度入学	平成24年度入学
		20回生	21回生	22回生	23回生
成人看護学	成人看護方法論I	宮崎 初美 東 沙織	丸山野智子 安部 恵	丸山野智子 安部 恵	庄 愛美 澤田佳保里
	成人看護方法論II	中島由美子 田中 優子 津下 智子 中根由季枝	深野しのぶ 田中 優子 津下 智子 中根由季枝	深野しのぶ 田中 優子 安部佐和美 中根由季枝	大山亜矢子 土居 由紀 安部佐和美 中根由季枝
	成人看護方法論III	深野しのぶ 岡本詩寿子 綾森 康子 赤嶺 明香 佐伯小百合 一宮 絵美	深野しのぶ 岡本詩寿子 綾森 康子 椎原 直美 安藤万寿美	深野しのぶ 岡本詩寿子 宇江城亜希子 椎原 直美 川崎 沙織	山本真由美 岡本詩寿子 宇江城亜希子 椎原 直美 川野 理美 山本真由美
	成人看護方法論IV	日野 法子 香野 有紀 一宮 絵美	日野 法子 首藤美由紀 深野 久美	島井 良子 首藤美由紀 深野しのぶ	首藤美由紀 島井 良子 杉安 久美
	成人看護方法論V	一宮 絵美	岡本詩寿子 中根由季枝 小林 典子	岡本詩寿子 中根由季枝 三田村健治	岡本詩寿子 中根由季枝 三田村健治
専門分野 II 老年看護学	老年看護学概論	武宮 律子 今村 嘉子	武宮 律子 岸田佐智子	武宮 律子 堤 令子	武宮 律子 西山ゆかり
	老年看護方法論I	田長丸美和 北條真理江 坂本美保子 雨宮 洋子	田長丸美和 北條真理江 井野 美香 雨宮 洋子	田長丸美和 北條真理江 井野 美香 雨宮 洋子	堤 令子 北條真理江 井野 美香 雨宮 洋子
	老年看護方法論II	田長丸美和 渡邊 和子 志賀美智子 木崎 美佳	堤 令子 渡邊 和子 佐藤 香 村武 明子 堤 令子 平山 絢子	田長丸美和 渡邊 和子 佐藤 香 村武 明子 堤 令子	池ヶ谷知美 渡邊 和子 佐藤 香 上田 百合 川崎 希 西山ゆかり
	老年看護方法論III	田長丸美和 首藤真奈美 山元 竜二	田長丸美和 水永 久美 馬場 豊彦	小田 雅子 堤 令子 中川 真吾	小田 雅子 堤 令子 中川 真吾
小児看護学	小児看護学概論	加藤有美子	加藤有美子	加藤有美子	加藤有美子
	小児看護方法論I	高橋 伸 後藤 勝政 帯刀佐智代 長田 彩加 徳丸 京子 中谷 直美	高橋 伸 後藤 勝政 菅 尚浩 長田 彩加 阿部 未奈 神田 朋子 林田あけみ	高橋 伸 後藤 勝政 古賀 寛史 長田 彩加 阿部 未奈 生重 真希 林田あけみ	後藤 勝政 古賀 寛史 長田 彩加 阿部 未奈 生重 真希 林田あけみ
	小児看護方法論II	加藤有美子	加藤有美子	加藤有美子	加藤有美子
	小児看護方法論演習	阿部 未奈 長田 彩加 帯刀佐智代 村上 則子	阿部 未奈 長田 彩加 野川 敦子	阿部 未奈 長田 彩加 野川 敦子	阿部 未奈 長田 彩加 野川 敦子



学 科 目		平成21年度入学	平成22年度入学	平成23年度入学	平成24年度入学		
		20回生	21回生	22回生	23回生		
専 門 分 野 II	母性看護学	母性看護学概論	皮野さよみ	皮野さよみ	越田津矢美	安部千代里	
		母性看護方法論I	宮田 知子 角沖 久夫 松本志津子	篠崎 智子 角沖 久夫 松本志津子	篠崎 智子 角沖 久夫 井上 貴史 吉田 佳代	篠崎 智子 角沖 久夫	
		母性看護方法論II	藤本 英典 角沖 久夫 高橋 伸 山元 清子	藤本 英典 角沖 久夫 高橋 伸 山元 清子 松本 朋子	田中 浩正 角沖 久夫 古賀 寛史 山元 清子 生重 真希	田中 浩正 古賀 寛史 山元 清子 生重 真希	
		母性看護方法論演習	皮野さよみ 井上 典枝	皮野さよみ 井上 典枝	宮野 康子 山元 清子 阿部 里美	松本志津子 野中 智恵 阿部 里美	
	精神看護学	精神看護学概論	出口 由美 樋口 逸誠 中島由美子	出口 由美 山田 聖 中島由美子	出口 由美 小山礼三郎 中島由美子	出口 由美 花田 浩昭 中島由美子 白浜 正直	
		精神看護方法論I	出口 由美 平河 則明 安森 洋美	久保田敬典 神保 慎 安森 洋美	久保田敬典 高橋 潤一 安森 洋美	後藤慎二郎 吉野小百合	
		精神看護方法論II	出口 由美 山口 昌弘 田中 成和 池野 和好	中島由美子 山口 昌弘	中島由美子 小城 智美	中島由美子 小城 智美	
		精神看護方法論III	出口 由美	出口 由美	出口 由美	出口 由美	
	統 合 分 野	在宅看護論	在宅看護概論	河野 智美	河野 智美	河野 智美	河野 智美
			在宅看護方法論演習I	川原 幸子 岡本 英子 中原 忍	川原 幸子 岡本 英子 福澤 至 北條真理江	川原 幸子 岡本 英子 小山佳代子 北條真理江 池ヶ谷知美	岩井 泉 岡本 英子 小山佳代子 北條真理江 池ヶ谷知美
在宅看護方法論演習II			岡本 英子 川原 幸子	岡本 英子 川原 幸子	岡本 英子 川原 幸子	岡本 英子 野田 道子	
看護の統合と実践		看護マネージメント	姫野 君江 皮野さよみ	姫野 君江 西山ゆかり	井手野由美子 西山ゆかり	廣田 真里 大野 美穂	
		医療安全と看護	工藤 英美 鳴海 篤志 片山 志保 小林 典子	工藤 英美 鳴海 篤志 片山 志保 小林 典子	工藤 英美 鳴海 篤志 片山 志保 西山ゆかり	工藤 英美 鳴海 篤志 西山ゆかり	
	看護実践演習	山本真由美 西村由紀子	山本真由美 渡部 京子	山本真由美 渡部 京子	山本真由美 大野 美穂		

# 講師一覧

(平成 25 年度入学生～平成 28 年度入学生)

学 科 目		平成25年度入学	平成26年度入学	平成27年度入学	平成28年度入学	
		24回生	25回生	26回生	27回生	
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	大杉 至 神崎 英紀	大杉 至 神崎 英紀	大杉 至 神崎 英紀	大杉 至 神崎 英紀
		教育学	長谷川祐介	山崎 清男	山崎 清男	山崎 清男
		情報科学	品川 佳満 大賀 淳子	品川 佳満	品川 佳満	品川 佳満
		情報科学演習	品川 佳満 田原 歩	品川 佳満 渡邊 寿子	品川 佳満 渡邊 寿子	品川 佳満 渡邊 寿子
		看護物理学	後藤 勝	後藤 勝	後藤 勝	小林 正
	人間と生活・社会の理解	社会学	大杉 至	大杉 至	大杉 至	大杉 至
		心理学	川瀬 泰治	川瀬 泰治	川瀬 泰治	川瀬 泰治
		人間関係論Ⅰ	長谷川美枝子 橋口 捷久	長谷川美枝子 橋口 捷久	長谷川美枝子 吉山 尚裕	長谷川美枝子 吉山 尚裕
		人間関係論Ⅱ	長谷川美枝子	長谷川美枝子	長谷川美枝子	長谷川美枝子
		英会話	オカナ・トマース	オカナ・トマース	オカナ・トマース	オカナ・トマース
		英語講読	稲用 茂夫	稲用 茂夫	稲用 茂夫	稲用 茂夫
		体育理論	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明
		体育実技	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明
	専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	藤倉 義久	藤倉 義久	藤倉 義久
解剖生理学Ⅱ			藤倉 義久	藤倉 義久	藤倉 義久	藤倉 義久
生化学			富田健二郎	富田健二郎	富田健二郎	富田健二郎
栄養学			桑原 淳子	桑原 淳子	桑原 淳子	桑原 淳子
			嶋 由紀	立石 容子	立石 容子	立石 容子
微生物学		久保 徳彦	久保 徳彦	久保 徳彦	久保 徳彦	
		上野 拓也	上野 拓也	西尾 末広	西尾 末広	
		西尾 末広	西尾 末広	児玉真由子	児玉真由子	
疾病の成り立ちと回復の促進		病理学(病理学総論)	吉河 康二	吉河 康二	吉河 康二	草場 敏浩 小山 雄三
		疾病論Ⅰ (呼吸・循環器)	澤部 俊之	澤部 俊之	上野 拓也	上野 拓也
			福山 誠一	福山 誠一	福山 誠一	福山 誠一
			重松 作治	重松 作治	重松 作治	重松 作治
			田中 秀幸	田中 秀幸	木村 龍範	木村 龍範
			久米 正純	久米 正純	久米 正純	久米 正純
	疾病論Ⅱ (消化器・内分泌代謝)	良永 雅弘	良永 雅弘	柚田 真一	柚田 真一	
		鶴田 悟	鶴田 悟	鶴田 悟	鶴田 悟	
		松本 敏文	松本 敏文	松本 敏文	松本 敏文	
疾病論Ⅲ (脳神経・運動器)	藤尾 信昭	藤尾 信昭	藤尾 信昭	藤尾 信昭		
	光尾 邦彦	光尾 邦彦	光尾 邦彦	後藤 勝政		
疾病論Ⅳ (腎泌尿器・血液造血器・乳腺・感染症)	永井 康之	永井 康之	永井 康之	永井 康之		
	井原 和彦	井原 和彦	井上 和久	井上 和久		
	菊池 秀年	菊池 秀年	菊池 秀年	菊池 秀年		
	田崎 義久	田崎 義久	田崎 義久	田崎 義久		
疾病論Ⅴ (女性生殖器等・アレルギー・膠原病・感覚器)	菊池 博	菊池 博	菊池 博	菊池 博		
	武内 秀也	武内 秀也	武内 秀也	武内 秀也		
	矢野篤次郎	矢野篤次郎	矢野篤次郎	矢野篤次郎		
疾病論Ⅴ (女性生殖器等・アレルギー・膠原病・感覚器)	中山 裕晶	穴見 愛	穴見 愛	中山 裕晶		
	末永 康夫	末永 康夫	末永 康夫	末永 康夫		
	今木 裕幸	今木 裕幸	清崎 邦洋	清崎 邦洋		

学 科 目		平成25年度入学	平成26年度入学	平成27年度入学	平成28年度入学	
		24回生	25回生	26回生	27回生	
専 門 基 礎 分 野	疾病論Ⅴ (女性生殖器・アレルギー・ 膠原病・感覚器)	森山 正臣	森山 正臣	森山 正臣	森山 正臣	
		甲斐 宜貴	甲斐 宜貴	甲斐 宜貴	甲斐 宜貴	
		小野敬一郎	小野敬一郎	小野敬一郎	小野敬一郎	
	薬理学Ⅰ	大石 博史	大石 博史	大石 博史	山科 卓也	
	薬理学Ⅱ	大石 博史	大石 博史	大石 博史	山科 卓也	
	治療論	久米 正純	久米 正純	久米 正純	久米 正純	
		廣重 彰二	廣重 彰二	廣重 彰二	廣重 彰二	
		大石 一成	大石 一成	大石 一成	大石 一成	
		宮崎 公貴	宮崎 公貴	宮崎 公貴	宮崎 公貴	
		大塚 誠	大塚 誠	大塚 誠	大塚 誠	
矢野篤次郎		矢野篤次郎	矢野篤次郎	矢野篤次郎		
末永 康夫		末永 康夫	末永 康夫	末永 康夫		
中川 真吾		中川 真吾	中川 真吾	中川 真吾		
山下亜沙実	山下亜沙実	山下亜沙実	池野 和好			
健康支援と社会保険制度	保健医療論	武藤 庸一	武藤 庸一	酒井 浩徳	酒井 浩徳	
	社会福祉	武宮 律子	武宮 律子	武宮 律子	武宮 律子	
	関係法規	末宗淳二郎	末宗淳二郎	橋本 和明	池間 忍	
		井出野由美子	大野 美穂	大野 美穂	朝月真由美	
公衆衛生学	田吹 好美	田吹 好美	田吹 好美	田吹 好美		
専 門 分 野 Ⅰ	看護学概論	渡部 京子	太田原裕美	太田原裕美	太田原裕美	
				工藤 英美	工藤 英美	
	安全を守るための技術	堤 令子		三田村健治	佐藤 香	太田原裕美
				田長丸美和	杉安 久美	吉竹 あゆ
	対象把握のための技術	中島由美子	出口 由美	中島由美子	佐藤 香	首藤真奈美
				平井 和明	平井 和明	杉安 久美
	看護を展開するための技術	山本真由美	出口 由美	山本真由美	加藤有美子	上田加寿子
				中島由美子	佐藤 香	甲斐有美子
	日常生活援助技術Ⅰ	出口 由美	杉安 久美	杉安 久美	佐藤 香	江下 栄子
				中村 聖	中村 聖	中村 聖
日常生活援助技術Ⅱ	野中 智恵	大山亜矢子	大山亜矢子	大山亜矢子	大道 真理	
			加藤有美子	吉竹 あゆ	中村 聖	
診療時援助技術	大山亜矢子	中島由美子	中島由美子	中島由美子	甲斐有美子	
			中村 聖	池ヶ谷知美	杉安 久美	
			田長丸美和	首藤真奈美	大道 真理	
					上田加寿子	
臨床看護総論	山本真由美	池ヶ谷知美	吉竹 あゆ	杉安 久美		
	平井 和明	佐藤 香	可児 友美	神矢 恵美		
	岩熊 秀樹	平井 和明	岩熊 秀樹	岩熊 秀樹		
	川野 理美	岩熊 秀樹	木本 理美	木本 理美		
	吉永 幸永	川野 理美	吉永 幸永	吉永 幸永		
		吉永 幸永				
看護研究	深野 久美	深野 久美	石原 尚美	石原 尚美		

学 科 目		平成25年度入学	平成26年度入学	平成27年度入学	平成28年度入学
		24回生	25回生	26回生	27回生
成人看護学	成人看護学概論	深野 久美	深野 久美	深野 久美 大野 美穂	大野 美穂
	成人看護方法論I	杉安 久美 藤田 将之 山崎 智子 清武 遥 庄 愛美 澤田佳保里	杉安 久美 吉田 嘉子 松本亜由美 梶谷 遥 庄 愛美 井出由香里	中村 聖 吉田 嘉子 佐藤茉由子 海原 瞳 大山 泰幸 井出由香里	中村 聖 吉田 嘉子 佐藤茉由子 木津摩衣子 大山 泰幸 諫山由香里
	成人看護方法論II	松井のどか 田村 委子 永元江理佳 坂井希久子 中根由季枝	松井のどか 田村 委子 神田 恵里 三浦 舞子 中根由季枝	松井のどか 田村 委子 橋本友香里 熊崎 明里 清水 里恵	姫野 裕美 田村 委子 橋本友香里 峯 彩香 山本祐香理
	成人看護方法論III	大山亜矢子 岡本詩寿子 安藤 聡美 渡邊 美貴 椎原 直美 大石里奈子 津下 智子	大山亜矢子 岡本詩寿子 山元 清子 三浦 理恵 椎原 直美 松山 由佳 津下 智子	甲斐有美子 岡本詩寿子 河野 明美 三浦 理恵 椎原 直美 松山 由佳 津下 智子	上田加寿子 笠置 仁美 河野 明美 三浦 理恵 平山 遥 松山 由佳 津下 智子
	成人看護方法論IV	杉安 久美 首藤美由紀	上田加寿子 江上 雅代	高野由香里 神矢 恵美 佐藤友香子	高野由香里 田中紀代美 神矢 恵美 村田 光代
	成人看護方法論V	杉安 久美 岡本詩寿子 中根由季枝	杉安 久美 岡本詩寿子 中根由季枝	大道 真理 岡本詩寿子 森口 奏相	中村 聖 岡本詩寿子 森口 奏相
老年看護学	老年看護学概論	武宮 律子 西山ゆかり	武宮 律子 池ヶ谷知美	武宮 律子 池ヶ谷知美	武宮 律子 大道 真理
	老年看護方法論I	田長丸美和 北條眞理江 井野 美香 雨宮 洋子	上田加寿子 北條眞理江 井野 美香 雨宮 洋子	上田加寿子 山本 幸子 井野 美香 雨宮 洋子	田長丸美和 山本 幸子 幸 邦子 雨宮 洋子
	老年看護方法論II	田長丸美和 池ヶ谷知美 安部多見子 山下 久美 立本 舞 村武 明子	池ヶ谷知美 作田 咲恵 須股 幸子 安部佐和美 原 利宝 立本 舞	中村 聖 上田加寿子 作田 咲恵 阿部 未奈 安部佐和美 原 利宝	中村 聖 三浦 由美 立石可那子 佐伯小百合 安部佐和美 原 利宝 山本 敬子
	老年看護方法論III	田長丸美和 渡邊 和子	池ヶ谷知美 川野 望美	可児 友美 川野 望美	中島由美子 川野 望美
小児看護学	小児看護学概論	加藤有美子	加藤有美子	加藤有美子	首藤眞奈美
	小児看護方法論I	古賀 寛史 後藤 勝政 佐藤 良子 宮崎 恵子 林田あけみ	古賀 寛史 後藤 勝政 管谷 愛美 宮崎 恵子 日野真理子	古賀 寛史 後藤 勝政 管谷 愛美 宮崎 恵子 糸永小百合	古賀 寛史 後藤 勝政 管谷 愛美 宮崎 恵子 糸永小百合

専門分野 II

成人看護学

老年看護学

小児看護学

学 科 目		平成25年度入学	平成26年度入学	平成27年度入学	平成28年度入学		
		24回生	25回生	26回生	27回生		
専 門 分 野 II	小児看護学	小児看護方法論II	加藤有美子	加藤有美子	甲斐有美子	甲斐有美子	
		小児看護方法論演習	佐藤 良子 長田 彩加 野川 敦子	菅谷 愛美 平下 理香 佐藤 良子	菅谷 愛美 平下 理香 佐藤 良子	菅谷 愛美 平下 理香 阿部奈津樹	
	母性看護学	母性看護学概論	野中 智恵	野中 智恵	野中 智恵	野中 智恵	
		母性看護方法論I	久保 絢美 角沖 久夫 古賀 寛史 後藤 幸子	久保 絢美 角沖 久夫 古賀 寛史 岡部 裕美	久保 絢美 角沖 久夫 古賀 寛史 岡部 裕美	久保 絢美 古賀 寛史 岡部 裕美	
		母性看護方法論II	桑野 正裕 角沖 久夫 宮崎 恵子 山元 清子	桑野 正裕 角沖 久夫 宮崎 恵子 安藤 聡美	桑野 正裕 角沖 久夫 宮崎 恵子 安藤 聡美	穴見 愛 角沖 久夫 宮崎 恵子 安藤 聡美	
		母性看護方法論演習	野中 智恵	野中 智恵	野中 智恵	野中 智恵 山元 清子	
	精神看護学	精神看護学概論	出口 由美 白浜 正直 後藤慎二郎 中島由美子	中島由美子 石飛 佳宣 後藤慎二郎	中島由美子 後藤慎二郎	江下 栄子 児玉 健介 河野健太郎	
		精神看護方法論I	後藤慎二郎 塚本 光江 丸山 義博 吉野小百合	後藤慎二郎 中村 由佳	後藤慎二郎 中村 由佳	児玉 健介 河野健太郎 牧野 麻友 竜田あすみ	
		精神看護方法論II	平井 和明 小城 智美	平井 和明 藤田 将之	中島由美子 藤田 将之	江下 栄子 吉田紗奈江	
		精神看護方法論III	中島由美子	平井 和明	江下 栄子	江下 栄子	
	統 合 分 野	在宅看護論	在宅看護概論	山崎 智子	山崎 智子	山崎 智子	山崎 智子
			在宅看護方法論演習I	田上 香里 北條真理江 小山佳代子 池ヶ谷知美	田上 香里 北條真理江 後藤 綾 可児 友美	田上 香里 北條真理江 後藤 綾 上田加寿子	田上 香里 北條真理江 山本 佳子 上田加寿子 三浦 由美
			在宅看護方法論演習II	佐藤 友美 野田 道子	可児 友美 野田 道子	池ヶ谷知美 野田 道子	三浦 由美 藤尾 哲子
		看護マネジメント	内野かおり 大野 美穂	石山いずみ 石原 尚美	石山いずみ 石原 尚美	山田 展代 石原 尚美	
		看護の統合と実践	医療安全と看護	工藤 英美 鳴海 篤志 宮崎 良尚 平城 文恵 大野 美穂 安部 初美	工藤 英美 鳴海 篤志 宮崎 良尚 平城 文恵 大野 美穂 安部 初美	工藤 英美 鳴海 篤志 宮崎 良尚 平城 文恵 朝月真由美	工藤 英美 鳴海 篤志 宮崎 良尚 平城 文恵 朝月真由美
	看護実践演習	野中 智恵 中島由美子 大野 美穂	杉安 久美 石原 尚美	大道 真理 石原 尚美	大道 真理 石原 尚美		



# 講師一覧

(平成29年度入学生～令和3年度入学生)

学 科 目		平成29年度入学	平成30年度入学	令和元年度入学	令和2年度入学	令和3年度入学	
		28回生	29回生	30回生	31回生	32回生	
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	大杉 至 神崎 英紀	大杉 至 神崎 英紀	大杉 至 神崎 英紀	大杉 至 神崎 英紀	大杉 至 神崎 英紀
		教育学	山崎 清男	山崎 清男	山崎 清男	山崎 清男	山崎 清男
		情報科学	品川 佳満	品川 佳満	品川 佳満	品川 佳満	品川 佳満
		情報科学演習	品川 佳満 渡邊 寿子	品川 佳満	品川 佳満	品川 佳満	品川 佳満
	看護物理学	小林 正	小林 正	小林 正	小林 正	小林 正	
	人間と生活・社会の理解	社会学	大杉 至	大杉 至	大杉 至	大杉 至	大杉 至
		心理学	川瀬 泰治	川瀬 泰治	川瀬 泰治	川瀬 泰治	川瀬 泰治
		人間関係論Ⅰ	長谷川美枝子 吉山 尚裕	長谷川美枝子 吉山 尚裕	長谷川美枝子 吉山 尚裕	長谷川美枝子 吉山 尚裕	長谷川美枝子 吉山 尚裕
		人間関係論Ⅱ	長谷川美枝子	長谷川美枝子	長谷川美枝子	長谷川美枝子	長谷川美枝子
		英会話	オカナ・トマス	オカナ・トマス	オカナ・トマス	オカナ・トマス	オカナ・トマス
英語講読		稲用 茂夫	オカナ・トマス	オカナ・トマス	オカナ・トマス	オカナ・トマス	
専門基礎分野	人体の構造と機能	体育理論	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明
		体育実技	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明	洲 雅明
		解剖生理学Ⅰ	中島 民治	中島 民治	中島 民治	中島 民治	中島 民治
		解剖生理学Ⅱ	中島 民治	中島 民治	中島 民治	中島 民治	中島 民治
		生化学	藤岡 竜太	藤岡 竜太	藤岡 竜太	藤岡 竜太	藤岡 竜太
	疾病の成り立ちと回復の促進	栄養学	桑原 淳子 安藤 翔治	桑原 淳子 安藤 翔治	桑原 淳子 安藤 翔治	春田 典子 安藤 翔治	春田 典子 安藤 翔治
		微生物学	久保 徳彦 西尾 末広 児玉真由子	伊波 英克 松本 昂	伊波 英克 松本 昂	松本 昂	松本 昂
		病理学(病理学総論)	草場 敬浩 小山 雄三	草場 敬浩 小山 雄三	草場 敬浩 小山 雄三	中國 裕一	中國 裕一
		疾病論Ⅰ (呼吸・循環器)	上野 拓也 福山 誠一 藤本 書生 竹林 聡 久米 正純	上野 拓也 福山 誠一 藤本 書生 竹林 聡 久米 正純	上野 拓也 福山 誠一 藤本 書生 竹林 聡 久米 正純	上野 拓也 福山 誠一 藤本 書生 竹林 聡 久米 正純	上野 拓也 福山 誠一 藤本 書生 竹林 聡 久米 正純
		疾病論Ⅱ (消化器・内分泌代謝)	柚田 真一 鶴田 悟 松本 敏文 藤尾 信昭	柚田 真一 鶴田 悟 松本 敏文 藤尾 信昭	柚田 真一 鶴田 悟 松本 敏文 藤尾 信昭	柚田 真一 鶴田 悟 松本 敏文 藤尾 信昭	柚田 真一 鶴田 悟 松本 敏文 藤尾 信昭
疾病論Ⅲ (脳神経・運動器)	後藤 勝政 永井 康之 井上 和久	後藤 勝政 中村慶一郎 石川 知子 島崎 里穂 永井 康之 井上 和久	後藤 勝政 中村慶一郎 石川 知子 島崎 里穂 永井 康之 清水 大樹	後藤 勝政 中村慶一郎 石川 知子 渡部 優子 松田 剛 市ヶ谷 憲	後藤 勝政 中村慶一郎 片山 徹 松田 剛 杉 修造		
疾病論Ⅳ (腎泌尿器・血液造血器・乳腺・感染症)	菊池 秀年 田崎 義久 菊池 博 武内 秀也 矢野篤次郎	菊池 秀年 田崎 義久 菊池 博 田中 仁寛	菊池 秀年 田崎 義久 菊池 博 田中 仁寛	菊池 秀年 田崎 義久 菊池 博 田中 仁寛	菊池 秀年 井上 亨 緒方 優子 田中 仁寛 矢野篤次郎		

学 科 目		平成29年度入学	平成30年度入学	令和元年度入学	令和2年度入学	令和3年度入学
		28回生	29回生	30回生	31回生	32回生
専 門 基 礎 分 野	疾病論Ⅴ (女性生殖器・アレルギー・ 膠原病・感覚器)	中山 裕晶	廣谷賢一郎	勝間慎一郎	大塚雄一郎	田中 大貴
		末永 康夫	末永 康夫	末永 康夫	末永 康夫	木村 大作
		清崎 邦洋	清崎 邦洋	清崎 邦洋	清崎 邦洋	鳥越 雅隆
		森山 正臣	森山 正臣	森山 正臣	安部 伸幸	清崎 邦洋
		甲斐 宜貴	甲斐 宜貴	甲斐 宜貴	甲斐 宜貴	安部 伸幸
		小野敬一郎	小野敬一郎	小野敬一郎	川村 和弘	甲斐 宜貴
						小野敬一郎
	薬理学Ⅰ	宮田 拓周	川井田知広	川井田知広	宮下 裕央	押川 濡香 薬師寺 並
	薬理学Ⅱ	宮田 拓周	川井田知広	川井田知広	宮下 裕央	押川 濡香 薬師寺 並
	治療論	久米 正純	久米 正純	久米 正純	久米 正純	久米 正純
	田尻 裕匡	田尻 裕匡	田尻 裕匡	田尻 裕匡	甲斐誠一郎	
	大石 一成	大石 一成	大石 一成	大石 一成	大石 一成	
	井上 昭宏	井上 昭宏	松浦 秀司	松浦 秀司	松浦 秀司	
	大塚 誠	大塚 誠	山口 俊博	山口 俊博	山口 俊博	
	矢野篤次郎	矢野篤次郎	矢野篤次郎	矢野篤次郎	矢野篤次郎	
	末永 康夫	佐藤 陽昨	佐藤 陽昨	佐藤 陽昨	佐藤 陽昨	
	河野 康之	河野 康之	河野 康之	河野 康之	西崎 武文	
	中川 恵嗣	中川 恵嗣	中川 恵嗣	山重 佳	山重 佳	
健康支援と社会保障制度	保健医療論	酒井 浩徳	酒井 浩徳	矢野篤次郎	矢野篤次郎	矢野篤次郎
	社会福祉	武宮伸二郎	井上 祥明	井上 祥明	井上 祥明	井上 祥明
	関係法規	辻林 淳一 扇 玲子	辻林 淳一 扇 玲子	辻林 淳一 渡邊 真弓	坂本 昌則 渡邊 真弓	坂本 昌則 村上 由紀
	公衆衛生学	田吹 好美	田吹 好美	田吹 好美	田吹 好美	田吹 好美
専 門 分 野 Ⅰ	看護学概論	扇 玲子	扇 玲子	扇 玲子	本松美和子	本松美和子
		工藤 英美				
		平城 文恵				
	安全を守るための技術	石原 尚美 杉安 久美	大西 洋世	杉安 久美	杉安 久美	山元 清子
	対象把握のための技術	江下 栄子 田長丸美和	大西 洋世 田長丸美和	田長丸美和 杉安 久美	田長丸美和 杉安 久美	大道 真理 中島由美子
	看護を展開するための技術	上田加寿子 田長丸美和	江下 栄子 野中 智恵	上田加寿子	平川 真紀	平川 真紀
	日常生活援助技術Ⅰ	杉安 久美 野中 智恵	上野 敏幸 江下 栄子	上野 敏幸 野中 智恵	大西 洋世 田尻 朝恵	大西 洋世 田尻 朝恵
	日常生活援助技術Ⅱ	山元 清子 田中紀代美 中島由美子	山元 清子 上野 敏幸 三浦 由美	山元 清子 上野 敏幸 三浦 由美	田尻 朝恵 山元 清子	田尻 朝恵 田長丸美和 中釜 昌代
	診療時援助技術	上田加寿子 江下 栄子 田中紀代美	上野 敏幸 池ヶ谷知美 大西 洋世	上野 敏幸 野中 智恵 大西 洋世	高木 雅弘 野中 智恵	田長丸美和 高木 雅弘 平川 真紀
	臨床看護総論	三浦 由美 上野 敏幸 田中紀代美 岩熊 秀樹 木本 理美 吉永 幸永	三浦 由美 山元 清子 岩熊 秀樹 木本 理美 吉永 幸永	平川 真紀 大道 真理 山元 清子 岩熊 秀樹 木本 理美 吉永 幸永	池ヶ谷知美 平川 真紀 岩熊 秀樹 木本 理美 吉永 幸永	野中 智恵 大道 真理 岩熊 秀樹 木本 理美 高野由香里
看護研究	石原 尚美	石原 尚美	首藤真奈美	野中 智恵	村上 由紀	

学 科 目		平成29年度入学	平成30年度入学	令和元年度入学	令和2年度入学	令和3年度入学
		28回生	29回生	30回生	31回生	32回生
成人看護学	成人看護学概論	朝月真由美	朝月真由美	渡邊 真弓	渡邊 真弓	渡邊 真弓
	成人看護方法論I	大道 真理 吉田 嘉子 佐藤菜由子 添本 麻羽 庄 愛美 甲斐 奈月	大道 真理 大矢 健介 佐藤菜由子 小川 愛里 庄 愛美 甲斐 奈月	大道 真理 大矢 健介 佐藤菜由子 小川 愛里 奥村 美里 甲斐 奈月	大道 真理 大矢 健介 伊藤 温子 山内 勇太 田畑ゆかり 甲斐 奈月	大道 真理 大矢 健介 伊藤 温子 三ツ俣巧貴 理ノ江知佳 大山 泰幸
	成人看護方法論II	大道 真理 田村 委子 三浦 理恵 峯 彩香 佐藤 綾香	田長丸美和 田村 委子 甲斐笑美子 峯 彩香 板井 省吾	田長丸美和 田村 委子 甲斐笑美子 峯 彩香 板井 省吾	田尻 朝恵 田村 委子 松原 恵 峯 彩香 板井 省吾	田尻 朝恵 田村 委子 前川慎之介 安達都香咲 板井 省吾
	成人看護方法論III	田中紀代美 笠置 仁美 笠置 治恵 岡部あゆみ 佐藤 志保 山下 久美 津下 智子	杉安 久美 佐藤明日香 河野 涼 中野 遊 佐藤 志保 山下 久美 津下 智子	杉安 久美 岡本詩寿子 河野 涼 中野 遊 佐藤 志保 野尻 采香 津下 智子	大道 真理 土居 由紀 内藤香奈子 湯田 彩織 石本 誌織 津下 智子	大道 真理 杉安 久美 土居 由紀 衛藤 可奈 松丸 陽子 石本 誌織 津下 智子
	成人看護方法論IV	高野由香里 田中紀代美 神矢 恵美 村田 光代	高野由香里 江上 雅代 神矢 恵美 大道 真理	高野由香里 江上 雅代 吉村 幸永 服部 直哉 杉安 久美	高野由香里 江上 雅代 吉村 幸永 池ヶ谷知美	江上 雅代 津下 智子 杉安 久美
	成人看護方法論V	岡本詩寿子 森口 奏相	岡本詩寿子 森口 奏相	岡本詩寿子 森口 奏相	大道 真理 森口 奏相	田尻 朝恵 森口 奏相
老年看護学	老年看護学概論	武宮 律子 三浦 由美	武宮 律子 三浦 由美	池ヶ谷知美	池ヶ谷知美	田長丸美和
	老年看護方法論I	上田加寿子 山本 幸子 幸 邦子 雨宮 洋子	上田加寿子 山本 幸子 幸 邦子 雨宮 洋子	池ヶ谷知美 山本 幸子 幸 邦子 雨宮 洋子	池ヶ谷知美 山本 幸子 幸 邦子 雨宮 洋子	田尻 朝恵 山本 幸子 幸 邦子 雨宮 洋子
	老年看護方法論II	田長丸美和 笠置 治恵 立石可那子 安部佐和美 筑後 理沙 原 利宝 三浦 由美	田長丸美和 中野 遊 秋好 美希 安部佐和美 泉 雄大 原 利宝 池ヶ谷知美	田長丸美和 中野 遊 秋好 美希 安部佐和美 泉 雄大 福本 渚 池ヶ谷知美	山田 祐子 中村 香那 秋好 美希 安部佐和美 泉 雄大 福本 渚	大西 洋世 中村 香那 秋好 美希 安部佐和美 泉 雄大 福本 渚
	老年看護方法論III	田長丸美和 川野 望美	田長丸美和 塚本 歩美	田長丸美和 脇坂 千晶	田長丸美和 脇坂 千晶	大西 洋世 脇坂 千晶
小児看護学	小児看護学概論	甲斐有美子	甲斐有美子	甲斐有美子	甲斐有美子	甲斐有美子
	小児看護方法論I	古賀 寛史 後藤 勝政 管谷 愛美 宮崎 恵子 播磨 佑介	古賀 寛史 後藤 勝政 管谷 愛美 宮崎 恵子 播磨 佑介	古賀 寛史 後藤 勝政 管谷 愛美 宮崎 恵子 播磨 佑介	古賀 寛史 後藤 勝政 管谷 愛美 宮崎 恵子 築山恵里奈	古賀 寛史 後藤 勝政 管谷 愛美 須賀 美佳 羽田明日子
	小児看護方法論II	山元 清子	山元 清子	山元 清子	山元 清子	甲斐有美子

学 科 目		29年度入学	30年度入学	令和元年度入学	令和2年度入学	令和3年度入学	
		28回生	29回生	30回生	31回生	32回生	
専 門 分 野 II	小児看護学	小児看護方法論演習	矢野 貴子 平下 理香 管谷 愛美	平山 遥 平下 理香 管谷 愛美	平山 遥 平下 理香 管谷 愛美	佐藤 綾香 平下 理香 管谷 愛美	佐藤 綾香 平下 理香 管谷 愛美
		母性看護学概論	野中 智恵	野中 智恵	野中 智恵	平川 真紀	平川 真紀
	母性看護学	母性看護方法論I	中村友里恵 ウロブレスキ順子 古賀 寛史 楠本有佳子 岡部 裕美	勝間慎一郎 古賀 寛史 楠本有佳子 岡部 裕美	中村 恭子 古賀 寛史 楠本有佳子 岡部 裕美 加藤 元美	広瀬奈津子 古賀 寛史 楠本有佳子 岡部 裕美 加藤 元美	内田今日香 野中 智恵 楠本有佳子 岡部 裕美 加藤 元美
		母性看護方法論II	穴見 愛 桑原 正裕 宮崎 恵子 安藤 聡美	廣谷賢一郎 宮崎 恵子 安藤 聡美	新貝 妙子 宮崎 恵子 安藤 聡美	大神 靖也 宮崎 恵子 安藤 聡美	田口 祐樹 大神 靖也 宮崎 恵子 安藤 聡美
		母性看護方法論演習	野中 智恵 高杢 裕子	野中 智恵 高杢 裕子	野中 智恵 高杢 裕子	野中 智恵 山元 清子	野中 智恵 宮崎 恵子 古賀 寛史
	精神看護学	精神看護学概論	中島由美子 児玉 健介 河野健太郎 江下 栄子	中島由美子 児玉 健介 二宮 大雅	中島由美子 児玉 健介 二宮 大雅	中島由美子 児玉 健介 二宮 大雅	中島由美子 児玉 健介 二宮 大雅
		精神看護方法論I	児玉 健介 二宮 大雅 泉 寿彦 生田早恵子 竜田あすみ	児玉 健介 二宮 大雅 泉 寿彦 牧野 麻友 吉田紗奈江	児玉 健介 二宮 大雅 衛藤 真樹 牧野 麻友 吉田紗奈江	児玉 健介 二宮 大雅 衛藤 真樹 牧野 麻友 吉田紗奈江	児玉 健介 二宮 大雅 渡辺 洋平 牧野 麻友 吉田紗奈江
		精神看護方法論II	今山 秀雄 藤田 将之 中島由美子	今山 秀雄 小城 智美 中島由美子	今山 秀雄 石井 俊介 中島由美子	今山 秀雄 石井 俊介 中島由美子	立石 理恵 石井 俊介 中島由美子
		精神看護方法論III	中島由美子	中島由美子	中島由美子	中島由美子	山田 祐子
		在宅看護学	在宅看護概論	山崎 智子	山崎 智子	山崎 智子	山崎 智子
	在宅看護学	在宅看護方法論演習I	田上 香里 北條真理江 江藤 直子 上田加寿子 三浦 由美	田上 香里 北條真理江 松井 友美 内田 優子 三浦 由美	田上 香里 北條真理江 松井 友美 内田 優子 大西 洋世	田上 香里 井野 美香 松井 友美 内田 優子 中釜 昌代	田上 香里 井野 美香 松井 友美 内田 優子 中釜 昌代
		在宅看護方法論演習II	大西 洋世 藤尾 哲子	大西 洋世 帆足 哲子	大西 洋世 帆足 哲子	大西 洋世 小野 朱美	大西 洋世 小野 朱美 本松美和子
		看護マネジメント	山下 智美 渡邊 真弓	岡 ルミ 首藤真奈美	岡 ルミ 中釜 昌代	江口 珠美 中釜 昌代	江口 珠美 渡邊 真弓
	統合分野	看護の統合と実践	医療安全と看護	工藤 英美 鳴海 篤志 宮崎 良尚 平城 文恵 朝月真由美	小泉 尚子 鳴海 篤志 宮崎 良尚 平城 文恵 渡邊 真弓 安部 初美	小泉 尚子 鳴海 篤志 大矢 健介 宮崎 良尚 渡邊 真弓 首藤真奈美 蒲地 志穂	小泉 尚子 宮崎 良尚 原田千恵子 杉安 久美 蒲地 志穂
			看護実践演習	大道 真理 石原 尚美	大道 真理 渡邊 真弓	山田 祐子 中釜 昌代	山田 祐子 中釜 昌代

# 講師一覧

(令和4年度入学生)

学 科 目		令和4年度入学	
		33回生	
基礎分野	科学的思考の基礎	論理学	大杉 至 神崎 英紀
		教育学	山崎 清男
		情報科学	品川 佳満
		情報基礎演習	品川 佳満
		ICT活用演習	品川 佳満
	人間と生活・社会の理解	看護物理学	小林 正
		社会学	大杉 至
		心理学	川瀬 泰治
		人間関係論Ⅰ	長谷川美枝子 吉山 尚裕
		人間関係論Ⅱ	長谷川美枝子
		医療英語Ⅰ	オカナ・トマス
		医療英語Ⅱ	オカナ・トマス
		体育理論	洲 雅明
		体育実技	洲 雅明
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学	中島 民治
		生理学	中島 民治
		生化学	藤岡 竜太
		栄養学	春田 典子 本荘 真一
		微生物学	松本 昂
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学(病理学総論)	中園 裕一
		疾病論Ⅰ (呼吸・循環器)	上野 拓也 福山 誠一 藤本 書生 竹林 聡 久米 正純
		疾病論Ⅱ (消化器・内分泌代謝)	柚田 真一 鶴田 悟 甲斐誠一郎 深田 陽子
		疾病論Ⅲ (脳神経・運動器)	後藤 勝政 中村慶一郎 片山 徹 武田 裕 杉 修造
		疾病論Ⅳ (腎泌尿器・生殖器系・感染症)	菊池 秀年 甲斐 友喜 東元 孔志 田中愛理佳 田中 仁寛 矢野篤次郎
		疾病論Ⅴ (血液造血器・アレルギー・ 膠原病・感覚器)	緒方 優子 木村 大作 鳥越 雅隆

学 科 目		令和4年度入学	
		33回生	
基礎看護学	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病論Ⅴ (血液造血器・アレルギー・ 膠原病・感覚器)	清崎 邦洋 安部 伸幸 甲斐 宜貴 小野敬一郎
		薬理学	佐藤 朋佳
		看護薬理	渡邊 真弓
		治療論	久米 正純 甲斐誠一郎 大石 一成 古屋 暁生 山口 俊博 矢野篤次郎 佐藤 陽昨 西崎 武文 大野 実
		保健医療論	矢野篤次郎
	健康支援と社会保障制度	社会福祉	井上 祥明
		関係法規	岡村 武記 村上 由紀
		公衆衛生学	田吹 好美
		看護学概論	本松美和子
		基礎看護技術Ⅰ	杉安 久美 寺川 孝枝
		基礎看護技術Ⅱ	大道 真理 中釜 昌代
		基礎看護技術Ⅲ	平川 真紀
		日常生活援助技術Ⅰ	田尻 朝恵 寺川 孝枝
		日常生活援助技術Ⅱ	田長丸美和 寺川 孝枝
専門分野	基礎看護学	診療時援助技術Ⅰ	渡邊 真弓 寺川 孝枝
		診療時援助技術Ⅱ	大道 真理 野中 智恵 川崎 徹也
		臨床看護総論Ⅰ	渡邊 真弓
		臨床看護総論Ⅱ	野中 智恵 高野由香里 熊崎 明里
		看護研究の基礎	村上 由紀
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	大西 洋世
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	平川 真紀 山本 幸子 松井 友美 内田 優子
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	高木 雅弘



学 科 目		令和4年度入学
		33回生
地域・在宅看護論	地域・在宅看護方法論Ⅲ	松井 友美 内田 優子
	地域・在宅看護方法論Ⅳ	田上 香里 高木 雅弘
	地域・在宅看護方法論Ⅴ	本松美和子
成人看護学	成人看護学概論	渡邊 真弓
	成人看護方法論Ⅰ	渡邊 真弓 前川慎之介 安部佐和美 須川都香咲 板井 省吾
	成人看護方法論Ⅱ	大道 真理 田浦聖土朗 大山 泰幸 大矢 健介 吉田 嘉子
	成人看護方法論Ⅲ	大道 真理 渡邊 真弓 寺川 孝枝 宇都宮美菜子 松丸 陽子
	成人看護方法論Ⅳ	江上 雅代 後藤 舞美 杉安 久美
	成人看護方法論Ⅴ	大道 真理
	老年看護学概論	高木 雅弘
	老年看護方法論Ⅰ	田尻 朝恵 幸 邦子
	老年看護方法論Ⅱ	野中 智恵 山田 祐子 三ツ股巧貴 大道 真理 森 優奈 泉 雄大 雨宮 洋子 中村 香那
老年看護方法論Ⅲ	田尻 朝恵	
小児看護学	小児看護学概論	甲斐有美子
	小児看護方法論Ⅰ	古賀 寛史 後藤 勝政 長田 彩加 平下 理香 須賀 美佳 羽田明日子
	小児看護方法論Ⅱ	管谷 愛美 野中 智恵

学 科 目		令和4年度入学
		33回生
母性看護学	小児看護方法論Ⅲ	甲斐有美子
	母性看護学概論	平川 真紀
	母性看護方法論Ⅰ	平川 真紀 田口 祐樹 中島 寛康 森保 美幸 岡部 裕美 蒼 綾乃 宋 威廷 加藤 元美
	母性看護方法論Ⅱ	宇江城亜希子 野中 智恵 古賀 寛史 宮崎 恵子
	母性看護方法論Ⅲ	平川 真紀
	精神看護学概論	中島由美子 山田 祐子
	精神看護方法論Ⅰ	児玉 健介 二宮 大雅 渡辺 洋平 松山 寿幸 平井 和明
	精神看護方法論Ⅱ	吉田紗奈江 立石 理恵 中島由美子
	精神看護方法論Ⅲ	山田 祐子
	安全管理の基礎	蒲地 志穂 村上 由紀
看護マネジメント	看護組織管理	辻丸祐規子 佐藤 恭子 今村 繭子 渡邊 真弓 小泉 尚子 宮崎 良尚 原田千恵子
	看護の統合演習	山田 祐子
	看護倫理	平川 真紀

## 学生の動向 1) 応募・入学状況

(単位：人)

回 生 入学年度	応 募		一般入試 競争率	定 員	入 学	充足率%	退学除籍	卒 業
							(当該回生)	
1 平成 2 年度	別 府	297	7.4	40	39	97.5	0	89
	西別府	277	5.5	50	50	100.0		
2 平成 3 年度	別 府	136	3.4	40	42	105.0	0	92
	西別府	215	4.3	50	50	100.0		
3 平成 4 年度	321		3.1	100	103	103.0	1	102
4 平成 5 年度	326		3.3	100	100	100.0	1	99
5 平成 6 年度	378		3.8	100	100	100.0	0	100
6 平成 7 年度	395		3.9	100	101	101.0	0	101
7 平成 8 年度	548		5.5	100	100	100.0	3	97
8 平成 9 年度	338		3.4	100	100	100.0	6	94
9 平成 10 年度	408		4.1	100	100	100.0	4	96
10 平成 11 年度	279		3.8	100	73	73.0	4	69

回 生 入学年度	応 募			一般入試 競争率	定 員	入 学	充足率%	退 学	卒 業
	総 数	試験別						(当該回生)	
11 平成 12 年度		477	一 般	412	5.9	100	99	99.0	10
	推 薦		35						
	社会人		30						
12 平成 13 年度	489	一 般	433	7.5	100	84	84.0	6	78
		推 薦	33						
		社会人	23						
13 平成 14 年度	470	一 般	416	6.6	100	89	89.0	7	82
		推 薦	34						
		社会人	20						
14 平成 15 年度	459	一 般	405	6.6	100	88	88.0	6	82
		推 薦	32						
		社会人	22						
15 平成 16 年度	423	一 般	359	5.4	100	82	82.0	5	77
		推 薦	27						
		社会人	37						
16 平成 17 年度	312	一 般	272	5.1	80	80	100.0	5	75
		推 薦	19						
		社会人	21						
17 平成 18 年度	227	一 般	181	2.9	80	80	100.0	4	77
		推 薦	17						
		社会人	29						

回 生 入学年度	応 募			一般入試 競争率	定 員	入 学	充足率%	退 学	卒 業
	総 数	試 験 別							
(当該回生)									
18 平成 19 年度	256	一 般	226	3.5	80	89	111.3	7	82
		推 薦	17						
		社会人	13						
19 平成 20 年度	292	一 般	263	4.4	80	80	100.0	1	79
		推 薦	19						
		社会人	10						
20 平成 21 年度	244	一 般	216	3.5	80	79	98.8	3	75
		推 薦	17						
		社会人	11						
21 平成 22 年度	289	一 般	244	4.5	80	90	112.5	4	86
		推 薦	22						
		社会人	23						
22 平成 23 年度	311	一 般	273	5	80	80	100.0	7	73
		推 薦	24						
		社会人	14						
23 平成 24 年度	253	一 般	226	3.8	80	79	98.8	4	75
		推 薦	19						
		社会人	8						
24 平成 25 年度	288	一 般	244	4.4	80	83	103.8	4	78
		推 薦	21						
		社会人	23						
25 平成 26 年度	249	一 般	213	3.9	80	95	118.8	4	91
		推 薦	22						
		社会人	14						
26 平成 27 年度	226	一 般	197	3.4	80	75	93.8	14	61
		推 薦	22						
		社会人	7						
27 平成 28 年度	217	一 般	184	3.3	80	86	107.5	6	80
		推 薦	22						
		社会人	11						
28 平成 29 年度	204	一 般	180	5.5	80	80	100.0	4	76
		推 薦	21						
		社会人	3						
29 平成 30 年度	173	一 般	145	2.5	80	77	96.3	3	74
		推 薦	22						
		社会人	6						
30 平成 31 年度	187	一 般	163	2.8	80	84	105.0	4	80
		推 薦	20						
		社会人	4						
31 令和 2 年度	164	一 般	140	2.5	80	98	122.5	1	97
		推 薦	20						
		社会人	4						
32 令和 3 年度	177	一 般	149	2.7	80	65	81.3	2	63
		推 薦	25						
		社会人	3						
33 令和 4 年度	145	一 般	115	2.1	80	58	72.5	0 予定	58 予定
		推 薦	24						
		社会人	6						

## 学生の動向 2) 卒業生就職・進学状況

卒業年度		平成 4 年度	平成 5 年度	平成 6 年度	平成 7 年度	平成 8 年度	平成 9 年度	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	
就 職	国立病院機構	自施設	12	23	14	3	14	9	7	3	5	6	12	16	19
		他施設	5	6	12	17	10	9	11	8	5	3	14	13	25
	国立ハンセン病療養所		6	4	2	0	3	9	10	6	14	8	10	4	0
	ナショナルセンター		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	官公立(公的)病院		30	42	50	39	30	29	14	15	22	25	25	23	9
	法人・その他病院		21	8	15	28	30	24	31	49	32	15	14	7	19
	看護職以外の職種		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計		75	83	93	87	87	80	73	81	78	57	75	63	73
	進 学	保健師学校		2	1	4	5	7	6	10	4	5	4	11	2
助産師学校		6	6	3	3	4	1	8	2	1	4	0	4	3	
保助合同コース		2	0	1	1	0	3	1	1	0	0	0	2	0	
養護教諭		2	2	0	1	0	2	1	1	0	2	0	1	0	
大 学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
そ の 他		1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
小計		13	10	8	10	11	12	21	8	6	10	11	9	8	
そ の 他	就職しない	国家試験不合格	下記 未定者数に含む										0	0	
		その他の事由											2	2	
	未 定		0	0	0	3	2	9	0	1	14	5	0	0	0
卒業者数		89	93	101	100	100	101	94	90	98	74	87	72	83	
卒業延期		0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	
留 年		1	0	0	0	0	0	4	2	4	0	0	0	2	
学 生 数 計		89	93	101	100	100	101	98	94	102	74	87	72	85	

(単位：人)

平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
19	21	19	28	37	19	27	34	26	28	30	20	8	20	27	24	20	32	25	26
25	30	25	29	22	47	38	44	29	34	31	49	30	32	29	36	28	34	19	25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	0	3	2	1	1	1	2	2	0	0	2	1	2	0	0	1	0	0
14	4	9	0	2	0	0	0	4	2	3	14	4	15	9	8	18	11	9	2
8	9	12	4	0	3	2	2	1	1	3	7	5	3	4	4	9	11	3	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
67	65	65	64	63	70	68	81	62	68	67	90	52	71	71	72	75	89	56	54
6	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	2	1	1	0	0	0	1
4	3	2	4	6	2	1	2	2	2	2	2	4	2	5	1	1	3	2	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1
6	7	9	6	7	5	5	2	3	1	3	5	4	1	2	0	3	1	1	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	10	12	10	14	10	7	4	7	6	5	7	9	5	8	2	4	5	3	4
1	0	0	2	1	0	0	0	2	0	2	6	0	2	1	0	0	2	4	
1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	
0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
86	75	78	76	78	81	76	85	69	74	74	103	61	79	80	74	80	98	63	58
0	0	1	0	0	1	2	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
2	5	1	4	5	3	2	1	0	0	6	7	5	5	1	0	0	0	0	0
88	80	80	80	83	85	80	86	69	75	82	111	66	84	81	74	80	98	63	58

(予定)



### 学生の動向 3) 国家試験合格状況

卒業年度	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
平成4年度	88	88	100.0
平成5年度	93	93	100.0
平成6年度	101	99	98.0
平成7年度	102	99	97.1
平成8年度	103	100	97.1
平成9年度	104	94	90.4
平成10年度	104	104	100.0
平成11年度	90	90	100.0
平成12年度	98	82	83.7
平成13年度	89	82	92.1
平成14年度	87	86	98.9
平成15年度	72	72	100.0
平成16年度	83	83	100.0
平成17年度	86	85	98.8
平成18年度	75	75	100.0
平成19年度	77	77	100.0
平成20年度	76	74	97.4

卒業年度	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
平成21年度	78	77	98.7
平成22年度	80	80	100.0
平成23年度	76	76	100.0
平成24年度	85	85	100.0
平成25年度	69	69	100.0
平成26年度	74	74	100.0
平成27年度	74	72	97.3
平成28年度	103	97	94.2
平成29年度	61	60	98.4
平成30年度	79	77	97.5
令和元年度	80	79	98.8
令和2年度	74	74	100.0
令和3年度	80	80	100.0
令和4年度	98	96	98.0
令和5年度	63	59	93.7
令和6年度	58 (見込み)		

## 実習施設の状況

平成4(1992)年度～平成8(1996)年度

科目名		施設名
基礎看護	病院	国立別府病院
		国立療養所西別府病院
成人看護	病院	国立別府病院
		国立療養所西別府病院
老人看護	病院	国立別府病院
		国立療養所西別府病院
小児看護	病院	国立別府病院
		国立療養所西別府病院
	保育所	国立別府病院 杉の子保育所
母性看護	病院	国立別府病院
		国立大分病院
成人看護 (継続看護)	保健所	中央保健所
		中央保健所 日出支所
		大分保健所
		白杵保健所

平成9(1997)年度～平成20(2008)年度

科目名		施設名	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度		
基礎看護学実習	病院	国立別府病院(H16～国立病院機構別府医療センター)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		国立療養所西別府病院(H16～国立病院機構西別府病院)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
成人看護学実習	病院	国立別府病院(H16～国立病院機構別府医療センター)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		国立療養所西別府病院(H16～国立病院機構西別府病院)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
老年看護学実習	病院	国立別府病院(H16～国立病院機構別府医療センター)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		国立療養所西別府病院(H16～国立病院機構西別府病院)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	老健・グループホーム	シェモア鶴見								○	○	○	○	○	○	
		いでゆの園								○	○					
		サンヘルスピーア一燈園								○	○	○	○	○	○	
		メディケア別府								○	○	○	○	○	○	
		グループホーム愛・愛								○	○	○	○	○	○	
		新別府一燈園								○	○	○	○	○	○	
		グループホーム望み								○	○	○	○	○	○	
		はびね別府								○	○	○	○	○	○	
リベラ・ホーム別府								○	○	○	○	○	○			
小児看護学実習	病院	国立別府病院(H16～国立病院機構別府医療センター)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		国立療養所西別府病院(H16～国立病院機構西別府病院)	○	○	○	○	○	○	○							
	保育所	国立別府病院(H16～国立病院機構別府医療センター)杉の子保育所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
母性看護学実習	病院	国立別府病院(H16～国立病院機構別府医療センター)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		国立大分病院(H16～国立病院機構大分医療センター)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
精神看護学実習	病院	国立別府病院(H16～国立病院機構別府医療センター)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
在宅看護論実習	保健所	大分県中央保健所(H17～大分県別府県民保健福祉センターH20～大分県東部保健所)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		大分県白杵保健所(H20～大分県中部保健所)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		大分市保健所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		別府市市役所							○	○	○	○	○	○	○	
		日出町役場保健福祉センター(H20～日出町役場)							○	○	○	○	○	○	○	
		杵築市役所(山香庁舎)											○	○	○	
		訪問看護ステーション	天心堂訪問看護ステーション(H17～天心堂へつぎ訪問看護ステーション)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			一燈園訪問看護ステーション	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			別府市医師会訪問看護ステーション	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			やまなみ訪問看護ステーション	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	訪問看護ステーションひまわり		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		ひじ訪問看護ステーション	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		上人会上人病院老人訪問看護ステーション	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		さかいかわ訪問看護ステーション	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		ハーモニー大平山訪問看護ステーション								○	○	○	○	○	○	
訪問看護ステーションつるみ									○	○	○	○	○	○		

平成21(2009)年度～令和4(2022)年度

科目名		施設名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
基礎看護学実習	病院	国立病院機構別府医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		国立病院機構西別府病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		国立病院機構大分医療センター										○	○	○	○	○	○	
成人看護学実習	病院	国立病院機構別府医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		国立病院機構西別府病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○	○	
		国立病院機構大分医療センター										○	○	○	○	○	○	
老年看護学実習	病院	国立病院機構別府医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		国立病院機構西別府病院											○	○	○	○	○	
		国立病院機構大分医療センター											○	○	○			
	老健・グループホーム	シモア鶴見	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
		サンヘルスピーア一燈園	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	
		メディケア別府	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		いでゆの園	○	○	○	○			○									
		やまなみ苑							○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		介護療養型老人保健施設(介護医療院)むらはし							○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		グループホーム愛・愛	○	○	○	○	○											
		新別府一燈園	○	○	○	○	○	○	○			○	○					
		グループホーム 大学通り一燈園												○		○	○	
		グループホーム望み	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		はびね別府	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		リベラ・ホーム別府	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		リベラ・ホーム小倉														○	○	
		グループホーム大観苑	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		高齢者総合福祉施設鳴谷苑								○	○	○	○	○	○			
		住宅型有料老人ホームきずな								○	○	○	○	○	○	○	○	○
		グリーンケアやまが								○	○	○	○	○	○			
別府市老人クラブ連合会								○	○		○	○	○		○	○		
小児看護学実習	病院	国立病院機構別府医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	保育所	杉の子保育所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
母性看護学実習	病院	国立病院機構別府医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	子育て支援	別府市北部子育て支援センターどれみ														○	○	
		別府市西部子育て支援センターべるね														○	○	
	別府市南部子育て支援センターわらべ														○	○		
精神看護学実習	病院	国立病院機構別府医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	事業所	就労継続支援B型事業所 星座オリオン														○	○	
		就労継続支援B型事業所 鶴見														○	○	
	就労継続支援B型事業所 いちご														○	○		

科目名		施設名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
精神看護学実習	事業所	多機能型事業所 夢未来舎														○	○	
		就労継続支援B型事業所 絆・サポートセンター															○	○
		就労継続支援B型事業所 グリーンポケット															○	○
在宅看護論実習	保健所	大分県東部保健所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		大分県中部保健所	○	○	○	○	○		○	○	○							
		大分県北部保健所	○	○	○													
		大分市保健所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		別府市役所（別府市保健センター）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		日出町役場	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		杵築市役所（山香庁舎）（H27～杵築市健康推進館）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		国東市役所															○	○
		臼杵市役所															○	○
	訪問看護ステーション	天心堂へつぎ訪問看護ステーション																
		一燈園訪問看護ステーション	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		別府市医師会訪問看護ステーション	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		やまなみ訪問看護ステーション	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		訪問看護ステーションひまわり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ひじ訪問看護ステーション	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		上人会上人病院訪問看護ステーション(訪問看護ステーション上人)	○	○	○	○	○	○										
		さかいかわ訪問看護ステーション(H28～訪問看護ステーションたけい)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		訪問看護ステーションつるみ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
		訪問看護ステーションつかかわ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
		訪問看護ステーションむらはし	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		大分赤十字訪問看護ステーション	○						○									
		訪問看護ステーションおおいた		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		湯のまち訪問看護ステーション		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ハーモニー大平山訪問看護ステーション								○								
		かがやき訪問看護ステーション								○	○	○	○	○	○	○	○	○
		杵築市山香訪問看護ステーション								○	○	○	○	○	○	○		
		暁谷苑訪問看護ステーション								○	○	○	○	○	○	○	○	○
		おおつか訪問看護ステーション								○	○	○	○	○				
		国立病院機構大分医療センター 訪問看護ステーションあいしん															○	○
	訪問看護ステーションくろぎ																○	
	訪問看護ステーション結び2ed																○	
総合実習	病院	国立病院機構別府医療センター					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		国立病院機構西別府病院												○	○	○	○	



令和5(2023)年度～令和6(2024)年度

科目名		施設名	令和5年度	令和6年度
基礎看護学実習	病院	国立病院機構別府医療センター	○	
		国立病院機構西別府病院	○	
		国立病院機構大分医療センター	○	
成人看護学実習 (R5～成人老年看護学実習含む) (R6～成人老年看護学実習)	病院	国立病院機構別府医療センター	○	○
		国立病院機構西別府病院	○	○
		国立病院機構大分医療センター	○	○
地域・在宅看護論実習	老健・ グループホーム	シェモア鶴見	○	
		サンヘルスピーア一燈園	○	
		メディケア別府	○	
		やまなみ苑	○	
		介護医療院むらし	○	
		グループホーム 大学通り一燈園	○	
		グループホーム望み・あゆみ	○	
		はびね別府	○	
		リベラ・ホーム別府	○	
		リベラ・ホーム小倉	○	
		グループホーム大観苑	○	
住宅型有料老人ホームぎずな	○			
小児看護学実習	病院	国立病院機構別府医療センター	○	○
	保育所	杉の子保育所	○	○
母性看護学実習	病院	国立病院機構別府医療センター	○	○
	子育て支援	別府市北部子育て支援センターどれみ	○	○
		別府市西部子育て支援センターべるね	○	○
		別府市南部子育て支援センターわらべ	○	○
精神看護学実習	病院	国立病院機構別府医療センター	○	○
	事業所	就労継続支援B型事業所 星座オリオン	○	○
		就労継続支援B型事業所 鶴見	○	○
		就労継続支援B型事業所 いちご	○	○
		多機能型事業所 夢未来舎	○	○
		就労継続支援B型事業所 絆・サポートセンター	○	○
就労継続支援B型事業所 グリーンポケット	○	○		
在宅看護論実習	保健所	大分県東部保健所	○	○
		大分市保健所	○	○
		別府市役所（別府市保健センター）	○	○
		日出町役場	○	○
		杵築市役所（杵築市健康推進館）	○	○
		臼杵市役所	○	○

科目名		施設名	令和5年度	令和6年度
在宅看護論実習 (R6～地域・在宅看護論実習)	訪問看護 ステーション	一燈園訪問看護ステーション	○	○
		やまなみ訪問看護ステーション	○	○
		訪問看護ステーションひまわり	○	○
		訪問看護ステーションたけい	○	○
		訪問看護ステーションむらはし	○	○
		訪問看護ステーションおおいた	○	○
		湯のまち訪問看護ステーション	○	○
		かがやき訪問看護ステーション	○	○
		地域医療機能推進機構湯布院病院附属訪問看護ステーション	○	○
		国立病院機構大分医療センター 訪問看護ステーションあいしん	○	○
	包括支援センター	別府市青山・東山地域包括支援センター	○	○
		別府市中部地域包括支援センター	○	○
		別府市朝日地域包括支援センター		○
		別府市山の手地域包括支援センター	○	○
		別府市北部地域包括支援センター	○	○
		別府市浜脇地域包括支援センター		○
		別府市鶴見台地域包括支援センター	○	
		日出町地域包括支援センター	○	○
		杵築市地域包括支援センター	○	○
統合実習	病院	国立病院機構別府医療センター	○	○
		国立病院機構西別府病院	○	○

## 学習状況

### 入学式



3回生 入学式 兼 開校式 大分中央看護学校の開校式となりました。



19回生 入学式 入学生、家族、在校生、職員、来賓者で祝う入学式でした。



31回生 入学許可 コロナ禍は、入学式は開催できず、入学許可という形で学生のみでの入学式となりました。

### 看護の日



平成30年度  
全学年で、看護を語り合いました。

### オープンキャンパス



27回生  
高校生へ学校の魅力を説明しました。



## 学校祭



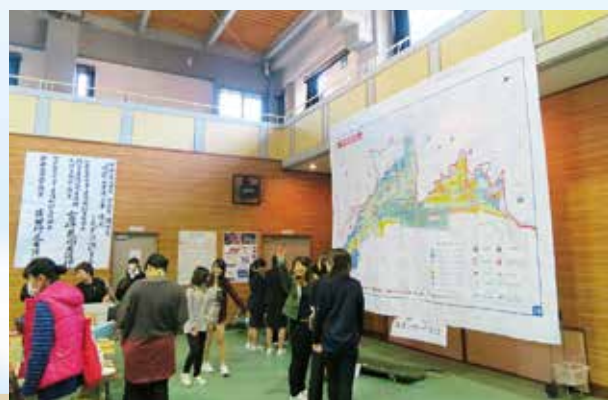
平成9年度  
腰にカーテンを巻いて熱唱しました。



平成14年度  
綱引きや玉入れ等も行いました。



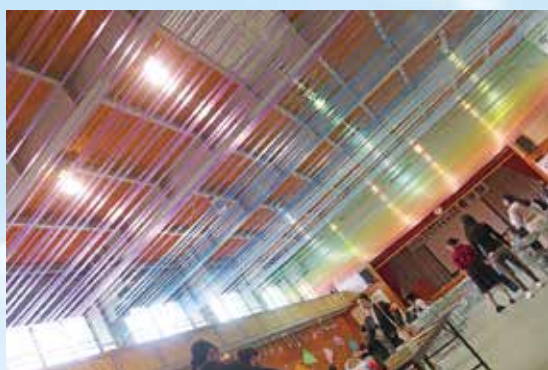
平成26年度  
「NEW STYLE!」～感謝の気持ちを夢にのせて～  
をテーマに学校祭を開催。



講演会テーマ「地震・大津波・火事・噴火」  
ハザードマップは、A3用紙を一枚ずつ貼り付けて、大きなマップを  
作り上げました。



平成27年度  
「Link」～人から人へつながる輪～  
をテーマに学校祭を開催  
学校祭の収益金(募金、バザー、模擬店  
の売り上げ)は、毎年、寄付をさせていた  
だいております。



令和元年度  
「虹」～その瞬間、輝く笑顔でかける橋～  
をテーマに学校祭を開催  
七色のカラフルなテープを使用し、虹を体育館全体に表現。





令和3年度  
「歩」～今あるミチとその先へ～

をテーマで高校生、職員のみを招待し学校祭を開催。  
「新型コロナウイルス感染症」という治療法や予防手段が確立されていない未知の病と戦っている状況の中でも、一人ひとりが歩み続けたいという思いを込めて「歩」に決定し開催。  
椅子の間隔の検討やマスク着用、感染予防行動を徹底し、1人の感染もなく終了することができました。



令和4年度  
「輝」～未来に向かって輝け～  
をテーマにコロナ禍で学校祭を開催。  
3学年全員が揃って行うことができる最後の学校祭。



令和5年度  
「煌」～一人ひとりの個性を發揮し明るい未来をきりひらこう～  
をテーマに学校祭を開催。  
感染予防行動を徹底しながら、地域や病院の方々をお呼びし、最後の学校祭を開催。



## 戴帽式



1回生  
大型校統合前  
一人一人にキャッピング



3回生  
戴帽式全体写真



4回生  
ナイチンゲールより、灯を戴く。



27回生 ナースキャップ廃止により、誓いの式へ。  
看護を目指すものとしての自覚や決意を新たに。



28回生  
誓いの式



講義風景



5回生 宿泊研修でバーベキュー



13回生 体育の風景



15回生  
旧視聴覚教室での講義風景1

(令和4年度に改装されました)



33回生  
新視聴覚教室での講義風景2





24回生  
船舶火災訓練へ参加  
学生は被災者役になりました。



26回生  
チャイルドビジョンを用いた講義



30回生  
宿泊研修 (ホテルソラージュ大分・日出)



32回生  
国立病院機構附属看護学校4校合同授業 (ICT活用)

技術演習・実習風景



2回生  
実習中、患者さんに足浴の援助をしています。



2009年頃、戴帽式前は白い帽子を着用しての演習でした。



10回生  
膀胱留置カテーテル挿入の演習中  
教員より実践指導



20回生 採血の演習中



33回生 滅菌手袋装着の演習中



## 自治会活動

### 夏のプレゼント



25回生 29回生

入院している患者さんにむけて、季節を感じていただくため手作りの花を持ち、夏の歌(きらきら星)を歌いました。

### キャンドルサービス



5回生 9回生

クリスマスシーズンには、「ジングルベル」と「サンタが街にやってくる」を、キャンドルを持ち歌いました。

### チッカマウガツリー点灯式



14回生

### クリスマスコンサート



28回生

別府医療センター 外来フロアでクリスマスコンサートに参加しました。



卒業式



21回生 卒業式



22回生

卒業生で手をつなぎ、後輩、家族、職員へ感謝をこめ贈る言葉を伝えた温かい式でした。



28回生 (令和元年度卒業生)

コロナ1年目は、卒業式は開催できず、学生のための卒業証書授与式となりました。



29回生 (令和2年度卒業生)

コロナ禍で感染予防行動を図りながら、学生、教員のみの卒業式を開催しました。



32回生 (令和5年度卒業生)

新型コロナウイルス感染症が5類となり、在校生、家族を含めた卒業式開催。



## 植樹式

4回生  
金木屋の植樹  
看護学校の中庭に卒業記念品として贈呈



23回生  
筑紫つつじの植樹 卒業記念品として贈呈  
精神科病棟新設に伴い、病院駐車場の花壇に植樹しました。



28回生  
桜(染井吉野)の植樹

✿ 別府医療センター、大分中央看護学校の周囲の桜は、卒業記念のものが多数あります。

## 熊本地震の際の激励



26回生 27回生  
熊本地震の際、別府にも影響があり、熊本以外の国立病院機構の学校より、学生一人一人に激励の言葉を書かれたカードをいただきました。国立病院機構間の連携の強さを改めて感じることができました。お礼の手紙をお送りしたときの感謝の写真です。

## 自治会会則

### 第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は、別府医療センター附属大分中央看護学校自治会(以下「本会」という)と称する。

(構 成)

第2条 本会は別府医療センター附属大分中央看護学校、学生全員をもって構成する。

(目 的)

第3条 本会は学校内に於いて学問の自由を守り、学生相互の親睦、資質の向上につとめ、学校内の正しい民主化を図ろうとするものである。

第4条 本会に次の機関を置く。

- 一 総会
- 二 自治会執行部会

第5条 総会は出席者と委任状提出者の合計人数が、自治会員の2/3以上を満たさなければならない。但し、決議事項は出席者の過半数の同意を得てこれを決定する。但し、規約改正については後に定める。

やむを得ず総会を欠席する場合は、委任状を作成し自治会長へ提出する。

第6条 本会員は、次の権利及び義務を有する。

- 一 会員は全ての機関に対し自由に討議、批判、質問する権利を有する。
- 二 会員は役員その他に対して選挙し、選挙される権利を有する。
- 三 会員は会則を守る権利、及び義務を有する。
- 四 会員は本会が会則により正当に運営されるように監視する権利及び義務を有する。
- 五 会員は自分の属する全ての会議に出席する権利及び義務を有する。

### 第2章 自治会総会

第7条 総会は本会の最高機関であって、全会員をもって構成し、第5条に従い成立する。定例総会は、年3回(5月・10月・2月)とする。

但し、次の場合、自治会長は臨時総会を開くことができる。

- 一 全会員の1/3以上の要求があった場合。
- 二 自治会執行部役員の過半数が必要と認められた場合。

第8条 総会は自治会長が召集し、その議長は会員の中より2名選出する。但し、議長は議決に加わらない。

第9条 総会は次のことを行う。

- 一 自治会基本方針の決定
- 二 自治会執行部役員承認及び解任
- 三 予算、決算の報告及び承認
- 四 規約改正
- 五 その他の事項の決定

第10条 自治会長は、総会の開催の日時、場所、及び主要議題を1週間前までに会員に公示しなければならない。但し、緊急の場合はこの限りではない。

### 第3章 自治会執行部

第11条 自治会執行部は、次の役員をもって組織する。

会長(1名)

第1学期:3年より1名、第2学期:3年より1名

副会長(各学年1名)

第1学期:3年より2名、第2学期:3年より2名

書記(各学年1名)

第1学期:3年より2名、第2学期:3年より2名

会計(各学年2名)

第1学期:3年より2名、第2学期:3年より2名

会計監査(2名)

第1学期:3年より2名

第2学期:3年より2名

コピー係(4名)

第1学期:3年より3名

第2学期:3年より3名

第12条 役員の任務は次のとおりとする。

1)会 長

- (1)本会の代表として会務を処理する。
- (2)各役員の指名及び解任を行う。

2)副会長

- (1)会長を補佐し、本活動の円滑化を図る。
- (2)学校自治会ボランティア活動を企画し、ボランティア係に指示する。

3)書 記

- (1)記録をつくり、それを保管する。
- (2)執行部会開催日の2日前までに、自治会担当教員の立会いのもと「学生意見箱」を開封する。

4)会 計

- (1)自治会費等の一切の収支を総括する。
- (2)毎年度の予算と決算を作成し、これを定期自治総会に報告し、承認を得る。

5)会計監査

- (1)会計に不正がないことを確認し、適切な運営がなされているか確認する。
- (2)行事進行委員会のアドバイザー的役割を担う。

6)コピー係

- (1)コピー機の管理及びコピー用紙の点検・補充を行う。
- (2)自治会掲示板の管理を行う。

7)各役員共通

- (1)体育館2階西側の自治会室の清掃・整理を毎月1回行う。

第13条 執行部会は、2/3以上の出席により成立する。

第14条 執行部会は原則として、毎月1回開くものとする。定期日時を決定する。

第15条 役員の任期は、第1学期は4月1日から9月30日まで、第2学期は10月1日から翌年の3月31日までとする。

第16条 役員の選挙は総会において互選する。但し、会員の1/3以上が不信任の署名を選挙管理委員長に提出し、過半数の自治会員がこれらを認めた場合この執行部は解散し、改めて互選しなければならない。

第17条 条文削除

#### 第4章 会 計

第18条 本会に関する会計事務は、自治会執行部会計でこれを行う。

第19条 本会の会費は総会でその額を決定し徴収する。但し、特に必要なことを認める場合は、執行部の提案で会員の承認をもって臨時経費とする。

第20条 本会の経費は自治会費をもってあてる。自治会費にて冠婚葬祭に関する支出は行わない。

第21条 会計は定期自治会総会に於いて全員に会計内容を報告しなければならない。また、会員の1/3以上の要請があれば、その都度報告しなければならない。

第22条 本会の会計年度は、第1学期は4月1日より9月30日まで、第2学期は10月1日より翌年の3月31日までとする。

#### 第5章 選 挙

第23条 選挙は、別府医療センター附属大分中央看護学校学生自治会選挙管理委員会によって管理される。

第24条 選挙管理委員は、3年より2名とし、自治会執行部の要請により、クラス自治会にて選出する。

- 一 選出された学生の中から、選挙管理委員長を選出する。
- 二 委員長は、4月～3月まで担う。
- 三 第1学期自治会役員選挙は4月に、第2学期自治会役員選挙は9月に行う。

第25条 本員の任期は、4月1日から翌年の3月31日までの1年とする。

第26条 本員の任務は、選挙に関して全ての責任を負い、少なくとも選挙に関する一切のことを選挙日の15日前には、全員に公示することである。

第27条 公示より5日経ても立候補者無き場合は、各学年より会長、副会長、書記、会計、会計監査、コピー係の推薦立候補者を各1名以上あげなければならない。



## 第6章 自治会行事

第28条 次のものを自治会行事とする。

- 一 自治会総会(5月上旬、10月、2月)

## 第7章 クラブ活動

第29条 クラブの結成は、自治総会で承認を得た後、学校長へ結成要請し、承認された後成立するものとする。

原則として、団体(設立・継続・規約変更)願(様式20)を年に2回、4月末までと9月末までに提出する。

第30条 次のものをクラブ員として認める。

- 一 自治会員
- 二 学校職員

第31条 クラブ会計は、原則としてクラブ員の部費によって運営する。

第32条 会員は自由意志により部を選択し、自主的に文化・体育活動に参加できる。

第33条 活動の際は以下の手続きが必要となる。  
(活動時間)

- 一 学校内の使用に関しては、学生通則「12. 施設・設備の使用および物品の借用」の項に準じる。体育館の使用は、校舎管理規程および体育館管理規程に準じることとし、クラブ活動時間は届出により最長19:00までで計画する。
- 二 団体(設立・継続・規約変更)願を提出するとき、クラブ活動計画書(様式21)を合わせて提出し許可を確認する。

(使用心得)

- 一 学生通則「体育館使用」参照。
- 二 活動終了後は、使用した用具の整理整頓・戸締り・消灯を確認後、代表者が教員へ活動終了を報告する。

## 第8章 規約改正

第34条 規約改正は会員の1/10以上の同意を得て総会に提出され、出席者の4/5以上の承認を得て決定する。

第35条 規約改正は、学校長の許可を得て実施される。

第36条 改正案の効力は、承認された日から発効する。

## 附 則

この規則は平成16年4月1日から施行する。

## 附 則

この規則は平成17年4月1日から施行する。

## 附 則

この規則は平成19年4月1日から施行する。

## 附 則

この規則は平成21年4月1日から施行する。

## 附 則

この規則は平成22年4月1日から施行する。

## 附 則

この規則は平成23年4月1日から施行する。

## 附 則

この規則は平成24年4月1日から施行する。

## 附 則

この規則は平成27年4月1日から施行する。

## 附 則

この規則は平成28年4月1日から施行する。

## 附 則

この規則は令和4年4月1日から施行する。

## 附 則

この規則は令和5年4月1日から施行する。

## 附 則

この規則は令和6年5月1日から施行する。







閉校に寄せて

## 閉校は残念

元学校長 赤嶺 康夫

平成9年度～平成17年度

本校の閉校は時代の流れとはいえ残念に思います。

私は平成7年国立別府病院附属大分中央看護学校が開校した3年目に家永睿前学校長の後任として赴任し平成18年3月31日まで務めました。前任地は国立中津病院で、附属看護学校を有していたので、中津で14年間、別府で11年間看護師養成に関わったこととなります。中津の看護学校は国立中津病院が中津市へ移譲された際本院へ管理換えされ国立別府病院附属中津看護学校として教育を継続し平成13年4月1日閉校になりました。国立別府病院附属大分中央看護学校はご存じの様に国立別府病院と国立療養所西別府病院の附属看護学校の統合により生まれた定員100名の大型校で短大並みの設備を有し将来は大学校への可能性を期待できると思いました。中津看護学校は一学年40名でしたが大分中央看護学校は定員100名でしたので学生の顔を覚えることは不可能とはじめから諦めました。ある看護学校の学校長は全ての学生を覚えていと聞いたことがあり感心したものです。当時は社会の高学歴化が進み、看護師養成機関として看護大学が増加していました。国立病院附属看護学校も将来的に大学校への格上げを望むのは当然でした。その為教員の質向上を目指し、九州国立看護教育紀要が発行されました。これは看護に関する研究成果を論文として発表するもので、二人による査読を経て掲載されます。

学校長協議会では将来の大学校設置の必要性についてシンポジウムを開いたり要望書の提出をしました。結局東京に一校が実現したのみでしたが当初は各ブロック毎に一校を設置する構想もあったように聞いていました。小生在職中天野豊子、中村雅子、清岡佳子、石井南美穂さんが副学校長として活躍されました。皆さん優秀かつ真面目で学生の教育に教員の研究指導に熱心に関与され、多くの優秀な看護師を送り出しました。当時の病院は昭和39年から43年頃に建設されたもので病棟は狭く、老朽化も進んでおり患者さんの療養環境として満足できるものではありませんでした。詰所も狭隘で看護学生の臨地実習の場としても不満足なものでした。病院は理念の一つに「良質な医療を良い療養環境で提供する」を掲げ将来の新築建替えを目指しました。病院の耐震診断により基準を満たさない箇所が明らかになり、新築建替えは喫緊の課題でしたが許可が得られたのは独立行政法人化後の平成18年でした。その後平成27年までに病棟、外来・管理棟、精神科病棟が順次完成し療養環境や臨地実習環境の改善が実現しました。

今別府医療センターは大分県の中核的病院として急性期医療や救急医療を担っています。本校は別府医療センターとともに地域医療に大いに貢献してきたのです。

わが別府医療センター附属大分中央看護学校を卒業し全国各地で活躍中の皆さんが本校卒業生としての誇りを持って活躍されることを願っています。

## no pressure, no diamonds.

元学校長 酒井 浩徳

平成27年度～平成30年度

希望とちよっぴりの不安に眼を輝かしているみなさんの前で、「no pressure, no diamonds.」とみなさんの心に少しでも残ればいいなという気持ちでお話しました。イギリスの思想家トーマス カーライルの言葉で、私が困ったことに会おうと思ひ出す言葉です。入学生のみなさんに贈らせてもらいました。ダイヤモンドも石炭も同じ炭素からできているのにその違いは何でしょうか？炭素が、地中深く、長い年月高い圧力にさらされることで美しく光り輝くダイヤモンドの原石に変わります。人もまた同じではないでしょうか。困難を避け楽なことを考えて生きていくだけでは自分自身を大きく成長させることはできません。時にはリスクがあっても新しいことに挑戦することも必要でしょう。ストレスに耐えることも必要でしょう……という言葉添えてお話しました。このとき私はみなさんにこの言葉でpressureをかけていたのかもしれない。三年の月日が過ぎ卒業の際にいただいたみなさんの色紙に「no pressure, no diamonds」の言葉をみた時、とてもうれしかったことを思い出します。ダイヤモンドの原石として本校を巣立っていかれたみなさんが、看護師として、社会人として多くの先輩や指導者、何より接する患者さんから磨かれて光り輝くダイヤモンドとなっておられると思います。

私は入学した1年生の最初に行われる講義「保健医療論」を担当しました。当時の講義ノートを振り返ってみると、テーマは医学史、医学と医療、医療の本質、医療者に求められる資質、現代医療における諸問題（生命と死の概念）、医療の進歩と医の倫理、医療における患者の権利、わが国の医療供給体制、医療保障の現状と課題等々。テーマを聞いてただで眠くなるし、医学の入り口に立ったばかりの学生さんたちに興味を持ってもらうことはとても難しく、講義を引き受けた私にも理解が難しいのが事実でした。改めて勉強する良い機会をもらったと思いました。実際の講義では要点をプリントで渡すことにして、大部分はテーマに沿った自分の経験を話したように思います。毎回の講義終了前20分位を利用して、1年生のみなさんに「なぜ看護師を目指そうと思ったのか？」「どんな看護師を目指すのか？」を順番に話してもらいました。ほとんどの学生さんが目指す看護師像を持っていることに感心したことを思い出します。この気持ちをいつまでも大切に、少し道に迷ったときに思い出してほしいと思っていました。

九州医療センターから転勤、中年～初老期おじさんの時代を13年間敷地内の官舎で単身赴任生活で過ごしました。昼休みにサンドイッチを買いに病院のコンビニへ行った時、勤務が終わって夕食の食材やビールを買いにサンストアに行った時、敷地内の温泉に行く時、休日に病院の敷地や亀川の町を散歩している時、よく学生さんたちに会いました。ニコッと笑ってくれる人、会釈をしてくれる人、ちょっと知らない顔をする人。いろんな学生さんたち。学校祭・病院祭、クリスマスコンサートで扮したサンタクロース姿で、一緒に写真を撮った学生さんたち……、みんな素敵な思い出です。みなさんが卒業の時にくれた色紙に書いてくれた言葉が私にとっては宝物です。みなさんが大分中央看護学校の卒業生としての誇りを持ち、心身ともに健康で活躍されますよう、そして悔いのない人生を歩まれますよう願っています。

## 大分中央看護学校閉校に寄せて

前学校長 矢野 篤次郎

平成31年度～令和5年度

2019年4月別府医療センターの院長に就任すると同時に、附属大分中央看護学校の学校長を併任しました。4月1日の機構本部での院長辞令とともに看護学校長の辞令も頂けるものと思っておりましたが、ありませんでした。看護学校は「附属品」として学校長職は病院長にもれなくついてくるとの機構の規定でした。これでは、看護学校のトップとしての覚悟を持つモチベーションは上がらないなと感じた次第です。そして、「学校長になった」と同時に国立病院機構本部より看護学校の現状存続のための厳格な基準が示され、それを達成する見込みがなければ縮小・閉校・大学誘致のいずれかの方針選択の勧奨がありました。

独立行政法人国立病院機構が法的に担うべき事業の一つである教育研修事業の大きな柱として、別府医療センターは看護師養成、すなわち看護専門学校の運営を国立時代の1948年より70年以上にわたって担ってきました。しかし、近年の社会情勢の中、国立病院機構が担う看護職の養成に関する方針が従来の量的確保に軸足を置いた取組みから看護の質の向上への変革へ取り組むことになり、看護学校の運営の継続は各都道府県における看護職の需給状況に応じて判断することになったのです。そして、大分県における看護職の需給状況と経営母体である今後の別府医療センターの経営基盤を考慮して大分中央看護学校を2025年3月をもって閉校することを決断しました。

跡地利用の一環として看護大学の誘致公募を行い、学校法人別府大学に決定しました。大分県には公立・公的看護大学はありますが、私立大学の発展性のある看護大学はありませんでした（隣県の宮崎県にもありません）。別府医療センターと協同して、より広く優秀な高校生を集め、質の高い看護師を育成し、県内のNHO病院へより質の高い看護師を供給することができるものと期待しています。

さて、私の大分中央看護学校の学校長としての軌跡は、閉校決断と看護大学誘致だけではありません。学校長就任の翌年2020年春より起こった新型コロナウイルス感染症蔓延対応です。別府医療センターの感染対策はもちろんのこと、同時に看護学校運営におけるコロナ感染対応を強いられました。本松副学校長をはじめとする教員の皆さんの尽力により何とか講義、実習を継続することができました。とくに学内での感染のクラスター発生がなかったことは、教員と学生の皆さんの信頼関係のすばらしさに救われた次第です。そんな新型コロナウイルス感染症蔓延の中の学校運営もほぼ平常化した2024年3月1日に大分中央看護学校長として最後の卒業式に臨みました。その時の式辞を私の学校長としての最後の軌跡として本寄稿に残しておきたいと思います。



## ～ 卒業式 学校長式辞 ～

大分中央看護学校 学校長 矢野 篤次郎

『別府医療センター附属大分中央看護学校を卒業される63名の皆さん、本日は卒業、誠におめでとうございます。令和2年より始まった新型コロナ感染症蔓延による日常生活の様々な制限も、昨年5月に季節性インフルエンザと同様、感染症法上の取扱いが5類となりようやく日常が戻ってきました。そして、本年度は4年ぶりに制限なしでの卒業式を迎えることができました。これまで卒業生の皆さんを温かく支えて来られましたご両親をはじめ保護者の皆さまに心からお祝いを申し上げます。また、来賓の皆さまには年度末の大変ご多忙中、本校の卒業式にご臨席を賜り心より感謝申し上げます。有難うございます。

卒業生の皆さんは、本校に入学以来、新型コロナ感染症蔓延下での学生生活を強いられました。看護学生として勉学に励み中、感染防止のために様々な制約を受けながらも、それらを乗り越え、本日卒業式を迎えられたことに学校長として心より称賛の意を表したいと思います。

この3年間のコロナ禍の中の卒業式で、学校長としてまた、別府医療センターの病院長として毎回話していることを今日も話します。それは、40年以上医療に携わってきた私自身がこれまで医療の進歩ばかりを目指してきたことへの反省でもあるからです。21世紀になって20年が経ち、科学の進歩とともに医学、医療も大きな進歩を迎えています。遺伝子検査や遺伝子治療、IPS細胞を用いた再生医療など目覚ましい医療の進歩に加えて、人工知能による疾病の診断やロボットによる看護・介護も可能になりました。このように医学・医療が進歩するなか、この度全世界において新型コロナウイルスによる感染症の洗礼を受け、これまでに経験したことのない社会経済の大混乱を来しました。人類の歴史において闘い続けながらも共存してきた病原微生物による病は、科学の進歩だけでは容易に克服することはできないことを改めて認識させられました。そして、私たち医療に携わる者は医療の原点を見つめなおす機会となりました。科学の進歩のお陰でウイルスの遺伝子診断法であるPCR検査によるコロナ診断は日常茶飯事になり、メッセンジャー RNAを用いた創薬技術でコロナワクチンも一年足らずであつという間に開発され、全世界に普及しました。しかし、ウイルスは変異して行動変容し、お構いなく拡大し続けました。そして、「医療の逼迫」という言葉が取りざたされました。実際に、入院診療が必要な患者さんが入院できない事例が頻発しました。入院に必要なベッドが足りない訳ではないのです。実際に患者を看る看護師が足りないことが最も大きな原因なのです。一般社会は、初めてこのことを認識することになりました。この3年間で看護師の大切さが社会にあらためて認識されることになりました。その結果、医療を支える看護師の処遇を改善することが国の政策にもなりました。その先には、また新たな感染症が発生しても「どうか国民の命を守ってください」という期待が込められています。

感染症ではありません。この度の能登半島地震は、最大震度7を記録し大変な被害をもたらしました。新年早々に全国の医療機関に対して医療支援の要請があり、別府医療センターも国立病院機構として医師、看護師、薬剤師、事務からなる医療班を派遣致しました。日本国内では、2011年の東日本大震災以降、震度6弱以上の地震は31回発生し、そのうち約半数の15回は震度6強以上です。今後も地震、気象異常による降水・降雪による自然災害も増え続けていきます。結果、私たち医療スタッフには非日常的な診療活動の場面も増えていくことになります。これからは、自分の健康を日頃より心身共にしっかりと管理し、医療の原点、看護の原点を見つめ直しながら、社会に貢献できる看護師に成長されることを期待しています。

自然災害ではありませんが、約170年前にロシアによる南下政策で始まったクリミア戦争において、戦場に向かい野戦病院で看護を開始した近代看護師の祖フローレンス・ナイチンゲールの偉大さを改めて認識する次第です。ナイチンゲールが当時赴いた野戦病院は衛生状態が悪く、感染症により死亡率が約40%にも達していました。ナイチンゲールは衛生状態を徹底的に改善し、死亡率を2%にまで下げたと伝えられ、皆さんも知っていると思いますが、夜中もランプを掲げて回診を続けたことにより「クリミアの天使」と呼ばれています。ナイチンゲールの凄さは、このように野戦病院で負傷者の看護に従事したクリミア戦争の後、兵士の死亡原因のデータを解析して、「感染症は予防できる」と訴え、換気を推奨するなど衛生改革に尽力したことです。看護師という尊い職業を選択し日本本校を巣立っていくにあたり、ナイチンゲールのように、どんな危機に遭遇しても正しい知識と的確な技術をもって対処できるようしっかりと勉学を続けていって下さい。

皆さんは、これから看護師としてのプロの職業人・社会人になります。社会人になると医療の現場のみならず様々な場面でこれまで以上の困難を感じて、迷って立ち止まってしまうことは必ずあると思います。まず一步前に足を踏み出して下さい。そのことが、自分を成長させるチャンスを与えてくれると思います。必ず道は開けると信じて一步前に足を踏み出せば、ナイチンゲールのように逞しくなれると思います。

最後になりますが、この大分中央看護学校は1948年(昭和23年)に国立亀川病院附属高等看護学院として開学して以来70年以上の歴史と伝統のある看護師養成機関ですが、残り1年でその幕を閉じることになります。しかし、この歴史の源泉・原動力は人です。すなわち大分中央看護学校の意義は、どの様な人材を輩出したか、またそれらの人々によりどのように社会福祉貢献がなされたか、にかかっていると思います。1年後には学び舎はなくなったとしても母校愛に燃えて、大分中央看護学校の同窓生であるという誇りを胸に、皆さんが大いに活躍することを心から祈念して、学校長の祝辞といたします。

本日は誠におめでとうございます。

令和6年3月1日



## 別府に感謝

元副学校長 西村 由紀子

平成18年度～平成23年度

別府で勤務したのは、平成18年4月～平成24年3月までの6年間です。家族5人が4地点で生活という、公私共に最も活動的な期間でした。

日記を読み返して改めて驚いたのは、学生や保護者との面談を頻繁に行っていたことです。ひとり一人悩みがあり、余裕のない看護学生という立場でその解決が困難なことが多かったというのが正直なところ。納得や満足いく結果ばかりではなかったと思いますが「話すとお前向きな気持ちになる」と言ってくれた学生、(子連れで)近況を報告してくれた卒業生も多く、心優しい学生に励まされ、何とか6年を過ごすことができたと思います。スクールカウンセラーの後藤先生の存在は大きな力となりました。家族との面接や、緊急時の電話相談への対応、教師へのアドバイスなど感謝は尽きません。

赴任当初5月に、病気療養のため、休職中であった田原先生と会いました。職場復帰を目標に強い意志で闘病していました。「明日治療法が見つかるかもしれない。」と言って。彼女の願いは叶いませんでしたが、その姿は、学生や職員をはじめ多くの人に精一杯生き抜くことの尊さを教えてくれたと思います。

つらい思い出や苦しいこともありました。前向きに皆で頑張っていたことも振り返ってみて確認できました。この期間にカリキュラム改正があったこともあり、講義や実習の検討会を立ち上げ、課題を整理していきました。研究授業にも取り組みました。管内の養成所間の相互評価と結果の公表も実施しました。又教育内容についての改善と併せて指導體制の検討も行いました。自ら学ぶ学生を育てていきたいという思いから様々なことにチャレンジしましたが、終盤にはチューター制に取り組みました。在職5年目の看護教育研修会担当校の際には、「先生方が誠意を込めて対応してくれた。結束が更に強くなったと思う」と記していました。

武藤庸一学校長には、学校の取り組みを指導していただきました。又自ら学生の自主性を促すような取り組みをされていました。学校に(新)学校長室をつくられ、ナイチンゲールについても勉強されていました。

病棟の移転時には、学生も参加し貴重な経験をすることができました。安全に、不安のないように患者さんを移送することは大きな学びの機会であったと同時に、組織の一員として病院に貢献するという機会にもなったと思います。男子入寮導入時の心配は杞憂に終わり、福利厚生改善の改善をすることができました。病院の方には男子の浴室利用など協力を頂くことができました。

私が学校に足を踏み入れてまず感じたのは校舎の美しさでした。磨き上げていたのは吉野さんです。どこをみてもピカピカにしてくれていました。

私自身にとっての別府の6年間は「授業」を考える重要な時間でもあったと思います。目標の「心が動く」授業にはなかなか到達できませんでしたが「(看護)倫理」は生涯学習のテーマとして学習を続けるきっかけになりました。

仕事以外でも多くの思い出があります。柴石温泉に通い、地域の高齢者の方と交流することができました。2年目には震度4の地震を経験し、東日本大震災もありました。アナログ放送の終了や、政権交代がありました。サンストアが新装オープンしたのもこの時期でした。週末は自宅へ帰ることが多い中、日出の二階堂美術館には何度も足を運びすっかり日本画のファンになりました。改めて別府と出会った人への感謝の気持ちで一杯になります。

学校が閉校になることには寂しさも感じますが、多くの卒業生の中に看護学校での学びは生き続け、そして次の世代に引き継がれていくと確信し、これからも見守っていきたいと思います。

## 閉校に寄せて

元副学校長 渡部 京子

平成24年度～平成25年度

平成24年4月から平成26年3月までの2年間、副学校長を務めました。それまで5年間沖縄の国立療養所で臨床にどっぷり浸かっていましたので、赴任当初は私の教育観は古いのではないかと戸惑ったことを覚えています。教育方法はいろいろ変わってきていましたが、いかに学生たちの学ぶに寄り添うかという教育の根本的原理は変わりません。しかし若者の考え方をどう理解するのなかなか難しいことでした。今はZ世代と言われ教員の皆様もご苦労されているのではないかと思います。

閉校については、在職の頃よりいろいろ出ていました。平成4年に「看護師等の人材確保の促進に関する法律」が施行されて急激に看護系大学が増え、それまで多くの看護師を育成してきた看護師養成所が大学に移行していきました。もちろん新規開設も増え平成13年に92校だったのが平成24年には208校になりました。令和5年には306校に増えています。国立病院機構病院附属の養成所も閉校し看護大学に後を譲ることになり、各校にて模索が始まりました。在職中は具体的な計画はありませんでしたが、近い将来閉校になるのかなと思っていました。

時代の要請に沿って昭和23年に国立亀川病院附属看護学校として発足し（赴任時に歴史を学びました）77年の長きにわたって看護師養成に尽力されて貢献された学校でした。それを強く感じたのは在職中に同窓会に参加させていただいたときでした。懇親会にて3校の校歌をそれぞれの卒業生が歌う場面があり、国立別府病院附属看護学校卒業生、国立療養所西別府病院附属看護学校、別府医療センター附属大分中央看護学校卒業生により校歌が歌われ、歴史ある学校の重みをひしひしと感じました。また、平成25年の戴帽式では学校長の代わりに戴帽生へのお祝いを述べさせていただきました。退職前であったことで、私の最後の戴帽式となりました。当時の学校長の計らいに今でも感謝しています。

国立病院機構別府医療センター附属大分中央看護学校は閉校になりますが、きっと卒業生の積み上げてきた看護への思い、技術、人への思いやりは引き継がれていくと思います。

これからも学校は違えど別府医療センターにて看護を学ぶ学生たちに、その思いが引き継がれていくことを願っています。

2年間という短い期間でしたが、歴史ある別府医療センター附属大分中央看護学校で教育に携われたことを誇りに思います。学校長先生はじめ教員の皆様、看護部の皆様、関係職員の皆様、卒業生の皆様、いつまでもご活躍を祈っております。

## 閉校に寄せて

元副学校長 扇 玲子

平成29年度～令和元年度

私にとって、別府医療センター附属大分中央看護学校は、教育主事として3年間、副学校長として3年間で過ごし、定年前の最後の勤務地となった思い出深い学校です。海や山が近く、季節を感じながら過ごす日々は、とても心地よいものでした。春には、卒業記念樹の桜が美しく咲き、私たちよりも先に新任の職員や入学生を受け入れる準備を始めてくれます。その陰でこっそりと土筆が顔を出します。始業前に学校の敷地内を歩き、そういう変化を見つけるのが楽しみでした。そのうちに、見つけるだけではなく、新たに季節の彩りを少しずつ加えていくことも楽しみの一つになりました。雑草たちが自由に生い茂るのも悪くありませんが、それだけではもったいなくて、花を植えました。他にも、教員事務室の窓の外にゴーヤで緑のカーテンを作ったり、校舎の裏の片隅にニンジン種をまいたりもしました。教職員や学生が校舎に入る前に、目の隅に花の色が映るだろうか、花が咲いていることに気づいてくれるだろうか、きれいだと思ってくれるだろうかと期待を込めて、教育主事の先生方を巻き込んで花壇づくりに精を出しました。季節のイベントが近づくと飾りつけにも力を入れました。仕事のことや授業のことを考えて、黙々と下を向いて出勤、登校するのではなく、ちょっとだけ視線を動かして、心をほぐしてほしいという私の勝手な思いです。看護職を選んだ者にとっては、本業に真剣に取り組むことと同じくらい、自身が豊かに生きることは大事です。豊かに生きるには、季節の彩りと遊び心が必要だと思っています。職員や学生がちょっと足を止めてくれるだけ、目を向けてくれるだけでも成功、笑顔になり楽しんでくれれば大成功です。副学校長の裏の重要な役割として、自身も楽しみつつ、教職員や学生の反応に一喜一憂です。足を止めて一緒に楽しんでくれた皆様に感謝です。

もちろん、こんなことばかりしていたわけではありません。看護学生たちと過ごす最後の3年間だと思うと、これから巣立つ学生たちに伝えたいことがたくさん溢れてきました。人として、看護師として、どのようにあってほしいかということ、授業や行事の中で、日々の学生との触れ合いの中で伝えたいと思いましたが、どれだけ伝えることができたでしょうか。

人生の中で出会う人は多いけれど限られてもいます。自分は、その多くの人たちの中の一人にすぎませんが、限られた人たちの中の一人であるからには、出会ってよかったと思える意味のある出会いにしたいものです。おこがましいことですが、別府医療センター附属大分中央看護学校は、出会った人たちの心に何か残したいと思わせてくれた職場でした。力不足で大したことはできませんでしたが、自分なりに力を尽くしたと思っています。

閉校になるのは寂しい限りです。ここで出会った皆様に感謝いたします。

## 看護基礎教育の礎と発展

前副学校長 本松 美和子

令和2年度～令和4年度

別府医療センター附属大分中央看護学校は、平成4年4月に国立別府病院附属看護学校と国立療養所西別府病院附属看護学校が統合大型化し、1学年定員100名の国立別府病院附属大分中央看護学校となりました。当時、九州管内の国立病院附属看護学校としては初の大型校であり、後に続く九州医療センター附属福岡看護助産学校（平成30年3月に閉校）、南九州中央病院附属鹿児島看護学校（平成18年に鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校に改称。令和6年3月に閉校）のモデル校でした。平成16年に国立病院が独立行政法人国立病院機構へと移行し、別府医療センター附属大分中央看護学校となり、平成17年に1学年定員が100名から80名に変更になっています。

平成から令和にかけて、社会や医療情勢は大きく変化しています。看護の活動の場が地域へと拡大するなか、看護師に求められる能力も多岐に渡り、看護基礎教育の場でも短期間で第2次から第5次と、度々カリキュラム改正が施行されています。この間、私は平成13年から8年間を専任教員として、令和2年から3年間を副学校長として別府医療センター附属大分中央看護学校に勤務させていただきました。

大分中央看護学校の修業年限は3年です。学生は、この3年間で看護に必要な知識・技術はもとより、同じ目標をもつ仲間と支えあい、自治会行事で他の学年と協力し、実習で受け持たせてもらった患者さんを通して個別性や看護の効果について考察すると同時に多くの励ましをいただき、専門職業人としても人間としても大きく成長していきます。3年間という学校生活は、学生にとっては時間的なゆとりはなかったかもしれませんが、改めて大分中央看護学校での日々を振り返ると、学生達の笑顔や精一杯努力する姿の中に希望に満ちた眼差しやエネルギー、未来を担う大きな可能性を実感していた日々が懐かしく思い出されます。

看護学校在任中は、常に教員全員が一丸となって「教育の質の向上」、「時代に合わせた教育体制の構築」を目指してきました。将来、どのように社会や医療、看護師に求められる能力が変化しても、学生それぞれが経験を通して自己教育力を発揮し、柔軟に対応するには看護基礎教育での学びが礎となります。毎年、看護師国家試験の出題傾向と学生の正解率を分析し、強化すべき教育内容の精選や教育方法の工夫、教材の活用について院内外の講師の先生方や実習指導を担う方々と意見交換し、より良い教育について検討してきました。国立病院機構附属看護学校の看護師国家試験合格率が常に全国の合格率より高いのは、教員全員が力を合わせ、このような検討会にエネルギーを注ぎ、講師の先生方や実習指導を担う方々と共に質の高い教育の提供を目指し看護基礎教育に携わってきたからだと思えます。

前身の別府病院附属看護学校、西別府病院附属看護学校を含め、閉校までの大分中央看護学校の卒業生は5,000名を超えます。卒業生達は、各地の臨床や施設、行政機関等で管理職やチームの中心的役割を担ったり、認定看護師として組織横断的な活動をしたり、教育機関で活動したりと、それぞれが選んだ場所で生き生きと活躍しています。これまで築いてきた大分中央看護学校の礎が途絶えることは寂しくもありますが、令和7年4月からは、別府医療センターとの包括的連携協定のもと別府大学看護学部看護学科が開設されます。今後も地域医療に貢献できる、多様で可能性に満ちた看護専門職の育成が継続、発展されることを期待しております。

最後になりますが、これまで大分中央看護学校の運営、教育に関してご指導ご支援くださいました学校運営委員の皆様、院内外の講師の先生方、実習指導をはじめご協力くださいました実習施設関係職員の皆様、同窓会の皆様に深く感謝申し上げます。



## 看護学校の思い出

元教育主事 深野 久美

平成23年度～平成27年度

私が別府に教育主事として在籍していたのは、平成23年から28年の5年間です。某テレビ局の連続テレビ小説で言えば、第84作「おひさま」から第93作「あさが来た」までです。その間には社会現象にもなった第88作「あまちゃん」もあり、その人気ぶりに、うっかり「潮騒のメモリー」のCDを購入するところでした。在籍中の別府医療センターは、電子カルテシステムの稼働、ヘリポートや新精神棟棟竣工など、毎年、何かしら新しい事業が始まっていました。そんな中での私の一番の思い出は、チューター制度の導入です。準備は前年度からでしたが、開始は私の赴任と同時でした。チューター制度とは、各教員が少人数の学生の相談役になる学校生活支援システムのことです。導入時は、学生が教員とコンタクトをとりやすい環境を作ろうと色々な工夫をしました。例えば、教員個々のスケジュールやコメントを載せた用紙を学校玄関先に設置するなどです。最初は学生も戸惑ったと思いますが、毎月準備した枚数が減っていたところを見ると、苦笑い気味でも読んでいたのだと思います。不安もありましたが、いざ開始してみるとチューター制度は教員と学生だけでなく、学生間のピアサポートにも有効でした。看護学生の最初の試練は「解剖生理学」です。「解剖生理学」は範囲が広い上に、単位を落とすと、その後の実習にも影響するという厄介な科目です。私の担当の1年生にも苦戦している学生が数人いました。少しでも手助けになればと、駄目もとで2年生に解剖生理学の攻略法伝授をお願いしてみました。すると自分達も勉強等で忙しかったと思うのですが、悩める後輩のために快諾してくれました。攻略法伝授は初夏の放課後に行われました。私も一緒に聞いていたのですが、体験から編み出した様々な勉強方法を熱心に教えてくれました。例えば、「教科書の文章を覚えるのではなく、挿入されている解説図を人に説明できるようになるまで理解すること」、「内分泌関連は複雑なので、わかったことをイラストにして、他の科目に関連個所がでたら追加していくこと」、「アニメ仕様の解説YouTubeもあるので、概要を理解するのに活用すること」などです。中には「授業中に寝るのは、授業料を捨てるようなものだよ」など耳の痛い助言もありましたが、1年生は素直に頷いていました。横で「私も同じ事をいつているよね」と、つい口を挟みそうになりましたが、試練を乗り越えた先輩の言葉は特別で、胸に沁みるのだろうと黙っていました。多分、1年生は勉強方法だけでなく、先輩と体験や時間を共有できたことが嬉しかったのだと思います。確かにチューター制度はデメリットもありますが、教員と学生、学生同士のコミュニケーションツールとしては優れていると思いました。少なくとも私にとっては、チューター制度導入時の試行錯誤は、その後の教員生活の糧となる貴重な体験だったと時々懐かしく思い出します。

## 閉校に寄せて

元教育主事 西山 ゆかり

平成24年度～平成25年度

平成24年より2年間教育主事としてお世話になりました。私は国東の出身なのですが、実家から一番近い国立病院機構への勤務はとても嬉しかったことを覚えています。振り返りますと、私が看護教員の辞令をいただいたのが平成4年で、ちょうど別府医療センター附属大分中央看護学校が開校した年になります。当時は小型校に勤務していて、研修会で訪問しましたが、定員100名の大型校で、ピカピカの校舎で設備も整っていて、ここで勤務する職員や、ここで学ぶ学生は幸せだなと思いました。その20年後に勤務する機会を得るなんて、夢にも思っていませんでした。15年ぶりの看護学校勤務であることと、春から看護管理者として医療経営管理の学びを深めるべく福岡の大学院入学が決まっていたので、不安がよぎりましたが、実際に赴任してその不安は吹き飛びました。良き上司、同僚、部下に恵まれて、看護の学びを深めることのできる貴重な時間を過ごすことができました。何よりも元気で素直な学生達と関わり、看護教育の楽しさを再認識しました。私が担当した科目は、関係法規や医療安全、看護管理等で、大学院での学びとリンクしていて、学んだことを講義でアウトプットできました。教員の皆さんは優秀で、私はカリキュラム担当でしたが、打ち合わせの際は、各学年の進行状況や、学生の状況など細やかに把握されていました。

教育の質の向上のために、研究授業を行っていましたが、学生からも教員からも評価を受ける機会というのは、そうあることではないので、学生にどのような授業をしたら、この単元の目的が達成されるか、自分なりに工夫をしていたことが思い出されます。在宅看護論実習では、訪問看護ステーションに出向き、カンファレンスに参加したり、デイケアのお年寄りと交流したりしました。看護はその人の生活を支えるものであるということを実感しました。

長く臨床現場にいたので、その時々のお患者さんとの関わりを通して、誠実に責任をもって看護実践を行うことの大切さや、そのためにも自分自身を知り、いろいろな経験をすることの大切さを、折に触れ伝えるようにしていました。

「豊かな人間性と、自ら進んで学習する能力を備えた、独立行政法人国立病院機構と社会に貢献できる質の高い看護の実践者を育成することを目指す」という教育理念のもと、教育主事として関わった2年間は、私自身が国立病院機構の職員として、育てていただいたことを実感する機会でもありました。すぐ隣に充実した実習施設があり、看護教員養成研修は勤務扱いで受講でき、臨床と看護学校、相互で勤務することができ、このように充実した看護師の生涯学習を支える教育環境は国立病院機構ならではのようです。現在は、看護部長として勤務していますが、看護師長を始めとする多くの卒業生が活躍しています。ここで出会うことのできた多くの方々のご縁に感謝すると共に、これからの皆様方のご健勝とご活躍を祈念いたします。



## 閉校に寄せて

元教育主事 大野 美穂

平成26年度～平成28年度

私は、平成18年から4年間教員として、平成26年から3年間教育主事としてお世話になりました。教員としては2か所目、一学年定員80名の大型校は初めての施設でした。確か体育館だったと思いますが、新任のあいさつのために学生の前に立った時、その数の多さに圧倒されました。他にも4階建ての校舎、大小広さの違うたくさんの教室、教材の多さなどにも。

思い浮かぶのは、実習室での演習や諸行事での元気な学生たちの姿です。私自身、看護技術が大好きなのですが、技術テスト前に自主的に練習している学生たちを見守るのは楽しかった。技術が得意な学生、不器用でうまくいかないと悩む学生、それでも学生同士励まし支えあう姿に、学生の学びに関わることのやりがいと責任を感じたように思います。学校行事では、5月だったでしょうか、“1日看護学生体験”や10月か11月ころの学校祭がありました。学生実行委員を中心に企画立案から準備、当日の運営まで、学生たちは本当に一生懸命取り組み、かつ学生自身も楽しんでいる姿に看護学生にかかわる楽しさを味わわせてもらいました。様々な気づきや学び、感情を経験させていただいた当時の学生さん、今どこかで活動している卒業生の皆さんに感謝いたします。

そして、忘れてならないのは、当時の病院長で学校長だった武藤庸一先生と西村由紀子副学校長先生です。私は平成18年度以降病院施設を歩き来しながら、のべ4施設、十数年看護学校に勤務しました。どこでもそうですが、仕事をしているといろいろなことが起こり、状況に応じた判断と対応が求められました。その時、お二人から学んだ<学生にとってどうなのか>が私の支えとなっていました。加えて、当時の同僚である教職員の皆さんにいろいろなことを教わりました。この場を借りて感謝申し上げます。

長い歴史ある附属看護学校が閉校することは正直寂しいことではありますが、ここで培ったものは卒業生や教職員一人ひとりが何らかの形でつないでいると信じています。

最後に、これまで看護学校の教育活動にご尽力いただいた関係職員の皆様方に深く感謝申し上げます。卒業生の皆様が健康で、益々活躍されることをお祈り申し上げます。

## 閉校に寄せて

元教育主事 石原 尚美

平成28年度～令和元年度

国立病院機構別府医療センター大分中央看護学校が閉校になるとの知らせを聞き、驚きとともにとても残念な思いでございます。

私は現在、大学教員として教育に携わっておりますが、平成28年4月から令和2年3月の4年間教育主事として勤務させていただきました。着任前、職場の上司や知人に異動が決まったことを伝えると「別府は風光明媚でとても良いところ。よかったですね」「温泉三昧でいいですね。うらやましい。」という言葉を受けたことを思い出します。

前職は出向で大学教員として勤務しておりましたので、国立病院機構の看護学校でふたたび勤務できる喜びと教育主事という職責が果たせるだろうかという不安の中で辞令を頂いた記憶がございます。実際、着任して1年間は、教育主事としてのあり方や教員への支援、学生との接し方など色々と悩み毎日でした。4年間を振り返って、教育主事として何か成しえたかという特別なことは何も成しえていません。私が、4年間教育主事として勤務できたのは、諸先輩方が築かれた校風と当時の副学校長、教育主事、教員の先生方、そして学生に支えて頂いたからです。心より感謝申し上げます。

看護学校では四季を通じて季節の変化を体感することができ、日々癒やされておりました。学校の周囲には桜や梅など歴代の卒業生が卒業記念として植樹をくださった様々な木々があり、季節ごとに美しい花を咲かせていました。当時の副学校長と教育主事で環境整備の一つとして、花壇に球根や花の苗を植え、季節の花々を育てました。春は、チューリップ、夏はゴーヤを育てて、1階職員室の窓をグリーンカーテンで覆い、沢山のゴーヤを収穫しました。秋から冬にかけてはシクラメンや水仙など季節の花々を育てることができました。朝、学校の花壇で水やりや花の世話をしていると、登校してきた学生から「いつもありがとうございます。ほっとします。」「私、実は花が大好きなんです」など声をかけてもらいました。病院のバス停前でもプランターで花を育てました。朝、水やりをしていると、外来に来られた患者さんに「きれいですね」と声をかけて頂いたり、プランターの前で座って花を眺めている患者さんと出会ったりすることもありました。わずかな時間でしたが、心が温かくなるとともに豊かな気持ちになるひとときでした。実は花を育てることについて、それ程興味がなく、また、ほとんど経験がなかったのですが、花に癒やされ、花を育てる喜びを知り、花を育てる過程が教育に通ずることに気づきました。この経験は、私の教育観に影響を与え、私自身を成長させてくれた大切な宝物です。

最後に、別府医療センター大分中央看護学校から羽ばたいた多くの卒業生がいます。卒業生の益々の活躍を心より祈っております。

## ●現学校職員

### 最後の事務長としての思い出

事務長 森 貴史

令和4年度～令和6年度

私は、大分医療センターの企画課長から、令和4年4月1日付けで別府医療センターの管理課長を命ぜられ、同時に大分中央看護学校の事務長として着任いたしました。今回赴任するにあたり、前任者からの引継ぎで「大分中央看護学校は令和7年3月31日を以って閉校する」との話を知ることとなり、大変ショックを受けました。というのも、別府医療センターでは、前回、平成24年4月から2年間、給与係長として勤務をさせていただき、大変お世話になったためです。当時は、看護師採用試験や幹部看護師任用候補者選考等を担当しており、学校の一部設備をお借りすることが多々ありました。当然、授業中には準備ができないため、午前中の早い時間や夕方の合間を縫って病院の事務方数名で訪問していました。そこで、副学校長や教職員の皆様から「何か手伝うことはない、遠慮なく言って」、「〇〇室の片づけはやっておくから大丈夫」といった温かいお声掛けをいただいたことを覚えています。

あれから約10年後、令和4年4月に自身が大分中央看護学校の事務長として着任して、最後の新入生を迎える入学式に参加するとは思いませんでした。また、入学式に限らず、戴帽式に代わる誓いの式や卒業式において、事務長は「開式（閉式）のことば」を述べる大任があります。コロナ禍から終息宣言を経て、来賓者数も様変わりしていきましたが、大分県内NHO病院の院長先生、学生の父兄等、多くの方々が晴れの舞台を楽しみに訪れます。非常に厳かな式のなか、もし、自分が短いセリフを間違えて台無しにしたら申し訳ないとの思いから、今までにないほど緊張したと記憶しています。

そして、令和5年度には、別府大学の看護部設置・運営に関する包括連携協定により、次にバトンをつなぐ調印式の段取り等をさせていただき、私自身、令和6年度も引き続き事務長として勤務することとなりました。本当に激動の3年間ですが、事務長として令和7年3月31日の閉校を迎えることは、非常に寂しくもあり、大変光栄でもありました。歴史と伝統のある大分中央看護学校で「最後の入学式」「最後の卒業式」両方に参加させていただいた誇りを胸に、これからも精進して参ります。

末筆ではございますが、卒業生の皆様、教職員の皆様、これまで大分中央看護学校に関係するすべての皆様のご健康とご多幸を心から祈念いたします。

### 閉校に寄せて

看護部長 辻丸 祐規子

令和6年度

私は、令和6年4月に別府医療センター看護部長として着任いたしました。別府に縁があり独立行政法人移行前後の平成13年から平成19年までの6年間を看護部長で勤務し、今回2度目の勤務です。

4月から別府で勤務し、看護学校に向かうと印象にあるのは校舎にある「こて絵」です。こて絵（こてえ、鏝絵）とは、日本で発展した漆喰を用いて作られるレリーフのことで、左官職人がこて（左官ごて）で仕上げていくことから名がついています。私の記憶の中でこの絵は別の場所に設置してあった気がして、なぜ看護学校にあるのか疑問でした。調べてみると、こて絵は平成13年12月地域医療研修センターの壁面に作製されました。新病院建設時に地域医療研修センターを取り壊すことになり、平成23年に看護学校の正面外壁に移設されました。看護学校の校舎を見ると、当時私が看護師長1年目で、こて絵を初めて見た時の大きさと純白さ、白い壁に浮き出したヒポクラテスとナイチンゲール2人の像が医療の現場を見守っていると感じたことを思い出します。私自身も、看護学校は国立病院附属看護学校です。母体病院は建替えられ、母校は閉校となり学んだ校舎は現在ありません。皆さんの学んだ看護学校は閉校となりますが、母体病院である別府医療センター、こて絵のある校舎、学校の記念碑や記念植樹は、これからも残り成長し続けます。閉校しても戻る場所があることは私には、うらやましい限りです。人生100年時代といわれ長い人生です。卒業生の皆さんが何か困ったとき、学校を思い出した時、看護の出発点に戻りたくなった時は、どうぞ遊びに来てください。別府医療センターでは多くの卒業生が働いています。気軽に来て話しましょう。待っています。

私は、学校運営委員の一人として、実習病院の看護部長として最後の年に立ち会えたことに感謝しております。看護部全体で有意義な実習となるように看護部長・副看護部長、指導者である助産師・看護師と共に努力してまいりました。今後も、これからの学生の皆さんに選ばれる病院となるように実習指導の充実をしていきます。学校のシンボルマークは、太陽と海、温泉と大むらさきの花でできています。卒業生の皆さんが、附属看護学校で学んだことを誇りとして明るい未来とご活躍を願っております。最後になりましたが、歴史と伝統のある看護教育に携わり優秀な人材を輩出してこられた諸先生方のご尽力に感謝申し上げます。

## 大分中央看護学校での6年間を振り返って

教育主事 渡邊 真弓

平成31年度～令和6年度

2019年4月、関東信越グループから実家のある九州に異動、大分中央看護学校に着任しました。当初、鉄輪経由での通勤途中、あちこちから立ち昇る湯けむりに感動し、写真撮影したことを思い出します。また、その年の5月「平成」から「令和」に時代が変わり、私にとっては新しい時代、新しい環境での勤務となりました。

2019年10月厚労省の看護基礎教育検討会にて、第5次カリキュラム改正の概要および2022年度入学生から適用されること が示されました。研修会参加、教員間での学習会を開催するなど少しずつではありましたが準備を進めていきました。

そのような中、2020年1月日本で初めて新型コロナウイルス感染症の患者が確認され、以降、授業や実習、行事の開催など 全てにおいて変更を余儀なくされました。しかし、矢野学校長先生の助言を受けながら感染対策を厳重におこなった結果、ク ラスターをおこすことなく、最後まで対面授業を実施することができました。

また、2020年入学した31回生は98名と定員を大きく上回る人数のため、感染対策として、学生は3年間の大半の授業を体 育館で受けました。夏は業務用扇風機、冬はストーブを使用しましたが温度調節が十分ではなく、申し訳なく思っています。さらに、 コロナ禍で外部実習施設の受け入れが難しい中、98名の学生の実習場を確保することにも大変苦労しました。当校は別府医療 センターをはじめ実習施設の皆様のご協力により、可能な限り臨地実習をすることができました。看護師になるためには国家試験 に合格するための知識はもちろんのこと、看護実践力やコミュニケーション力などが求められ、臨地で患者さんと家族、指導者、 学生同士で関わる事により多くのことを学ぶということを再認識しました。

当校はこれまで70年以上に渡り看護師を養成し地域に貢献してきました。時代の流れとはいえ、伝統ある当校が閉校すること となり、とても寂しく感じています。以前に比べ、学生達の生活や考え方などは大きく変化していますが、看護観は変わらず、「寄 り添う」「患者の立場」「ニーズを満たす」「その人らしさ」などのキーワードが目立ちます。卒業後はそれぞれの看護観を臨床の場 でさらに発展させていただきたいと願っています。

最後になりますが、これまで看護師養成にご支援いただきました多くの関係者の皆様に改めて感謝するとともに、関係者の皆 様、卒業生の皆様のご活躍を心より祈念いたします。

## 看護のこころ

教育主事 村上 由紀

令和4年度～令和6年度

「別府医療センター附属大分中央看護学校が閉校する?」、関係各位の皆様誰しもが驚かれたことだろう。

私は9年間、長崎や福岡の教育現場で教員として、学生と共に看護を学び、NHO附属看護学校を卒業した学生の成長を見てきた。

その後、グループや行政への出向等で5年が経過、その後の異動先は国立病院機構本部であり、一番の役割は附属養成所 の運営方針に係ることであった。

全国の看護師養成所において入学者数が増加傾向の中、大学は定員充足、高い水準の卒業率である一方、3年課程養成 所は定員未充足、卒業率90%を下回り、学生確保は大学が優位に立っている。2040年を見据えた若年人口の減少等も踏まえ るとさらに学生確保は困難となる。こういった現実を目の当たりにしたのである。

NHOは人口減少基調において「看護師養成は他設置主体と連携強化し、多様な人材確保と採用後の育成」に力点を置くとい う方向性となり、附属養成所の運営方針の検討がなされていった。

そんな中、「別府医療センター附属大分中央看護学校が閉校!？」当時の矢野篤次郎学校長が決断されたのである。私は九 州内の看護学校で大型校として存続するものと思っていたため、大変驚いたのを覚えている。

そして1年後、私の異動先は「別府医療センター附属大分中央看護学校」。これは大変重要な役割をいただいたと身の引き締 まる思いとなった。学生はもちろん教職員全員が、「看護を学ぶ楽しさ、看護をする喜びを感じ、今、この学校にいてよかった!」 と思えるようにすることが私に課せられた役割だと思い、東京を後にし別府に向かったのである。

赴任後間もなく、最後の入学生の入学式が挙行された。「愛とまことと看護のこころを♪」

当校の校歌の1フレーズである。作詞は、「看護師の仕事ぶり、患者さんからの言葉」をもとに、作曲は「看護の仕事は人間の様々 な面に対する深い理解やそれを受け入れる大きな愛情であり、そういった未知の大きな仕事の世界に入っていくとき、そこには静 かだけど強い覚悟の感情が流れている」という思いで作られています。(10周年記念誌より一部引用)

学生は講義で基礎知識を学び、多くの実習施設で看護を学ぶ。実習施設は病院のみならず行政や訪問看護ステーションと多 岐にわたる。そこで多くの卒業生が、大分中央看護学校で学んだ「看護のこころ」を大切にしながら活躍されているのを見ると、 閉校するのが本当に寂しい気持ちになる。しかしながら、今後学校の形は変われど、別府医療センターや大分県内への看護職 員の輩出は引き継がれていく。「看護のこころ」も未来永遠に引き継がれていくことだろう。



## 閉校に寄せて

---

教員 杉安 久美

平成25年度～令和6年度

私は平成11年にこの大分中央看護学校に入学し看護学生としての3年間を過ごしました。平成25年からは教員として長い期間、勤務をさせていただき、看護師人生の中でも学校で過ごした時間は大変貴重な時間となりました。

母校での教員としてのスタートは、嬉しい気持ちより不安な気持ちが大きいままで迎えたことを今でも覚えています。のちに、学生時代の恩師とともに仕事をするようになった時のドキドキ感も忘れられません。講義の展開や学生とのかかわり方に悩み、先輩に助言をもらったり、時には同期と冗談を言い合いながら笑いあったりと多くの方々に支えられ、助けられ、教員としての生活を送ることができたことに深く感謝申し上げます。

在籍中に多くの学生に出会い、学生に教えられたこともたくさんあります。“患者さんに今必要なことは何なのか?”と真剣に悩み、実施した看護の効果に喜ぶ姿をみて、改めて看護の素晴らしさを感じることができました。看護師を目指したころは自分が教育の場にいることは予想もしていなかったのですが、看護の基礎を学んだこの場所で、看護教育に携わることができたことを嬉しく思います。閉校を迎えることはとても残念ですが、私の看護の原点となった大分中央看護学校に深く感謝いたします。

## 多くの出会いと学びを与えてくれた学校に感謝を込めて

---

教員 野中 智恵

平成25年度～令和6年度

2013年より大分中央看護学校へ入職し11年間の経ちました。母校へ就職し、閉校まで勤めることができ、とても感慨深いものがあります。閉校を迎えると聴いた時、とても寂しく感じました。しかし、胸を高鳴らせながら入職したことを今の様に思い出します。

専門領域は、母性看護学ですが、成人・老年・在宅・小児領域と担当させていただき、今までの臨床で経験した以上の学びを深めることができました。さらに、上司、先輩、同期、後輩にも恵まれ、多くの方々のご指導とご支援をいただきましたことを心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルスが蔓延した2020年からの未曾有のパンデミックの影響で、今までの教育環境が全く変わりました。対面での講義となるよう学校長をはじめ多くの方々と検討し、体育館を活用しての講義も行いました。空調設備はなく、夏は暑く、冬は寒く、学生は忍耐強く講義を受けていました。当たり前である環境のありがたさを噛みしめることのできる時期でした。

11年間という期間を母校である教育機関で関わることができ、誠にありがとうございます。最後になりましたが、皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

## 閉校に寄せて

---

教員 大道 真理

平成28年度～令和6年度

平成28年から閉校までの8年間、別府医療センター附属大分中央看護学校に勤務させていただきました。教員として勤務した年数は、災害や感染症流行への対応など、看護教員としての役割以外にも多くの経験をさせていただいた期間でした。また、8年間を通して、学生が3年間の中で、講義や臨地実習、学校祭などの特別教育活動を経て成長していく姿や卒業後に母体病院である別府医療センター等で働く姿を見ることができたのは、教員として楽しみでした。そのように成長する学生の姿を見、その学生を支援していくことが私にとって、大きな責任であり、やりがいでもあったと思います。閉校として節目を迎えますが、ここで学んだことを糧に、私も前に進んで行きたいと思います。最後に、これからの皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

## コロナと閉校への5年間

教員 平川 真紀

令和2年度～令和6年度

他校で、教員として閉校を経験し、いずれは大分中央看護学校も閉校になるのだろうかと思案と考案したことが現実となったのですが、母校の閉校に教員として関わることになるとは思っていませんでした。

コロナ元年に大分中央看護学校に配置換えになりました。入学式は、学校長の入学許可のみで、新入生と教員だけの式に、これからどうなるのだろうか、これまでの教員としての経験は生かされるのだろうかと不安に感じました。学生たちは、充実した学生生活とは程遠い状況にありましたが、さすが医療看護を目指した学生だけあり、現実を受け入れ、自分たちにできることを粛々と行っていました。臨地実習の機会が制限されたことで、学内でリアルな実践を少しでも経験できるように教員間で検討を重ね、学生に実習の機会を提供しました。今では懐かしい思い出…と言いたいところですが、大変だったという思いだけで、細かい出来事は思い出せません。それだけ必死だったのだろうと思います。その年の年度末に、閉校になることが発表されました。さみしさもありますが、多くの同窓生が活躍していることを見聞きし、私たちがここで学んだスピリッツは生き続けるのだなと思います。

## 出発点

教員 田尻 朝恵

令和2年度～令和6年度

教員研修を終え、私の教員としてのスタートは大分中央看護学校から始まりました。異動した時期はコロナウイルス感染症の流行初期で、講義・演習は3密を避けての実施、臨地実習は全て中止となっており、教員として右も左もわからない私は本当に不安で一杯でした。初めての講義は声も手も震えとてもひどいものでしたが、入学したばかりの1年生たちはそんな私の講義でも一生懸命に学ぼうと、真剣な眼差しを向けてくれました。コロナ禍で、学生たちはたくさんのことが制限され、とても大変だったと思います。しかしそのような環境の中でも、看護を志し、切磋琢磨する学生から多くのことを学ばせてもらいました。実習指導先の様々な場所で、看護師として立派に働く卒業生を見ることができたときは、教員になって良かったと思う瞬間です。

学生にとっては看護師としての出発点、私にとっては教員としての出発点である別府医療センター附属大分中央看護学校は閉校となりますが、ここで素晴らしい学生たち、教員の方々と出会い、共に学び合えたことは、私の教員としての貴重な財産です。多くのことを学ばせていただいたことに感謝申し上げます。

## 私の大分での4年間

教員 高木 雅弘

令和3年度～令和6年度

私が大分中央看護学校に赴任した日に、副学校長より閉校の説明がありました。前任の鹿児島校も閉校が決まり動き始めていたため、「ここも閉校なのか」と驚いた記憶があります。

実は私が勤務した学校はどこも閉校してしまい、残っている学校はひとつもありません。

4年間、大分中央看護学校で勤務しましたが、1～2年目は丁度コロナ禍であり、学内実習になることも度々でした。学生の看護実践のため、患者や療養者役を演じることがありましたが、リアルに演じることはできず、今考えてみると非常に申し訳なかったです。新型コロナウイルスが、感染症法上5類に移行したことで、学内実習になることもなくなりました。臨地実習で学ばせてもらえるありがたさをしみじみと感じた4年間でした。

個人的には、はじめて地域・在宅看護論の担当となり、地域で暮らす人々の支援を学ばせていただきました。実習指導のため日出町・杵築市、臼杵市や湯布院町、大分市まであちこち飛びまわり、毎日疲労困憊でしたが、学ぶことが多く非常に充実した日々でした。おかげで大分にだいぶ詳しくなりましたよ。

最後に、これまで本校の看護教育にご協力いただいた、たくさんの方々へこころより感謝いたします。



## 閉校に寄せて

---

教員 山田 祐子

令和3年度～令和6年度

私は4年間、この大分中央でお世話になりました。平成29年まで教員をしておりましたが、その後4年間は師長として勤務しておりました。前回学校から臨床へ異動になる際には、「私の教員人生もここまで、全てやり切った」と、感慨深い気持ちでおりましたので、前任で「別府へ教員で異動」という人事を受けた際には、正直申し上げまして「私の教員のスキルも熱意も全て出し切ったのに…今からまた、できるか?」という気持ちでした。ですが、これも与えられた使命と、意気揚々別府にやって参りました。私は、お世辞にも優しい教員とは言い難いタイプですので、生徒の皆さんには随分恐れられていたかもしれませんね。ですがこの4年間は、学生の皆さん、そして先生方にも随分助けて頂きながら充実した教員生活を楽しく送ってまいりました。今はこの閉校の節目に、大分中央にいられることを誇らしく思います。卒業生の皆さん、お元気で頑張っていっていらっしゃいますか?おそらく、私の教員人生もこれまででしょうから(ホント?)今度は臨床で、皆さんと一緒に日本の看護を「しょって」いきたいと楽しみにしております。また、どこかでお会いしましょう!大分中央卒業生に幸あれ!!別府医療万歳!!

## 閉校に寄せて

---

教員 寺川 孝枝

令和4年度～令和6年度

私は大分中央看護学校の前身である国立別府病院附属看護学校を卒業し、国立別府病院(平成16年より別府医療センター)、大分医療センター、佐賀病院で勤務し、大分中央看護学校で令和4年4月から教員として勤務させていただきました。臨床で働いていた時に教育に興味はありましたが、子育てをしながらであり、子育てが落ち着いたところで教員養成講習を受け、高年齢の新人教員として3年前に大分中央看護学校に着任しました。

3年前、学校に着任した時は、高校を卒業したばかりで看護師になる夢を抱いた1年生(33回生)、基礎の授業を終えた2年生(32回生)、領域別実習を控えて緊張感を持った3年生(31回生)に出会い、若いキラキラした学生に毎日元気をもらったと感じます。

3年間、私は教員としては未熟で、学生、指導していただいた教育主事、先輩教員、臨床指導者の皆様にはご迷惑ばかりおかけして閉校を迎えることとなり大変申し訳なく思います。

大分中央看護学校の最後の3年間に勤務でき、とても大きな学びを得ることができ幸せでした。今後の大分中央看護学校の卒業生の皆様、お世話になった関係各所の皆様のご健勝をお祈りしています。



# 各回生の思い出

写真は卒業アルバム等より引用しています

## 1回生



## 閉校に寄せて

河野 康子(旧姓：佐藤)

私が看護学校3年生の時、真新しい白い校舎に移動し、国立別府病院附属看護学校と西別府病院附属看護学校が合併し、大分中央看護学校1期生となりました。よき仲間が増え88名の学生と学び舎を共にした事は、人生の中で貴重で充実した時を過ごさせて頂きました。病院周辺は、今のような住宅地ではなく蓮根畑が広がり春は桜の木がピンク色に、秋は銀杏の木の葉が黄金に彩り、病院への実習には四季を感じながら長い渡り廊下を通ったものです。入寮時は4人部屋の寮から、一人部屋に移り新しく自分一人の部屋が出来た事の喜びと何となく寂しい思いをした日が甞ります。私達が学生の頃と比べると時代は変化していますが看護の本質は今も昔も変わらない様に思います。諸先輩方の築いてきた歴史を大事にして今後の看護の未来を創造し、心豊かでしなやかな人間形成が構築されることを願い記念の言葉とさせていただきます。

## 閉校に寄せて

渡邊 美穂(旧姓：稲垣)

平成6年の卒業からいつの間にか月日は流れ、当院にあんなに大勢いたはずの大分中央看護学校の同期、先輩方は、すっかり少なくなりました。いつか先輩がひとりもいなくなる日が来るのだろうかと思案と考えることはありましたが、まさかの母校の閉校。これも時代の流れだと受け止めることはできましたが、これからは同じ校訓の元で学んだ後輩が新人看護師として当院に来ることもなくなるのだと思うと、やはり寂しさも募ります。

共に学び、楽しい日々を過ごしながらも、時には衝突さえした仲間たち。厳しくも頼れる指導で私達を看護師として育ててくれた先生方や先輩方。そんな方々との縁を紡いでくれた、我が母校・大分中央看護学校。本当にありがとうございました。

## 2回生





## 3回生



## 感謝

瀬戸口 かすみ(旧姓:木下)

親元を離れ知り合いもない別府に進学したのは32年前のことでした。103名の仲間とスタートした学校生活は、楽しいものでした。よく居眠りをしていた90分の授業、何度も練習したベッドメイキング、寮の温泉と友達との会話に癒され厳しくも優しい先生達の指導。看護師になった今でもあの頃の先生達の言葉や表情を折に触れて思い出します。なかでも記憶に残るのは1年の初めに言われた「あなたたちはこれから『看護学』を学ぶということ。看護は医学などと一緒で学問であるということ。科学的根拠を持って行動することを教わりました。その結果が今日の看護に生かされていると感謝しています。この看護学校の卒業生であることに誇りを持ちこれからも頑張っていこうと思います。本当にありがとうございました。

## 閉校に寄せて

大川 祐美

1993年、大分中央看護学校に合格した日、高校の担任の先生が声を上げて喜んでくれたことをよく覚えています。世間では米米CLUBの「浪漫飛行」が流れていました。あれから30年の月日が経とうとしていますが、学生時代励まし合った同級生達と今でも友達関係が続いていることは、私にとって財産です。看護技術演習で恐る恐る友達のお尻に筋肉注射したこと、ベッドメイキングの看護技術テストのために放課後に残って皆で練習したこと、ファミレスのバイトも頑張ったことなど、思い出は尽きません。看護学校での数々の経験が、全て今に繋がっています。温かく育てて下さった看護学校には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

## 4回生





## 5回生



## 閉校に寄せて

大田尾 雅也

私が入学した当時、他の男子学生が1人もおらず驚き戸惑った記憶があります。先生方にも初の男子学生ということで気を配っていただき、苦労をおかけしたと思います。また、私が最初で最後となった船のようなナースキャップやみんなとは別室で人形と2人で実技練習をしたのもいい思い出です。同級生のみんなも優しく、でもたまに私が男性ということを忘れてる?ということがあったりと、とても楽しく充実した3年間でした。次年度以降には男性の後輩もでき、本当に出逢いに恵まれていたと思います。私は先生方、同級生、先輩方、実習先の看護師の方、多くの方達にお世話になり支えられて今の自分があります。この場を借りて心から感謝申し上げます。また、閉校となってしまったことはさびしいですが、下を向かずに第5回生としての誇りを持ってこれからも頑張っていきたいと思っています。

## 看護学校の思い出

渡邊 明子(旧姓:杉田)

看護学校の思い出として思い出すのは、循環器疾患の患者様を受け持った時の佐保美恵子先生の言葉です。複雑な循環動態を図解で分かりやすく「体は繋がっているのよ」と説明してくださり、その時感じた理解するという感動を今でも覚えています。その後、母となり2024年に第32回生として娘が卒業し働き始めました。娘の在学中は同級生2名の先生にご指導頂け、とても安心してお任せすることができました。ありがとうございました。今まで看護で得た感動をこれから羽ばたく娘に伝え、これからも自身の看護を高められるよう努めて参りたいと思います。

## 6回生





## 7回生



## 看護実習の思い出

迫部 恵美

実習で苦しんだのは毎日のカンファレンステーマだ。ある日誰かが、レモン水での含嗽が爽快感をもたらすというケアに対し「そんなオシャレなものはない!」と言いだした。レモン=オシャレの共通認識に、私達は団結した。ついでに郷土愛を爆発させた私達は、レモン水、イソジン水などに加え、カボス水でひたすら含嗽し、含嗽水No.1を決定するというカンファレンスを実行した。若気の至りだ。私達の素朴な疑問と意欲を否定せず、よくご指導いただいたと思う。全く看護師志望のなかった私だが、その後は救急看護の道へ進み、ドクターヘリでの実務や災害派遣などにも従事している。看護師として、少しでも社会貢献できたとすれば、看護の基礎を培い根気強く指導いただいた先生方、学校および現場の諸先輩方、そして苦楽を共にした同期生達のおかげだと思う。

## 閉校に寄せて

三田村 美雪(旧姓:東)

私は第8回生として入学し、卒業して24年になりますが、看護師として働く中で、看護学校で学んだことが全て基盤となっていることは言うまでもありません。学生時代は、学習と実習のレポートに追われ看護について考える心の余裕は正直ありませんでした。しかし、看護師として働く中で、看護とはなにか、看護師の役割は何かを考えたとき、看護学校で学んだこと・経験したことを思い出します。時代が変化し、看護の在り方が変化する中でも、看護の心は変わらずに在り続けているのは、基礎学習の大切さを繰り返し教えてくださった先生方のおかげです。閉校においては残念な思いがありますが、関係各位のさらなる発展、皆様のご活躍を祈念し、感謝の意とさせていただきます。

## 8回生



## 9回生



## 閉校に寄せて

長田 彩加

とても昔に卒業した看護学校ですが、私にとっては特別な場所でした。特に思い出深いのは戴帽式で、厳粛な雰囲気の中かで初めてナースキャップを受け取った瞬間は、今でも鮮明に覚えています。

実習は厳しくつらかったのですが、仲間たちとともに過ごした日々は、笑いあり、涙ありの貴重な時間でした。

閉校の知らせを聞いて、あの教室や実習室をもう訪れることはできないことに寂しさを感じますが、そこで学んだ知識と経験は私の看護師としての基盤となっています。

私の人生を豊かなものにして  
るのは、大分中央看護学校で  
の出会いや学びです。

穴見 奈々(旧姓：佐藤)

歴史と伝統ある母校が閉校を迎えることになり、大変寂しく思います。初めての寮生活、初めてのナースキャップ、緊張と準備に追われた病院実習、たくさんの初めてや学びが詰まった場所です。まじめで静かなAクラス、個性的でにぎやかなBクラスの10回生ですが、今では師長、副師長、認定・専門看護師、養護教諭、助産師、保健師と県内外様々な場で活躍しています。ここでの仲間は今でも励まし、勇気づけ、奮い立たせてくれます。キャリアモデルとなる先生方もいます。当時大学院で学ぶ恩師の姿に憧れ、私も仕事をしながらその夢を実現しました。間違いなく、私の人生を豊かなものにしてくれる人々と出会えた場所でもあります。10回生のみんな、「大分中央卒らしいよ、さすがよね」と言われる看護職で今後も社会に貢献しましょう！

## 10回生





## 11回生



## 感謝

阿南 真奈美(旧姓：亀井)

このたび、大分中央看護学校が閉校することとなり、とても寂しい気持ちでいっぱいです。また、同時に、当時の看護学校生活を懐かしく思い出します。当時私は、高校まで両親の仕事で東京に住んでおりましたが、大分の祖父母のもとを度々訪れるうちに大分の魅力に惹かれ、また祖母の病気が看護師を志すきっかけにもなり、大分中央看護学校に入学する運びとなりました。知らない土地での生活が不安でしたが、同級生たちは皆素直で優しく、楽しい看護学校生活を過ごすことができました。また、今でも同級生とはつながりがあり、一生の財産です。先生方のご指導もすばらしく、本校で学べた事は本当に幸せだったと思います。本当にありがとうございました。

## 閉校に寄せて

肥塚 暁子(旧姓：野鶴)

本校に入学してから、20年以上の年月が過ぎました。

月日は瞬く間に過ぎましたが、学生時代の思い出は写真でその瞬間を切り取ったように鮮明に残っています。

なにより忘れられないのは、臨床実習です。実習の日々は、実技の練習とレポートに追われていたように思います。学生の自分では患者様に何もして差し上げられることがなく、担当教官を前に「どうしたらいいんですか…」と涙したこともありました。

ご指導いただいた先生方は、本気で叱り一緒に涙してくれる、優しく、厳しく、そしてハートの熱い方ばかりでした。臨床の場で当時の教官に会うと、心は学生に戻ってしまい、少しの緊張と大きな嬉しさに包まれます。私の学生生活は人に恵まれたものでした。

閉校になることに寂しさを感じていますが、諸先生方、患者様、仲間達、多くの方々との出会いによりここまで導いてくださったと感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

## 12回生





## 13回生



## 実習はキツかった

城臺 つかさ(旧姓：清家)

看護学校を卒業してから約20年。閉校の知らせを聞いたときはびっくりでした。

卒業後、別府医療センターで働き、学生係や葉月会役員をやることで看護学校とはうっすらお付き合いが続いていました。学生の時は陰キャで(今も変わらないけど)、卒業後も母校と関わることがあるなんて思いもしませんでした。

今回、閉校記念誌に執筆の機会を頂きましたが、こういうのって学生時代にリーダーシップあってしっかりした人がするものだと思ってました。13回生の皆、私のこと覚えてるー???正直、看護学校時代の記憶なんて実習キツかった以外ありません。それでも母校が閉校してしまうのは寂しいですね。

卒業後も母校と関わることができたのは良かったです。ありがとうございました。

## 学生生活から得たもの

村山 圭美

私は大分中央看護学校の14回生です。約20年前に入学し、病態生理や看護技術などを学びました。はじめは「こんなことを学ぶんだ」と思い授業を受けていました。しかし、臨地実習を経験することで、提供する看護ケアには意味(根拠)があり、そのために病態生理や基礎を学ぶ必要があったと気づきました。看護師は医師ではないので病気を治すことはできません。しかし、患者さんのこれからの病気の経過や生活を予測し、看護ケアを提供することで、患者さんの意志を尊重し、生活を豊かにする関わりができます。それが「看護の醍醐味」であることを、今の私が学生生活の学びから導き出した答えです。3年間学んだ看護学校が閉校することはとても寂しく思います。この3年間の学びや抱いた看護への思いを胸にこれからも看護師人生を歩みたいと思います。

## 14回生





## 15回生



## Passion !

大山 泰幸

看護学校の思い出の中で、忘れられないエピソードが2つあります。

1つ目は、「導尿の実技試験」です。入学してすぐ男子学生の先輩に「導尿は自分達がモデルとなり、実際にカテーテルを入れるのだ!」と騙され(実際はモデル人形)、「これは真剣にやらねば!」と思い必死に練習しました。その甲斐もあり難易度の高い導尿の実技試験は『100点』、今でも自慢の話です。

2つ目は、学校祭です。テーマを「Passion」とし、パラリンピック競泳選手の成田真由美氏を講演に招聘したり、食品販売充実のためモスバーガーやミスタードーナツを新たに取り入れるトライをしました。クラスメイトそれぞれが【情熱】をもって役割を発揮し、大盛況だったことを覚えています。

看護学校の閉校は寂しい限りですが、学びと思い出は忘れることはありません。多くの先生・先輩方よりご教授頂いたことに感謝すると共に、この先、後輩達の活躍が見られることを嬉しく思います。

大分中央看護学校の  
閉校に寄せて

平嶋 奨悟

この度大分中央看護学校の閉校記念誌のご依頼を頂き、学生時代を思い起こす事が出来た事を大変嬉しく思います。

私は16回生として大分中央看護学校に入学し学校生活を送りました。勉強・実習の課題を仲間たちと共に、眠気と闘いながら乗り越え、学校行事や部活動などの様々な活動を通してかけがえのない友人ができました。大分中央看護学校で過ごした3年間は私たちの大きな財産となっています。

最後になりますが、地域に貢献する看護師養成に取り組まれた歴史と伝統に心より敬意を表しますとともに、先生方をはじめ学校関係者の皆様には沢山のご指導を頂いたこと感謝申し上げます。

## 16回生





## 17回生



## 閉校に寄せて

桑野 未来(旧姓:仁尾)

入学した頃は勉強に向き合う毎日に必死でした。そんな毎日過ごす中で私を大きく成長させてくれたのは実習でした。実習ではいろんな患者様を受け持たせていただき、学校の先生や臨床看護師の方々に指導をしていただき、たくさんのことを学びました。

そして、17回生の仲間に出会えたこともかけがえない財産となりました。ただ優しく声を掛け合うのではなく、時には意見をぶつけあったり、話を聞いてくれたり一緒に悩んでくれたり、お互いを高め合うことのできる仲間の存在があったからこそ頑張ることができたと思います。

大分中央看護学校で過ごした3年間は様々なことを学び、とても充実した時間でした。そのような時間を過ごせたことに深く感謝いたします。

## 閉校に寄せて

宮原 有佳子(旧姓:楠本)

看護学校の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。助産師学校の入学試験前や国家試験前には、上手く学習が進まず悩んだこともありましたが、私が何度質問しても先生方は優しく時に厳しく指導を下さいました。そのおかげで助産師としての今があります。本当にありがとうございました。

18回生のみんなへ。3年間の看護の勉強と実習の厳しさには何度も挫けそうになりましたが、実習グループのみんなと励まし合いながら乗り越えた日々は私にとって大きな財産となりました。一緒に頑張った仲間達は、今でも看護を語ることの出来る最高の友人です。大分中央看護学校が閉校を迎えると知り寂しさを感じていますが、3年間で得た思い出を胸にこれからも頑張っていけます。

## 18回生





## 19回生



## 閉校に寄せて

秋好 美希

このたび看護学校が33年間の歴史に幕を閉じ、閉校することに寂しさを感じております。私は19回生であり平成23年3月に卒業、別府医療センターに就職しました。こうして今現在も、看護の道が続けることができているのは、看護学生時代に温かくご指導して下さった学校の先生方、附属病院の皆様のおかげであり、深く感謝しております。また19回生の仲間の存在はとて大きく、ともに看護師という夢に向かって3年間過ごした日々はかけがえのないものとなりました。

閉校とはなりますが、看護学校で学んだ看護の基本を大切に、看護の質の向上に努めていきたいと思っております。

本当にありがとうございました。

## 閉校に寄せて

房前 友香里(旧姓：橋本)

このたび、大分中央看護学校が長い歴史に幕を閉じることとなり、母校が閉校することの寂しさを感じています。入学当初は看護師になりたい思いはあまり強く持っていないままでした。しかし看護を学ぶ中で看護の深さ、実習では患者様との関わりの大切さ、看護のすばらしさを学び看護師になるという思いが強くなりました。同じ20回生の仲間や先生方の力もお借りして無事卒業し、国家試験に合格できました。そして今、看護を続けることができているのは、何より看護のスタートであった看護基礎教育を学ぶ良い環境で、時に厳しく、時に温かく、ご指導ご支援下さった看護学校があったからだと思っています。大分中央看護学校の卒業生という誇りを持ち、今後もよりよい看護が提供できるよう努力していきたいです。

## 20回生





## 21回生



## 閉校に寄せて

佐藤 有紗美(旧姓：矢野)

大分中央看護学校に入学し、同じ目標を持つ友人と講義を受け、お互いに切磋琢磨しながら日々を過ごしました。臨床実習では、受け持ち患者様の病態理解やレポート作成などに毎日必死でしたが、1人ひとりの患者様と向き合うことで患者様にとって“必要な看護は何か”を意識するようになりました。それは、今でも自分が看護を提供する上で必ず考える事柄の1つとなっており、実習での経験は貴重なものであったと感じています。

国家試験の前は不安と焦りで押し潰されそうでしたが、先生方と友人のおかげで乗り越えることができました。充実した3年間で過ごすことができ、心から感謝しています。

## 看護学校の思い出

櫻井 優

私は平成23年から26年まで在校していました22回生の生徒です。学校を卒業し10年以上がたった今、閉校という話を聞き寂しい気持ちでいっぱいです。当時を思い出すと多くの楽しい思い出や辛かった思い出が多くあります。学校では生涯の友達ができ、今でもなお一緒に遊んだり相談しあったりとお互い切磋琢磨しあう関係が続いています。また辛かった思い出では、滅菌手袋装着技術確認を思い出します。練習では想定していなかったエアコンの冷風が滅菌手袋の外袋にあたり、外袋が閉じてしまい汚染判定となったことを気づかず進めたことで再確認となり、当時とても悔やみました。しかし、そのことも今では笑い話です。これまで沢山の思い出ありがとうございました。

## 22回生





## 23回生



## 閉校に寄せて

河野 涼

私が大分中央看護学校へ入学したのは平成24年。佐伯市の高等学校を卒業し、別府へ転居してきた私を温かく迎え入れて下さったのは、新たな母校での出逢いでした。入学後は座学と実技演習に勤しみつつも、軽音部を設立し学校祭でギター演奏をするなど、とても充実した学生生活を過ごしたことが10年以上経過した今でも鮮明に思い出されます。大分中央看護学校にて経験した全てのことが、看護師としての現在の私を創ってくれていると言っても過言ではありません。今後も大分中央看護学校の卒業生全員が素晴らしい看護を行い、そして新たな看護師を育成し、母校で学んだ「看護のこころ」が永遠に繋がっていくことを心より願っております。

## 閉校に寄せて

須川 都香咲(旧姓：安達)

看護学校での3年間は特別な思い出が詰まった時間でした。母校が閉校になるという知らせを聞いた時、寂しい思いでした。初めは専門用語に戸惑い、授業についていくのが精一杯の日々でしたが、同じ夢を追いかける仲間たちと共に励まし合いながら過ごしました。校舎には実習室があり、実技試験に向けて仲間たちと技術練習をしたことを今でも鮮明に覚えています。日々のレポートや授業の振り返りなど、辛いと思うこともありましたが指導してくださった先生方の熱心な指導や仲間の支えが私の成長を後押ししてくれました。学び舎である校舎にも深い感謝の気持ちを抱いています。数々の学びと出会いがこの校舎で紡がれ、いつも私たちを温かく見守ってくれたことに、心からの感謝を捧げたいと思います。ありがとうございました。

## 24回生





## 25回生



## 閉校に寄せて

田邊 佳奈(旧姓：大塚)

看護学生時代、一番記憶に残っているのは3年次の実習です。1クール終わったらまた次のクールと、毎日寝る時間を割いて看護記録と向き合っていたことを思い出します。25回生は人数が多く、その分辛い時を支えあえる仲間が多かったので、とても心強かったです。看護学校ではかけがえのない仲間がたくさん出来ました。同じ職場で一緒に働いていたり、職場は違っても連絡を取り合ったり。私の中でとても大きな存在だと感じます。大分中央看護学校に入り、たくさんのことを学び、今こうして看護師として働いていることを嬉しく思います。母校の閉校は寂しいですが、大分中央看護学校で学んだことをこれからも活かし、今後も頑張っていきたいと思います。

## 看護学校の思い出

阿部 紗苗(旧姓：山口)

看護学校で過ごした3年間はとても充実した日々でした。先日卒業以来久しぶりに母校に訪問しましたが、学校に入った瞬間に学生時代の様々な情景が蘇りました。技術試験に向けて友人と看護技術の練習に励んだり、実習が続き寝不足で昼休みに椅子を並べて仮眠したり、国家試験の模擬試験の成績が悪くクリスマスも返上で学校で補講を受けたり…。看護学校で過ごした日々は決して楽しいことばかりではありませんでしたが、辛い時や苦しい時はいつも友人と助けあい乗り越えていきました。自分の母校が閉校するお話を伺った時は本当に寂しい気持ちになりました。でも私たち卒業生の思い出はずっと心の中にあるので、その思い出を胸にこれからも頑張っていきたいです。

## 26回生





## 27回生



## 看護学校の思い出

上村 真利亜

看護学校3年間、心身ともにきつくなることもありました。テスト前は連日夜中まで勉強して、実習期間中は、色んなことを我慢して記録に追われる日々でした。この生活から抜け出したいと思うこともありました。ですが、友人や実習グループのみんなと励ましあって、一緒に乗り越えることができました。つらい時を一緒に過ごしたからこそ今でも一緒に旅行に行ったり、昔のようにふざけあって遊べる大切な存在です。そんな友人に出会えたのは、この学校のおかげです。また、今は中学生からの夢を叶え助産師として働いています。生命の誕生や家族のぬくもりに触れ、仕事のやりがいになっています。閉校してしまうのは寂しいですが、看護学校で学んだ多くのことを生かしていきます。お世話になりました。

## 閉校に寄せて

宮脇 仁美

看護学校での3年間は勉強や看護実習、行事ごとと、様々なことに取り組み、とても有意義な時間でした。

日々の講義では、看護学校の先生方や外部の講師の方からの貴重な講義、時には外部にて見学やその実際を学ぶことができました。2年生の終わりから始まった看護実習では、大変なことも多く、しんどいと思うこともありましたが、同じ実習メンバーと支えあい、励ましあう日々でした。

同じ学年の友達とは、勉強や実習で助け合うことも多く、中には今でも付き合いのある友達もおり、本当に感謝しています。

## 28回生





## 29 回生



## 学生時代の思い出

久保 映里奈

看護学校での3年間は私の人生の中でとても濃い3年間でした。学生時代の思い出は実習、寮生活です。受け持つ患者さんの疾患を理解しようと勉強し、必要な看護は何かを考え遅くまで勉強していたのを昨日のことに思い出します。

3年時は10クールの実習が終われば国試まっしぐらで心身ともにきつかったです。寮の中央ホールで遅くまで一緒に勉強してくれる友達、いつでも親身に相談に乗ってくれる先生方がいたからこそ実習、国試を乗り越え今看護師として働いていると思っています。

閉校にあたり、実習に来る学生の青い実習服を見られなくなるのは寂しさを感じます。時には学生時代の写真やアルバムを見返して初心を思い出し、今後も看護師として働いていきたいです。

## 閉校に寄せて

平井 美羽

今回は、別府医療センター附属大分中央看護学校の最後を飾る記念誌に掲載していただける貴重な機会をいただき、感謝申し上げます。記念誌のお話をいただき30回生として過ごした3年間で振り返りました。

3年間で振り返り1番に思い浮かぶのは友人と過ごした日々です。毎日の授業、きつくて大変だった実習、不安だった国家試験。どの場面にも友人がいました。夜遅くまでみんなで集まって勉強をしたこともあります。ひとりでは乗り越えられなかったことも友人がいたから乗り越えることができました。

また卒業後も看護学校に行くことがあり、その時は先生方が温かく迎えてくれたたくさん話を聞いてくれました。心の拠り所だった学校がなくなるのは寂しいです。

看護師になりたいという小さいころからの夢を叶えてくれた大分中央看護学校。

ありがとうございました。

## 30 回生





## 31回生



## 閉校に寄せて

工藤 葵香

大分中央看護学校を卒業してから早一年が経過しました。私たち31回生は新型コロナウイルス感染症が蔓延し始めた時期に入学し、看護師としての一步を踏み出しました。標準予防策や三密の回避など感染対策を徹底していくなかで看護師になることの重みを感じたのは今でも記憶に残っています。31回生は98名と人数が他学年よりも多く、密回避のために3年間の大半を体育館で過ごしました。今でも同級生とあの場所で授業を受け、国試に向けて切磋琢磨したことはすごいと褒め合うこともあります。臨地実習や学校祭などコロナで制限されることも多々ありましたが、先生方のご尽力と各学生の協力によって乗り越えることができました。看護学校は閉校となりますが、ここで培ったものを糧に精進して参ります。

## 閉校に寄せて

野田 紗更

私は4月から実習でお世話になった病院に勤務しています。現在は新人看護師として、先輩看護師から指導を受け多くのことを学び、同期と切磋琢磨しながら日々を送っています。看護学校での3年間は、長いようであつという間に過ぎました。課題や技術演習、実習など楽な道のりではありませんが、すべてをやり遂げたあとは看護師として、人として成長したという達成感がありました。学校生活の最初は慣れない環境、コロナ禍ということもあり不安な日もありましたが、先生方や先輩方の熱心な指導や相談相手になってくださったりと多くの支えがあり、3年間を乗り越えられたと思います。また、同じ目標を持った個性豊かな仲間と助け合い、大変ながらも楽しい学校生活を送ることができました。閉校は寂しくなりますが、看護学校での思い出を忘れず、これからも看護師として頑張っていきたいと思います。

## 32回生





## 33回生



## 閉校にあたって

黒河 麻里

私たちは閉校が決定していることがわかっている状態で入学した学年です。入学式や誓いの式、学校祭など様々なイベントの最後を経験しました。様々な最後を迎え、校内の学生の数も少なくなる状況に寂しさを感じることもありました。しかし少ない人数であるからこそ、クラスの皆で協力する場面が多く絆が深まったように感じます。

3年間で思い返すと数えられないほどの思い出がありますが、実習での経験は特に心に残っています。初めて患者さんと接した時の緊張感、患者さんの回復の力になれたり、感謝の言葉をいただいた時の嬉しさは今でも忘れられません。実習で出会った患者さんやスタッフの方から学んだことは、私の看護師としての道を支える大切な宝物です。これからも、学んだ知識と経験を活かして、より良い看護を提供できる看護師になりたいです。

## 卒業記念品



2回生  
絵画（スペインの風景）



3回生  
時計



4回生  
校歌（愛とまことと）



金木犀



5回生  
しだれ梅



6回生  
桜



7回生  
校歌



桜



10回生  
絵画（サンピエール協会）



11回生  
絵画（女性と子供）



15回生  
絵画（アナカブリの丘）



16回生  
絵画（薔薇）



18回生  
絵画（五月の街かど）





19回生  
桜



20回生  
桜



21回生  
つつじ



22回生  
桜



23回生  
つつじ



24回生  
桜



25回生  
桜



26回生  
桜



27回生  
桜



28回生  
桜



29回生  
絵画（桜と鶯）



30回生  
棚



31回生  
ホワイトボード





# 同 窓 会



## 閉校に寄せて

同窓会 葉月会会長 廣田 真里

国立別府病院附属看護学校 第31回生

大分中央看護学校は、平成4年国立別府病院附属看護学校と国立療養所西別府病院附属看護学校が統合して九州で初めての大型校として誕生しました。

同窓会は、新たな看護学校誕生から遅れること三年、大分中央の初めての卒業生が輩出された平成7年に一つに統合され、平成10年8月の第2回同窓会総会において同窓会の名称を「葉月会」としました。

時代は変わって令和となり、18歳人口の減少や看護師の大学教育化が進むなか、国立病院機構の看護師養成に係る方針転換の下、私たちの母校の閉校がきました。

私は、国立別府病院附属看護学校の第31回生(昭和53年～56年)です。入学式の式辞で、当時、教育主事であった荒井博子先生から、昭和50年の学校教育法の改訂により、看護学校が「学校教育に類する各種学校」から「学校教育」に認められ、「専修学校」となったという話がありました。当時の私には、意味があまり理解できませんでしたが、入学式に来ていた両親が感動して、それ以来我が家では荒井先生が伝説の教師となりました。

この時代は、入学生は全寮制で、ほとんどの学生が3年間をその寮で過ごしました。毎週月曜日には全校生徒が集合しての朝礼で、「ナイチンゲール誓詞」を朗読し、月に1回は「みをつくし」を唱えて、看護の心を再確認したものでした。時には校歌も歌っていたように思います。寮のお風呂が温泉というのは、別府ならではの思い出が溢れてきます。当時はプライバシーなどほとんどなく、互いのことを家族よりもよく知っていました。寝食を共にした先輩後輩との関係や寮の自治等を通して、同級生はもとより先輩や後輩との小さな社会の中での生き方を学んだものです。人間関係の在り様、挨拶の仕方から場に合わせた自己の身の処し方、空気の読み方等を学び、それらは社会人になってからも大いに役立ちました。多感な3年間を同じ環境で育った同級生らとは、特に深い絆が生まれ、生涯の友となっています。

別府の卒業生にとっては、思い出の校舎は形としてはありませんが、西別府も別府もそして大分中央看護学校の卒業生皆の心の中には、濃い3年間の思い出が詰まっています。何より、それぞれの学校で培った看護の心は私たち卒業生の誇りとして、しっかり根付いており、仕事の上でも人生の上でも根幹には母校での3年間があります。

開校以来70年に渡って5,000人以上の卒業生を輩出してきた本校の伝統と誇りは、今も日本全国で卒業生たちによって受け継がれています。母校はなくなりますが、本校で培った看護の心は、この地で育った卒業生たちによってこれからも生き続けていくことでしょう。葉月会会員の皆様のご健康とご多幸及び看護教育の益々の発展を祈って、葉月会の解散と致します。

葉月会から、この地に確かに私たちの母校が存在した証として、記念碑を建設させて頂きました。ナースキャップをイメージする清楚な侘助も植栽しています。同窓生の皆様、時間のある時にぜひ、記念碑を見て、懐かしい看護学生時代に思いを馳せてみてください。

最後に、これまで本校と同窓生を支えてくださった多くの皆様に心からお礼を申し上げます。

# 同窓会会則

## 第1章 総 則

(名称)

第1条 本会は独立行政法人国立病院機構別府医療センター附属大分中央看護学校同窓会と称する。

(以下「本会」という)呼称を「葉月会」とする。

(構成)

第2条 本会は国立別府病院附属看護学校卒業生、国立療養所西別府病院附属看護学校卒業生、独立行政法人国立病院機構別府医療センター附属大分中央看護学校卒業生とにより成る。

(目的)

第3条 本会は会員相互の親睦およびその会の向上をはかり、母校の発展に寄与することを目的とする。

(事務所)

第4条 本会は事務所を独立行政法人国立病院機構別府医療センター附属大分中央看護学校に置く。

## 第2章 組 織

(会員)

第5条 本会の会員は正会員、特別会員をもって組織する。

1. 正会員：卒業生全員
2. 特別会員：本学校の学校長・副学校長・教育主事・教官ならびに学校の指導者であり、役員会で推薦を受け、総会の承認を得た者。

(役員)

第6条 本会は下記の役員を置く。

1. 会 長 1名
2. 副会長 3名
3. 書 記 2名
4. 会 計 2名
5. 代議員 6名<各学校から2名ずつ>

(選出・任務)

第7条 役員を選出は会員の推薦による。任務は下記の通りとする。

1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長が支障ある時はその職務を代行する。

3. 書記は本会の庶務を司る。

4. 会計は本会の会計を司る。

5. 代議員は会の推薦を図り、会務を分担し、執行する。

第8条 本会には会計監査2名を置く。

1. 会計監査は会員より選出し、財産の状況及び収入・支出の状況を監査する。

(顧問)

第9条 本会には顧問を置く。

顧問は、本学校の学校長・副学校長とし、本会の運営に関する相談役とする。

(任期)

第10条 1. 役員任期は3ヶ年とし、再任を妨げない。

2. 役員改選については、以下とする。

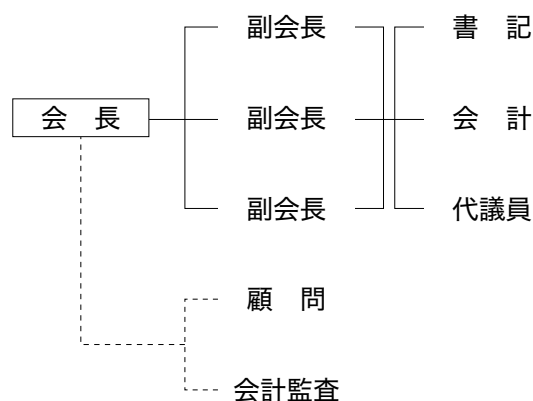
- 奇数年時に開催される総会において、会長・副会長1名・書記1名・会計1名・代議員3名を改選する。

- 偶数年時に開催される総会において、副会長2名・書記1名・会計1名・代議員3名を改選する。

3. 役員に欠員が生じた場合は補充する。

ただし、その任期は前任者の残任期間とし、欠員の役員(会長、副会長を除く)については役員会の承認を経て会長が任命することができる。

(組織図)





### 第3章 会 議

(役員会)

第11条 本会に役員会を置く。役員会は会長、副会長、書記、会計、代議員をもって組織する。

第12条 役員会は、本会の審議機関として、必要に応じて会長が開催する。

第13条 役員会は、予算及び決算の審議、事業の計画、総会において決定した事業の処理、その他必要なことを審議する。

(総会)

第14条 1. 本会は3年に一回（8月第1日曜日）に総会を開催する。

2. 災害時は総会を中止する。

第15条 総会は、庶務・会計に係る報告の承認、役員の改選、その他提出議題の議決をする。

第16条 会計は必要と認めた時は、臨時総会を開催することができる。

第17条 総会の議決は、出席正会員の3分の2以上の賛成をもって成立するものとする。

### 第4章 会 計

(会計)

第18条 本会の資金は会費・寄付金及びその他の収入金をもって、これにあてる。

(会費)

第19条 本会の正会員は、終身会費2,000円を卒業時に納入する。

総会会費は出席者より徴収する。

(会計年度)

第20条 本会の会計年度は、総会の月に始まり、次の総会の前月末日をもって終わる。

(会報)

第21条 会報は総会開催年に会務の報告その他必要な事項を記載し、会員全員に配布する。

### 第5章 雑 則

(会員名簿)

第22条 1. 会員は会員名簿調整の資料として、変更のあった場合は自己の職業、住所、改姓、勤務先を本会に報告する義務がある。

2. 会員名簿は本会が管理する。

(給付)

第23条 1. 会員及び特別会員死亡の際、正式に本会事務所宛通知があった時には弔電を送り弔慰を表す。

2. 会員及び特別会員の叙勲の場合は祝電を送る。

3. 看護学校の入学式、戴帽式には生花一基を贈る。

卒業式にはコサージュを贈る。

4. 国家試験の受験前日に激励電報を送る。

(会則の変更)

第24条 本会会則の変更は、総会議決によって、出席正会員の3分の2以上の賛成をもって成立するものとする。

### 附 則

この会則は平成7年11月19日から施行する。

この会則は平成13年8月5日から施行する。

平成16年4月1日独立法人化に伴い名称が変更となる。

この会則は平成19年8月5日から施行する。

この会則は平成22年8月1日から施行する。

この会則は平成25年8月4日から施行する。

この会則は平成28年8月7日から施行する。

この会則は令和1年8月4日から施行する。

この会則は令和4年8月7日から施行する。

国立別府病院  
 附属看護学校歌

作詩 川島つゆ  
 作曲 千本延隆

MM ♩ = 120

*mf*

1. し ろ - た - え の - お と め の - は な - の さ  
 2. か す - み - た つ - そ の う の - く さ - の に

き き お う - い で ゆ の - さ と - の か  
 お や か に - あ さ の い - の リ - の つ

め - が - わ や - あ つ - き お も - い の き  
 つ - ま - し く - きょ う - も つ か - えん や

*f*

*mf*

わ み な く - い の - ち い き - よ と い  
 み び と の - こ こ - ろ の つ - え と み

*mf*

と - す - じ に - み お や の - ち か - い う  
 を - な - し て - み お や の - ち か - い う

*mf*

け - つ - ぎ し - せ い な る - と も - し か  
 け - つ - ぎ し - せ い な る - と も - し か

か - げ - つ つ -  
 か - げ - つ つ -

昭和36年6月作曲

一 白妙しらたえの

おとめの花の 咲き競きこう  
温泉いづみの里の 亀川かめがわや  
熱あつき おもいの きわみなく  
いのち生きよと ひとすじに

み祖おやのちかい うけつぎし  
聖なる燈火ともし かかげつつ

二 かすみたつ

園生そのうの草の 匂におやかに

朝あさのいのりの つつましく  
今日けふもつかえん 病やまみ人の  
こころの杖つゑと 身をなして

み祖おやのちかい うけつぎし  
聖なる燈火ともし かかげつつ

三 風すさぶ

夕ゆふべ落葉らくえつの うちしきり  
なげきの声こゑの 満みつるとき  
ちかうわきくる 身のうちに  
つかわされたる おみなわれ

み祖おやのちかい うけつぎし  
聖なる燈火ともし かかげつつ

四 まどかなる

かまどの山やまに かこまれて

窓まどべしずまる よもすがら  
めぐる靴くつおと ひそやかに  
ひとみ生なきたり 闇やみのそこ

み祖おやのちかい うけつぎし  
聖なる燈火ともし かかげつつ





昭和63年頃の国立別府病院附属看護学校宿舍



旧看護学校跡に建つ記念碑

# 国立療養所西別府病院附属看護学校校歌

作詞 大友芳雄  
作曲 辛島武雄

MODERATO ♩ = 92



1. しろたえのころもすがしくゆの  
2. おとめごのおもいはあつくやさ



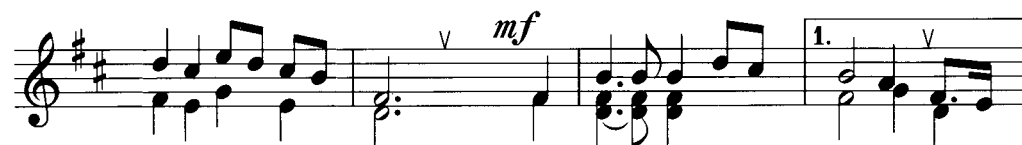
ま ち の お か に か が ー よ う  
し か る こ こ ろ に ひ ー か る



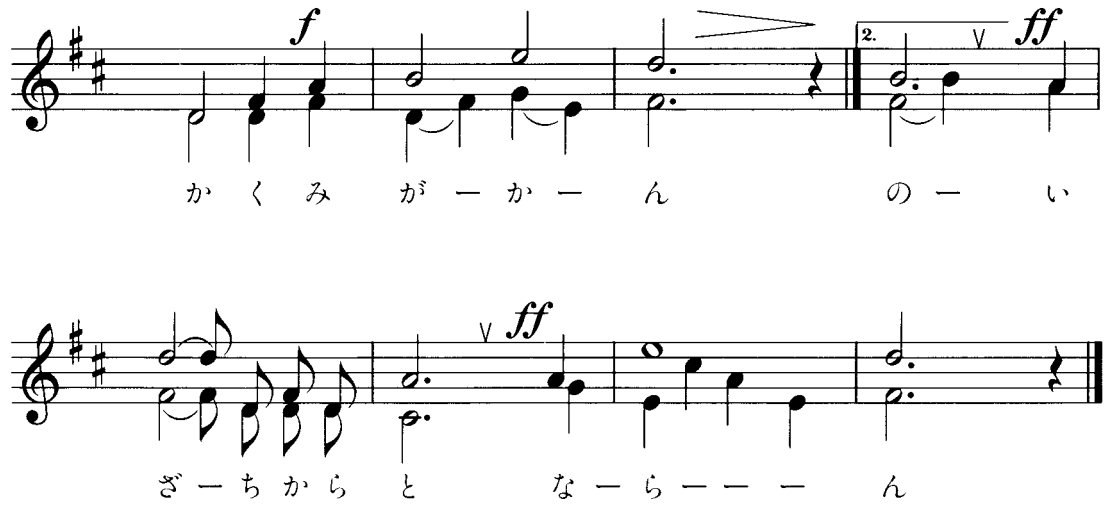
でんとうのきよきともしびたか  
あだらしきちせいゆたかにはく



らかにつどいてまなぶわかきわれらきぼ  
あいのいのちみなぎるわかきわれらきぼ



うにもえーて みとりのわーぎをふー  
うにいーきーて やむーひとー



一、白妙の衣すがしく  
 湯の町の丘に輝よう  
 伝統の聖き灯火  
 高らかに集いて学ぶ  
 若きわれら  
 希望に燃えて  
 看護の技を深く磨かん

二、乙女子のおもいは熱く  
 優しかるころに光る  
 新しき知性ゆたかに  
 博愛のいのちみなぎる  
 若きわれら  
 希望に生きて  
 病む人のいざ力とならん



平成4年頃の国立療養所西別府病院附属看護学校



統合時建てられた記念碑



# 別府の風景



別府の湯けむり



別府の湯けむり



別府 竹瓦温泉



べっぶ地獄めぐり～海地獄～



由布岳とミヤマキリシマ



神楽女湖花しょうぶ







別府の湯けむり



湯けむり展望台からの景色



扇山火まつり



亀川夏まつり



別府駅



鶴見岳の霧氷



## 編集後記

国立病院機構別府医療センター附属大分中央看護学校は、令和7年3月31日をもって、長い歴史に幕を閉じることとなりました。

当校の前身は昭和23年(1948年)に開学した国立亀川病院附属高等看護学院で、その後国立別府病院附属高等看護学院、国立別府病院附属看護学校と変遷いたしました。それから平成4年(1992年)4月に国立別府病院附属看護学校と国立療養所西別府病院附属看護学校が統合大型化し、これまでに地域に貢献する看護師養成に取り組んでまいりました。

閉校にあたり、学校運営会議で閉校記念誌を発刊することが決定し、それからは毎月閉校記念誌担当ミーティングを行い、33年間の歴史を紐解いていきました。学校中のありとあらゆる場所にある資料を集め、その中身を確認していくと、歴史と伝統の重みを感じました。

この歴史と伝統を後世に伝承するために、特に重要な資料だったのは、各回生が残した卒業アルバム、10周年・20周年記念誌でした。当初は、20周年以降の学校の歩みを中心としたものにしようと思いましたが、やはり歴史と伝統を伝承する貴重な資料となることを鑑み、1回生～33回生の代表者に学校の思い出や近況等をメッセージとしていただき、その時代を物語る写真等を散りばめ、学校の歴史が読み取れるものいたしました。

また、歴代の学校長、副学校長、教育主事、同窓会の皆様にも大分中央看護学校での学校運営や別府市・亀川地区での思い出についてメッセージを沢山頂戴いたしました。これらの寄稿文を拝読しますと、教育の歴史、閉校への悲しさ、未来への発展等の多くの気持ちが轟々と伝わってまいりました。

本校の校章は、太陽と海(波)、温泉、別府市の花であるオオムラサキからイメージして表現しています。これには、「熱き心」、「輝き」、「深さ」、「世界への広がり」といった意味が込められています。大分中央看護学校で看護について学び、熱き心をもった卒業生が様々な世界で活躍されていることをイメージし、本誌の表紙は明るい太陽で照らされた本校建物を真っ青な青空をバックにした基調といたしました。

時代はデジタル化が進んでおり、様々な媒体は紙ベースからデータ保存に変化しております。その時代の変化を考慮し、本記念誌は冊子以外にもクラウドに保管し、関係者の皆様にはいつでも閲覧可能といたしました。本校に関わられたすべての皆様が、当時を思い出し懐かしんでいただければ幸いです。

最後になりますが、本閉校記念誌作成にあたりご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

国立病院機構別府医療センター附属大分中央看護学校  
教育主事 村上 由紀

### 《閉校記念誌編集委員》

学 校 長	末 永 康 夫	教育主事	渡 邊 眞 弓
副 学 校 長	川 中 博 文	教育主事	村 上 由 紀
運 営 委 員	大 城 英 作	教 員	野 中 智 恵
運 営 委 員	辻 丸 祐 規 子	教 員	杉 安 久 美
運 営 委 員	森 貴 史	教 員	平 川 真 紀
運 営 委 員	山 梨 祥 吾	教 員	山 田 祐 子
		教 員	大 道 真 理
		教 員	高 木 雅 弘
		教 員	田 尻 朝 恵
		教 員	寺 川 孝 枝

# 閉校記念誌

令和7年2月発行

編集発行 **独立行政法人 国立病院機構  
別府医療センター附属大分中央看護学校**  
大分県別府市大字内竈 1473 番地  
TEL. 0977-67-1111 (代表)

印刷製本 **有限会社 中央印刷**  
大分県大分市顕徳町2丁目2-38  
TEL. 097-532-3805

